

鏡狀ニ結合シタル標章ハ外觀上右各登録商標ノ孰レトモ類似ノモノニシテ兩圖形ヲ結合シタル爲其ノ類似性ヲ阻却スルモノニ非ス【要旨第一】

二商標法第二十四條ニ依リ商標ニ關シ準用セララル特許法第四十五條ニ所謂第三者トハ商標權移轉ノ場合ニ於テハ其ノ移轉ノ登録ノ欠缺ヲ主張スルニ付正當ナル利益ヲ有スル者ノミヲ指稱シ其ノ登録商標ノ不法使用者ノ如キハ之ヲ包含セサルモノトス【要旨第二】

【參照】商標法第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓

以下ノ罰金ニ處ス

- 一 他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ販賣シ若ハ交付販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者
- 二 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ交付シ若ハ販賣シ又ハ其ノ交付販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者
- 三 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルノ目的又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ偽造又ハ模造シタル者
- 四 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ使用シタル同一又ハ類似ノ商品ヲ交

付販賣ノ目的ヲ以テ輸入又ハ移入シタル者

五 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルノ目的又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ輸入又ハ移入シタル者

六 他人ノ登録商標ヲ偽造若ハ模造スルノ目的又ハ偽造若ハ模造セシムルノ目的ヲ以テ其ノ用具ヲ製作交付販賣又ハ所持スル者

七 同一又ハ類似ノ商品ニ關シ他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノモノヲ營業ニ用キル廣告看板引札物價表ノ類又ハ取引書類ニ使用シタル者

同法第二十四條 特許法第十三條第十六條乃至第三十條、第三十二條、第三十三條、第四十五條、第五十八條第一項第三項、第六十八條、第七十一條、第七十二條、第七十三條第一項第二項、第四項、第七十四條乃至第七十七條、第八十條乃至第八十三條、第八十六條乃至第一百五條、第一百七條、第九條乃至第一百五條ノ二、第一百七十七條乃至第二百二十四條及第二百二十八條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス但シ第七十三條第一項第二項第四項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ商標權存續期間更新ノ登録出願ニ付之ヲ準用セス

特許法第四十五條 特許權ノ移轉拋棄ニ依ル消滅若ハ處分ノ制限又ハ特許權ヲ目的トスル實權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ハ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定被告人並辯護人ノ主張ニ對スル判斷及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金

二個ノ登録商標ト殆ト同一ナル圖形ヲ結合シタル標章ト其ノ類似性 特許法第四十五條ニ所謂第三者ノ意義

五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ東京市下谷區上野町二丁目十八番地ニ店舗ヲ設ケ時計蓄音機寶石等ノ貿易業ヲ營ミ主トシテ米國ヴィクター蓄音機會社製ノラヂオ蓄音機等ノ輸入並販賣ニ從事シ來リタルモノナルトコロ

昭和四年頃ヨリ現在ニ至ル迄引續キ右店舗ニ於テ何等正當ナル權限ナキニ拘ラス亞米利加合衆國ニニューヨーク州ブロードウエイ二百三十三番所在ラヂオコーボレーションオブアメリカ(略稱アールシーエー)カ我國ニ於テ大正十四年三月二十三日登録ヲ經タル登録番號第一六九二八號ノ「圓内ニRCAT横記セル圖形」ナル無線通信機ノ商標並同國ニユージヤーシー州カムデン市シーサイドパーク所在「ヴィクタートーキングマシンカムパニー」カ執レモ我國ニ於テ明治三十八年五月八日登録大正十四年七月二十日更新登録ヲ各經タル登録番號第二三三五八號ノ「犬印」ナル蓄音機ノ商標及大正十五年二月十七日登録ヲ經タル登録番號第一七七一二號ノ「犬印」ナル無線電話器具ノ商標ト略同一ナルモノヲ結合シタル類似ノ標章ヲ前記ラヂオ蓄音機等ノ同一又ハ類似ノ商品ニ關シ營業ニ用キル取引用便及型録ニ使用シタルモノナリ

被告人並辯護人ハ被告人ノ使用シタル本件標章ハヴィクタートーキングマシンカムパニー並ラヂオコーボレーションオブアメリカカ日本ニ於テ登録ヲ得タル判示商標ト同一又ハ類似ノモノニアラス之ト全然別異ナル特別顯著性ヲ有スル新標章ナリト主張スレトモ被告人使用ノ標章カ其ノ要部ニ於テ判示ヴィクタートーキングマシンカムパニーノ登録商標タル「蓄音機ヲ聞ケル動作ヲ爲セル犬ノ圖形」並ラヂオコーボレーションオブアメリカノ登録商標タル「圓内ニRCAT横記セル圖形」ト殆ント同一ナル圖形ヲ綜合セルモノナルコトハ前示證據說明ニ引用シタル商標登錄證明書ニ表示シアル判示商標ト取引用紙及型録ニ使用シアル被告人ノ標章トノ對照上洵ニ明白ナルヲ以テ被告人使用ノ

本件標章ハ其ノ外觀又ハ稱呼上「犬ノ圖形」ヲ使用セル點ニ於テ判示ヴィクタートーキングマシンカムパニーノ登錄商標ト「圓内ニRCAT横記セル圖形」ヲ使用セル點ニ於テ判示ラヂオコーボレーションオブアメリカノ登錄商標ト夫々相類似シ其ノ離隔的觀察ニ於テ彼是相紛ハレ易ク之等ノ商標ト誤認混同セラルノ虞アリト認メサルヘカラス從テ被告人使用ノ本件標章ハ一面ニ於テ判示ヴィクタートーキングマシンカムパニーノ登錄商標ト類似スルト同時ニ他面ニ於テ判示ラヂオコーボレーションオブアメリカノ登錄商標ト相類似スルモノト謂フヘク單ニ二個ノ登錄商標ヲ混合セルノ故ヲ以テ其ノ孰レトモ同一又ハ類似セルモノニアラスト被告弁辯護人ノ所論ノ首肯シ能ハサルコト勿論ニシテ此主張ニシテ是認セラレンカ既ニ爲サレタル商標登錄ノ效果ハ著シク減殺セラレ商標ノ誤認ニ依リ商品ノ混同ヲ來タシ不正ノ競争ヲ生センコトヲ防止センカ爲ニ設ケラレタル商標登錄ノ本旨ニ反スルニ至ルヘキヲ以テ右主張ハ之ヲ採用シ難シ

次ニ辯護人ハヴィクタートーキングマシンカムパニーカ日本及米國ニ於テ登録ヲ得タル判示商標權ハ其ノ營業ト共ニ他ノ會社ニ移轉セラレ之ト同時ニ判示商標權ハ消滅ニ歸シタル旨主張スルヲ以テ進ンテ此ノ點ニ付審按スルニヴィクタートーキングマシンカムパニーカ日本及米國ニ於テ登録ヲ得タル判示「犬印」ノ商標權ヲ昭和七年(西曆一九二一年)五月二十六日其ノ營業ト共ニアールシーエーヴィクターカンパニーインコーボレートツドニ讓渡シ右會社亦之ヲ其ノ營業ト共ニ昭和十年(西曆一九三五年)一月一日アールシーエーマヌファクチュリングカンパニーインコーボレートツドニ讓渡シタルコトハ辯護人提出ニ係ル英文證明書寫及同譯文(昭和十一年押第九九一號ノ四九)ノ記載ニ依リ之ヲ肯認シ得ヘシ而シテ右ヴィクタートーキングマシンカンパニーハ右ノ如ク商標權ヲ他ニ移轉シタルカ爲其ノ商標權者タルノ資格ヲ喪失スヘキハ當然ナリト雖之ト同時ニ該商標權自體カ日本ニ於テ當然消滅スヘシトスル法的根據ハ全然存在セス殊ニ同會社ノ營業ハ右商標權ノ移轉ト同時ニ廢止セラレタルモノニアラスシテ前段認定ノ如

二個ノ登錄商標ト殆ト同一ナル圖形ヲ結合シタル標章ト其ノ類似性 特許法第四十五條ニ所謂第三者ノ意義

ク之ト共ニアールシーエーヴイクターカンパニーインコーポレーテッドニ移轉セラレタルモノナルヲ以テ右商標權ノ移轉ハ適法ニシテ右商標權ハ依然有效ニ存続セルモノト認ムヘキヤ論ヲ俟タス尤モ前段認定ノ判示商標權ノ移轉ニ付我國ニ於テ登録ヲ經タル事跡ハ之ヲ認ムヘキモノナシト雖商標法第二十四條ニ依リ準用セラルル特許法第四十五條ニ所謂第三者トハ商標權者ニ非スシテ登録ノ欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利益ヲ有スル者ノミヲ指稱シ被告人ノ如ク不法ニ類似ノ標章ヲ使用スル者ヲ包含セサルモノト解スルヲ相當トスルカ故ニ被告人ニ於テ右商標權移轉ニ關スル登録ノ欠缺ヲ主張シ其ノ權利ノ存続ヲ否定シ能ハサルモノナルヲ以テ結局辯護人ノ本主張亦之ヲ採用スルニ由ナキモノトス法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ商標法第三十四條第七號ニ該當スルコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ犯情重キヲチオコーボレーションオブアメリカノ登録シタル商標ノ類似標章ヲ使用シタル罪ノ刑ニ從ヒ處斷スヘク其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人林逸郎上告趣意書第一點第二審判決ハ其ノ理由ニ於テ「被告人ハ(中略)亞米利加合衆國ニユーヨーク州ブロードウエー二百三十三番所在ヲチオコーボレーションオブアメリカ(略稱アトルシー

エー)カ我國ニ於テ大正十四年三月二十三日登録ヲ經タル登録番號第一六九六二八號ノ「圓内ニ四〇」ト横記セル圓形」ナル無線通信機ノ商標竝同國ニユージャーシー州カムデン市シーサイドパーク所在「ヴイクタートーキングマシンカンパニー」カ執レモ我國ニ於テ明治三十八年五月八日登録大正十四年七月二十日更新登録ヲ各經タル登録番號第二三三五八號ノ「犬印」ナル蓄音機ノ商標及大正十五年二月十七日登録ヲ經タル登録番號第一七七七一號ノ「犬印」ナル無線電信機ノ商標ト略同一ナルモノヲ結合シタル類似ノ商標ヲ前記ヲチオ蓄音機等ノ同一又ハ類似ノ商品ニ關シ營業ニ用ユル取引用便箋及型録ニ使用シタルモノナリ」ト判示シタリ然リ而シテ法律ヲ適用スルニ當リ「被告人ノ判示所爲ハ商標法第三十四條第七號ニ該當スルコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ犯情重キヲチオコーボレーションオブアメリカノ登録シタル商標ノ類似標章ヲ使用シタル罪ノ刑ニ從ヒ處斷スヘク(後略)」ト説示シタリ按スルニ商標法第三十四條第七號ニ所謂「同一又ハ類似ノ商品ニ關シ他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノモノヲ營業ニ用ユル廣告引札物價表ノ類又ハ取引書類ニ使用シタル者」ト云フハ甲者在リテ商標權者乙者ノ登録商標ト同一又ハ類似ノモノヲ使用シタル場合ヲノミ指稱スルモノニシテ甲者アリ商標權者乙者ノ登録商標ト類似スルト同時ニ商標權者丙者ノ登録商標ト類似スルモノヲ使用シタル場合ヲ豫想セス何トナレハ商標權者乙者ノ登録商標ト類似スルモノハ即商標權者丙者ノ登録商標ト類似セサルヲ特徴トスルモ

二個ノ登録商標ト殆ト同一ナル圓形ヲ結合シタル標章ト其ノ類似性 特許法第四十五條ニ所謂第三者ノ意義

ノナラサルヘカラス商標權者丙者ノ登録商標ト類似スルモノハ即商標權者乙者ノ登録商標ト類似セサルヲ特徴トスルモノナラサルヘカラスレハナリ果シテ然ラハ商標法第三十四條第七號ニ該當スル所爲ニシテ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ハ斷シテ之アルヘキ筋合ナシ即第二審判決ハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法アリ到底破毀ヲ免脱スルコト能ハスト云ヒ同第二點第二審判決ハ其ノ理由ニ於テ被告人竝辯護人ノ主張ヲ排斥シ「被告人竝辯護人ハ被告人ノ使用シタル本件標章ハツイクタイトーキングマシオンカンバニ一並ラデオコーボレイシヨノブアメリカカカ日本ニ於テ登録ヲ得タル判示商標ト同一又ハ類似ノモノニアラス之ト全然別ナル特別顯著性ヲ有スル新標章ナリト主張スレトモ被告人使用ノ標章カ其ノ要部ニ於テ判示ツイクタイトーキングマシオンカンバニ一ノ登録商標タル「音機ヲ開ケル動物ヲ配セル犬ノ圖形」並ラデオコーボレイシヨノブアメリカカノ登録商標タル「圓内ニRCOト横記セル形」ト殆ント同一ナル圖形ヲ結合セルモノナルコトハ前示證據説明ニ引用シタル商標登録證明書ニ表示シタル判示商標ト取引用紙及型錄ニ使用シタル被告人ノ標章トノ對照上洵ニ明白ナルヲ以テ被告人使用ノ本件標章ハ其ノ外觀又ハ稱呼上「犬ノ圖形」ヲ使用セル點ニ於テ判示ツイクタイトーキングマシオンカンバニ一ノ登録商標ト一圓内ニRCOト横記セル圖形」ヲ使用セル點ニ於テ判示ラデオコーボレイシヨノブアメリカカノ登録商標ト夫々相類似シ其ノ離隔的觀察ニ於テ彼是レ相紛ハレ易ク之等ノ商標ト誤認混同セラルルノ虞アリト認メサルヘカラス從ツテ被告人使用ノ本件

標章ハ一面ニ於テ判示ツイクタイトーキングマシオンカンバニ一ノ登録商標ト類似スルト同時ニ他面ニ於テ判示ラデオコーボレイシヨノブアメリカカノ登録商標ト相類似スルモノト謂フヘク單ニ二個ノ登録商標ヲ結合セルノ故ヲ以テ其ノ孰レトモ同一又ハ類似セルモノニアラストスル被告人竝辯護人ノ所論ノ首肯シ能ハサルコト勿論ニシテ此ノ主張ニシテ是認セラレシカ既ニ爲サレタル商標登録ノ效果ハ著シク減殺セラレ商標ノ誤認ニ依リ商品ノ混同ヲ來シ不正ノ競争ヲ生センコトヲ防止センカ爲ニ設ケラレタル商標登録ノ本旨ニ反スルニ至ルヘキヲ以テ右主張ハ之ヲ採用シ難シト説示シタリ然レトモ被告人竝辯護人カ第二審ニ於テ供述竝辯論要旨ニ依リ審ニ主張シタル如ク被告人ノ使用スル標章ハ一個ノ主要部分ト他ノ主要ナル部分ト結合シタルモノニアラス二個(又ハ三個)ノ主要部分ヲ相對等ニ結合シタルモノニシテ從ツテラデオコーボレイシヨノブアメリカカカ日本ニ於テ登録ヲ得タル商標ト類似ノモノニ非ス又ツイクタイトーキングマシオンカンバニ一カ日本ニ於テ登録ヲ得タル商標ト類似ノモノニ非ス右ノ事實ハ辯第五號證一乃至十六ニ於テ立證スル通り被告人カ其ノ使用スル標章ノ登録ヲ出願シタルニ對シ日本特許局カ日本ニ於テ未タ登録セラレサル新標章ト類似スルモノナリトシテ之カ査定ヲ爲ササリシニ徴シ餘リニモ明白ナリ更ニ又辯第八號證ニ於テ立證スル通り米國特許局カ被告人ノ使用スル標章ト同一ノモノニ對シ新ニアルシトエアマヌアタクチュアリングカンバニ一インコーボレイテッドノ爲ニ新商標トシテノ登録ヲ爲シタルニ徴シ論義ノ餘地ナシ此ノ故ニ「被

二個ノ登録商標ト殆ト同一ナル圖形ヲ結合シタル標章ト其ノ類似性 特許法第四十五條ニ所定第三者ノ意義

告人使用ノ本件標章ハ一面ニ於テ判示ウイクター・ト・キング・マシオン・カンパニーノ登録商標ト類似ス
ルト同時ニ他面ニ於テ判示ラデオ・コーポレーション・オブ・アメリカノ登録商標ト類似スルモノト謂フ
ヘク單ニ二個ノ登録商標ヲ結合セルノ故ヲ以テ其ノ執レトモ同一又ハ類似セルモノニアラストスル被
告人並辯護人ノ所論ノ首肯シ能ハサルコト勿論ナリト爲ス第二審判決ノ説示ハ無基ニモ日本特許局
ノ査定ヲ侮蔑蹂躪シ且米國特許局ノ新商標登録ヲモ無視排除シタル言語ニ絶スル違法極マルモノニシ
テ從ツテ第二審判決カ當然破毀セラルヘキハ素ヨリ勿論ナル所ナリト云フニ在レトモ

原判決判示事實及其ノ引用證據ニ依レハ被告人カ判示營業ノ取引用便箋及型録ニ使用シタル標章ハ判
示登録商標圓内ニ「B・O・A」ト横記セル圖形ト殆ント同一ナル圖形ト判示登録商標犬印即蓄音機ヲ聞ケル
動作ヲ爲セル犬ノ圖形ト殆ント同一ナルモノヲ圓ヲ以テ圍ミタル圖形トヲ眼鏡狀ニ結合シタルモノナ
レハ圓内ニ「B・O・A」ト横記セル圖形ヲ使用シタル部分ニ於テハ前者ト殆ント同一又犬印圖形ヲ使用シタ
ル部分ニ於テハ後者ト殆ント同一ニシテ右ノ如ク結合シタル構圖全體トシテ之ヲ觀察スルモ本件標章
ハ外觀上右各登録商標ノ執レトモ相紛ハシク彼此混同誤認セラルル虞アリト認ムヘキヲ以テ類似ノモ
ノト謂フヲ得ヘク單ニ兩圖形ヲ結合シタルノ一事ニ依リテハ其ノ類似性ヲ阻却スルカ如キ特異ノモノ
ニ變形スルモノニ非サレハ原判決ノ所論説示ハ正當ニシテ毫モ違法ノ點アルコトナク又被告人ノ右
標章使用ノ一行爲ハ同時ニ右各登録商標ト類似ノモノヲ使用シタルモノトシテ原判決擬律ノ如キ數個

【要旨第一】

ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ原判決ニハ所論ノ如キ不當ニ法律ヲ適用シタル違法アルモノト謂フヲ
得ス論旨執レモ理由ナシ

第三點第二審判決ハ又其ノ理由ニ於テ辯護人ノ主張ヲ排斥シ「辯護人ハウイクター・ト・キング・マシ
ンカンパニーカ日本及米國ニ於テ登録ヲ得タル判示商標權ハ其ノ營業ト共ニ他ノ會社ニ移轉セラレ之
ト同時ニ判示商標權ハ消滅ニ歸シタル旨主張スルヲ以テ進ンテ此ノ點ニ付審按スルニウイクター・ト・
キング・マシオンカンパニーカ日本及米國ニ於テ登録ヲ得タル判示「犬印」ノ商標權ヲ昭和七年（西曆
一九三一年）五月二十六日其ノ營業ト共ニアール・シー・エイ・ヴイクター・カンパニー・イン・コーポ
レイトツ
ドニ讓渡シ右會社又之ヲ其ノ營業ト共ニ昭和十年（西曆一九三五年）一月一日アール・シー・エイ・マ
スク・アクト・ユア・リング・カンパニー・イン・コーポレイトツドニ讓渡シタルコトハ辯護人提出ニ係ル英文證明書
寫及同譯文（昭和十一年押第九九一號ノ四九）ノ記載ニ依リ之ヲ肯認シ得ヘシ而シテ右ウイクター・
ト・キング・マシオンカンパニーハ右ノ如ク商標權ヲ他ニ移轉シタルカ爲其ノ商標權者タルノ資格ヲ喪失
スヘキハ當然ナリト雖之ト同時ニ該商標權自體カ日本ニ於テ當然消滅スヘシトスル法的根據ハ全然存
在セズ殊ニ同會社ノ營業ハ商標權ノ移轉ト同時ニ廢止セラレタルモノニアラスシテ前段認定ノ如ク之
ト共ニアール・シー・エイ・ヴイクター・カンパニー・イン・コーポレイトツドニ移轉セラレタルモノナルヲ以テ
右商標權ノ移轉ハ適法ニシテ右商標權ハ依然有效ニ存續セルモノト認ムヘキヤ論ヲ俟タズ尤モ前段認

二個ノ登録商標ト殆ト同一ナル圖形ヲ結合シタル標章ト其ノ類似性 特許法第四
十五條ニ所謂第三者ノ意義

定ノ判示商標權移轉ニ付我國ニ於テ登録ヲ經タル事跡ハ之ヲ認ムヘキモノナシト雖商標法第二十四條ニ依リ準用セラルル特許法第四十五條ニ所謂第三者トハ商標權者ニ非スシテ登録ノ欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利益ヲ有スル者ノミヲ指稱シ被告人ノ如ク不法ニ類似ノ標章ヲ使用スル者ヲ包含セサルモノト解スルヲ相當トスルカ故ニ被告人ニ於テ右商標權移轉ニ關スル登録ノ欠缺ヲ主張シ其ノ權利ノ存續ヲ否定シ能ハサルモノナルヲ以テ結局辯護人ノ本主張亦之ヲ採用スルニ由ナキモノトス」ト説示シタリ然リト雖商標法第二十四條ニ依リ準用セラルル特許法第四十五條ニ所謂第三者トハ日本特許局竝日本入全部ヲ汎稱スルモノナルコトハ既ニ論義ノ盡キタル所ニシテ獨リ被告人ノミヲ除去スル所以アルコトナシ假リニ第二審判決ノ所論ニ從ハンカ登録ヲ以テ唯一ノ生命トスル特許法商標法存在ノ意義ハ喪ハレ取引ノ安全ハ因亂シテ殆ント策ヲ設クルニ由ナキニ至ランコト必セリ即此ノ點ニ於テモ亦第二審判決ハ許容シ難キ法律解釋上ノ欠缺アルモノニシテ破毀ヲ免ルルコト能ハスト云フニ在レトモ商標法第二十四條ニ依リ商標ニ關シ準用セラルル特許法第四十五條ニ所謂第三者トハ商標權移轉ノ場合ニ於テハ其ノ移轉ノ登録ノ欠缺ヲ主張スルニ付正當ナル利益ヲ有スル者ノミヲ指稱スルモノニシテ不法ニ他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノモノヲ使用スル者ノ如キハ之ニ包含セサルモノナルヲ以テ登録ニ依リ發生シタル商標權ノ移轉ハ其ノ登録ヲ受ケサル場合ニ於テモ之ヲ以テ斯ル不法使用者ニ對抗スルコトヲ得ルモノトサレハ原判決ノ此ノ點ニ關スル説明ハ正當ニシテ所論ノ如キ法律ノ解釋ヲ誤

【要旨第二】

リタル違法アルモノト謂フヲ得ス論旨理由ナシ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事猪俣治六關與

○府會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十二年(れ)第四三七號
同年五月二十五日第四刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 石原勘右衛門 辯護人

牧野芳雄 牧野芳雄
野方 野方
野方 野方
野方 野方
野方 野方

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京刑事地方裁判所

○判示事項

供與罪ノ成立ト供與金ノ所有者——議員候補者ト然ラサル者トノ共謀ニ依ル供與罪ノ罪責

供與罪ノ成立ト供與金ノ所有者 議員候補者ト然ラサル者トノ共謀ニ依ル供與罪ノ罪責

○判決要旨

一 衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ノ供與罪ニ於テ供與金品力共謀者中何人ノ所有ニ屬スルヤハ同罪ノ成立ニ影響ナキモノトス【要旨第一】

二 議員候補者ト然ラサルモノト共謀シテ供與罪ヲ敢行シタル場合ニ於テハ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ノ罪ノ共同正犯ヲ以テ論スヘキモノトス【要旨第二】

【參照】 衆議院議員選舉法第一百十二條第一項 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ

三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ

金錢物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束

ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

(省略)

刑法第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲナシ被告人石原勘右衛門ヲ罰金三百圓ニ被告人新井稻次ヲ罰金二百四十圓ニ處シ被告人等ニ於テ夫々右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金三圓ヲ一日ニ

換算シタル期間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人石原勘右衛門ハ昭和十一年六月十日施行セラレタル東京府會議員選舉ニ際シ東京市澁谷區ヨリ立候補シ同年五月二十一日其ノ届出ヲ爲シタルモノ被告人新井稻次同香取健之助ハ何レモ右候補者ノ法定ノ選舉運動者ニ非サルモノナルトコロ

第一 被告人石原勘右衛門ハ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ被告人新井稻次ハ右石原勘右衛門ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年六月二日頃同市澁谷區幡ヶ谷本町二丁目二百八十八番地ナル右石原勘右衛門方ニ於テ同人ノ選舉委員ナル秋山文治ニ對シ投票取纏等ノ選舉運動ニ盡瘁セシムル報酬トシテ金員ヲ供與センコトヲ共謀シ該共謀ニ基キ被告人新井稻次ハ同夜同區代々木新町二十七番地ナル右候補者選舉事務所附近道路ニ於テ右秋山文治ニ對シ右趣旨ノ下ニ金五十圓ヲ供與シ

第二 被告人石原勘右衛門ハ前同目的ヲ以テ立候補ヲ決意シ居リタル同年五月中旬頃被告人香取健之介ニ對シ投票取纏ノ選舉運動方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ同人ニ對シ前記立候補届出前ナル同年五月十七日頃約金二十圓立候補届出後ナル同月下旬項二回ニ金三十圓合計金五十圓ヲ被告人石原勘右衛門ノ前記居宅ニ於テ供與シ

(中略)

タルモノニシテ被告人石原勘右衛門ノ金錢供與ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人石原勘右衛門ノ判示第一ノ金錢供與ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號刑法第六十條ニ判示第二ノ各金錢供與ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ其ノ立候補届出前ノ選舉運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十五條ノ二第百二十九條ニ各該當スルトコロ右金錢供與ハ犯意繼續ニ係リ且立候補届出前ノ選舉運動ニ依ル金錢供與ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ル

供與罪ノ成立ト供與金ノ所有者 議員候補者ト然ラサル者トノ共謀ニ依ル供與罪ノ事實

ル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前後第五十五條第十條ニ則リ重キ金錢供與ノ刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人石原勘右衛門ヲ罰金三百圓ニ處スヘク被告人新井稻次ノ判示第一ノ金錢供與ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第一號刑法第六十條ニ其ノ無資格選舉運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百二十九條ニ各該當スルトコロ以上ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ金錢供與ノ罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人新井稻次ヲ罰金二百四十圓ニ處スヘク被告人二名ニ於テ右各罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金三圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

原判決中被告人石原勘右衛門ニ關スル部分ヲ破毀ス
被告人石原勘右衛門ヲ罰金三百圓ニ處ス

右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金三圓ヲ一日ニ換算シタル期間同被告人ヲ勞役場ニ留置ス
被告人新井稻次ノ本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人石原勘右衛門辯護人牧野賤男、同牧野芳夫、同東本紀方上告趣意書第一點ハ原判決ハ被告人石原勘右衛門及新井稻次ノ兩名カ共謀ノ上秋山文治ニ對シ金五十圓ヲ供與セル事實ヲ認定シ之ニ對シ刑法第六十條ノ共同正犯ヲ以テ問擬シタリト雖右判決ハ其ノ共同正犯ノ認定ニ當リ前記秋山ニ交付セル

金五十圓カ何人ノ所有ニ屬スル金ナリヤ換言セハ石原ノ金ナリヤ新井ノ金ナリヤノ吟味ヲ怠リ恰カモ本件犯罪ノ消長ニハ其ノ金ノ所有者ハ何人タルヲ問ハサルモノノ如ク判示シタリ然シ乍ラ本件ニ關スル限り其ノ金カ何人ノ所有ニ屬スルヤハ最も重要ナリ即其ノ金カ若シ被告人等ノ主張スルカ如ク被告人石原勘右衛門ヨリ新井稻次ニ對シ工事請負代金ノ内金トシテ昭和十一年六月二日支拂ハレタル金百圓中ノ一部タトスレハ右ハ受領者新井ノ金ナルヘク反之シテ曩ニ石原ノ新井ニ渡セル金百圓ハ工事請負代金トハ名ハカリニシテ實ハ選舉ノ買收費ノ前渡ナリトスレハ其ノ金ハ石原ノモノタラサルヘカラス新井ノ秋山ニ交付セル金カ新井ノモノタトスレハ石原ハ其ノ供與ニ加巧スルコトニナリ又其ノ金カ石原ノ金タトスレハ新井ニ於テソレニ加巧スルコトニナル玆ニ於テ秋山ニ供與セル金ノ所有者ノ如何ハ其ノ犯罪ノ主客ヲ轉倒セシムルナリ之吾人カ其ノ金錢ノ所有關係ヲ明確ニスルコトカ本件ニ於テハ絕對不可缺少ナリト主張スル所以ナリ此ノ點ニ付テハ公判請求書ハ卒直ニ新井ノ秋山ニ交付セル金五十圓ハ「工事請負代金百圓中ヨリ」ト明記シ以テ石原ヨリ新井ニ民法上有效ニ支拂ハレタル換言セハ新井自身ノ金ナルコトヲ明カニセリ然ルニ原判決ハ漫然金五十圓ヲ供與シト判示シテ其ノ金カ如何ナル性質ノモノナルヤ明ニセサルモノニシテ審理不盡ノ誹リヲ免レサルノミナラス事實誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ノ理由存スルモノナリト云ヒ」同第二點ハ原判決ハ被告人石原勘右衛門及新井稻次ヲ共同正犯ヲ以テ問擬シタレトモ原判決舉示ノ各證據ヲ以テスルモ未タ之ヲ肯認スルニ足ラサルナリ即原

供與罪ノ成立ト供與金ノ所有者 議員候補者ト然ラサル者トノ共謀ニ依ル供與罪ノ事實

判決援用ノ被告人石原勘右衛門ニ對スル第一審第一回公判調書ニ依レハ「秋山ハ金カ無クツテ困ツテ居ル様タカラ秋山ニモウ少シヤツタラ什フカ」「今金カ無イ」「多少ヤラナケレハナラヌカラ此ノ金ノ内カラ五十圓ヤツテ置カウカ」「ソレモソウタカ君ノ方テ適當ニ取計ツテ置イテ吳レ宜敷ク頼ム」トアリ仍テ之ヲソノ儘ニ考フルモ被告人石原勘右衛門カ新井ト同一體トナリテ秋山文治ニ金錢ヲ供與セルモノト見ルコトハ困難ニシテ却テ被告人新井稻次ニ於テ自己ノ金錢ヲ供與セントスルニ當リ石原ハ其ノ行爲ヲ制止セス默認セル事實ヲ看取スルニ充分ナリ前記兩人ノ會談ノ内容ヲ捉ヘテ二人カ謀議ヲ遂ケ金錢供與ノ實行ヲ新井ニ擔任セシメタルモノト爲スノ不當ナルヤ言フ俟タサルナリ從テ被告人石原勘右衛門ニ付刑責ヲ云爲セントセハ新井ニ對スル犯行ノ幫助罪ヲ以テ問擬シ満足スヘキモノト信ス然ルニ原判決ハ事茲ニ出テスシテ共同正犯ヲ以テ律シタルハ證據ニ依ラス犯罪ヲ斷シタルカ若クハ擬律錯誤ノ違法アルモノナリト云フニ在レトモ

原判示第一ノ事實ハ既ニ前掲各辯護人ノ論旨ニ對シテ説明セシ如ク原判決舉示ノ當該證據ニ依リテ之ヲ證明シ得ヘク記錄ニ徵スルモ原判決ノ事實ノ認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナク審理ヲ盡ササル點アルコトナシ而シテ原判決カ其ノ判示ノ如キ事實ヲ認定シタル以上ハ判示金圓カ共犯者中ノ孰レノ所有ニ屬セシヤノ如キハ本件犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ナキヲ以テ原判決カ之ヲ明示セサリシトスルモ違法ニアラス然レハ原判決カ被告人等ノ右原判示行爲ニ對シ判示法條ヲ適用

【要旨第一】

處斷シタルハ正當ニシテ原判決ニハ毫モ所論ノ如キ違法アルコトナク論旨孰レモ理由ナシ
被告人石原勘右衛門辯護人牧野賤男、同牧野芳夫、同東本紀方上告趣意書第三點ハ原判決ハ被告人石原勘右衛門及新井稻次ノ各金錢供與ノ點ハ府縣制第四十條ニ依リ準用アル衆議院議員選舉法第百十二條第一項第一號ニ該當スルモノトナシ右兩人ノ所爲ヲ前記同一法條ニ依リ律シタリト雖右擬律タルヤ被告人石原勘右門ノ所爲ニ付テハ同條中「當選ヲ得ル目的ヲ以テ……金錢ヲ供與シ」ニ又被告人新井稻次ノ所爲ニ付テハ同條中「當選ヲ得シムル目的ヲ以テ……金錢ヲ供與シ」ニ各該當セシメタルコト一點ノ疑ナシ蓋右ハ被告人石原勘右衛門ニ對スル第一判示事實ニ「被告人石原勘右衛門ハ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ被告人新井稻次ハ右石原勘右衛門ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ」ト兩人ノ目的意思ノ相違ニ付明言セルニ見テ明カナリ從テ原判決カ右兩人ノ所爲ヲ偶々同一法條ニ依リ律シタリト雖之カ爲之等ノモノノ所爲ヲ同一犯罪視セルモノト速斷スヘキニ非サルナリ然カモ尙原判決ハ兩人ノ所爲カ共同正犯ナルヲ認メタルヲ以テ茲ニ其ノ共犯ノ態樣竝擬律ハ稍複雑ナリト云ハサルヘカラス即被告人石原勘右衛門ニ付テ言ヘハ衆議院議員選舉法第百十二條第一項第一號所定ノ「當選ヲ得ル目的」罪ノ外ニ新井稻次ノ犯行ニ加巧セルカ爲同條ノ「當選ヲ得シムル目的」罪ノ共犯ヲ構成スル(想像的競合罪)ハ勿論新井稻次ノ無資格運動ノ點ノ衆議院議員選舉法第九十六條第百二十九條ノ犯罪ニ付テモ亦共同責任ヲ問ハルルモノトナササルヘカラス果シテ然ラハ以上ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ

供與罪ノ成立ト供與金ノ所有者 議員候補者ト然ラサル者トノ共謀ニ依ル供與罪
ノ罪質

觸ルル場合トシテ刑法第五十四條第一項前段ノ適用ヲ見ルヘク更ラニ又石原カ候補者タル身分ヲ有スル點ニ付刑法第六十五條ヲ考慮スヘキナリ以上ハ被告人新井稻次ニ付テモ亦同様ニシテ即被告人新井稻次ハ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號所定ノ「當選ヲ得シムル目的」罪ノ外ニ石原勸右衛門ノ犯行ニ加巧セルカ爲同條ノ「當選ヲ得ル目的」罪ノ共犯ヲ構成スル(想像的競合罪)ハ勿論無資格運動ノ點ニ付衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條ノ犯罪ヲ犯セルモノニシテ且右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合トシテ刑法第五十四條第一項前段ヲ適用スヘク尙新井カ候補者タル身分ヲ有セサル點ニ付刑法第六十五條ヲ考慮スヘキモノナリ右觀シ來レハ原判決カ此ノ點ヲ詳細ニ審理檢討セス漫然共同正犯ヲ認定シ擬律セルハ審理不盡若クハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルナリト云フニ在レトモ

【要旨第二】

府縣制第四十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ノ罪ハ犯罪ノ性質上及同法文ノ構成上議員候補者自身カ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テスルト候補者以外ノモノカ議員候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テスルトヲ問ハス苟モ右孰レカノ目的ヲ以テ金錢等ノ供與ヲ爲シタル場合ニ於テ成立スルモノナルヲ以テ候補者ト然ラサルモノトカ共謀ノ上議員候補者ニ當選ヲ得若ハ得シムル目的ヲ以テ選舉人若ハ選舉運動者ニ金錢ノ供與ヲ爲シタルトキト雖右兩名ハ單ニ右衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ノ罪ノ共同正犯トシテ其ノ罪責ヲ負フヘキモノト解スヘキヲ以テ兩者別種

ノ犯罪ノ成立アリト做ス論旨ハ理由ナク從テ所論ノ如ク別種ノ犯罪ノ成立スルコトヲ前提トシテ原判決ノ擬律ヲ非難スル論旨ハ當ラス然レトモ本件ニ於テ議員候補者タル被告人石原勸右衛門ハ法定ノ選舉運動者ニアラサル被告人新井稻次ト共謀ノ上原判決第一ノ金錢供與罪ヲ敢行シ同人ノ判示無資格運動ニ加功シタルモノナルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ縱令選舉運動ヲ爲シ得ル資格アル者ト雖其ノ資格ナキ者ノ爲シタル無資格運動ニ付同選舉法第九十六條第一項ノ罪責ヲ免レサルコト本院判例ノ示ストコロナルカ故ニ被告人石原勸右衛門ノ敍上行爲ニ付テハ共犯者タル被告人新井稻次ト同様右選舉法第一百十二條第一項第一號ノ外同法無資格運動ニ關スル前示法條等ヲ適用セサルヘカラサルニ拘ラス之ヲ看過シタル原判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノニシテ本論旨ハ此ノ點ニ於テノミ理由アリ然レハ原判決中被告人石原勸右衛門ニ關スル部分ハ破毀ヲ免レス然レトモ事實ノ確定ニ影響ヲ及ホササル法令ノ違反ナルヲ以テ當院自ラ判決スヘキ場合ナリトス仍テ原判決カ被告人石原勸右衛門ニ對シ認定シタル事實ヲ法律ニ照スニ原判示第一ノ金錢供與及無資格運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號第九十六條第一項第二百二十九條刑法第六十條ニ該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ金錢供與罪ノ刑ニ從フヘク同第二ノ各金錢供與ノ點ハ府縣制第四十條前示選舉法第一百十二條第一項第一號ニ其ノ立候補前ノ選舉運動ハ府縣制第三十九條第四十條前示選舉法第九十五條ノ二第二百二十九條ニ

供與罪ノ成立ト供與金ノ所有者 議員候補者ト然ラサル者トノ共謀ニ依ル供與罪ノ罪責

各該當スルトコロ立候補届出前ノ選舉運動ト之ニ依ル金錢供與トハ前同様一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シテ重キ金錢供與罪ノ刑ニ從フヘク而シテ以上各金錢供與ノ罪ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ニ依リ其ノ一罪トシ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ主文ノ罰金額ヲ量定處斷シ右罰金不完納ノ場合ハ同法第十八條ヲ適用シテ金三圓ヲ一日ニ換算シタル期間同被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

仍テ被告人石原勘右衛門ニ對シテハ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ被告人新井稻次ニ對シテハ同法第四百四十六條ニ各則リ主文ノ如ク判決ス
檢事村上常太郎關與

○横領竝法律事務取扱ノ取締ニ關スル件違反被告事件

(昭和十二年(九)第一二〇號
同年五月二十六日第三刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 皆川 芳男 辯護人 佐久間 渡
【第一審】 宇都宮區裁判所 【第二審】 宇都宮地方裁判所

○判示事項

法律事務取扱ノ取締ニ關スル件(昭和八年法律第五十四號)施行ノ前後ニ跨リタル同法第二條ノ罪

○判決要旨

法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第二條所定ノ權利讓受行爲力同法施行前ニ完了シタル場合ニハ縱令同條所定ノ方法ニ依ル權利ノ

法律事務取扱ノ取締ニ關スル件(昭和八年法律第五十四號)施行ノ前後ニ跨リタル同法第二條ノ罪

實行力同法施行後ニ行ハレタリトスルモ同條ニ依リ其ノ罪ヲ問フ
コトヲ得サルモノトス

【参照】昭和八年五月一日法律第五十四號法律事務取扱ノ取締ニ關スル件第二條 何人ヲ問ハス他人ノ權利ヲ讓受ケ訴訟其ノ他ノ手段ニ依リ其ノ權利ノ實行ヲ爲スコトヲ業トスルコトヲ得ス
同附則 本法ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○事實

第二審判決ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年二月ニ處ス但シ當審ニ於ケル未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ第一 飯村喜作ヨリ同人ノ下野中央銀行ニ對スル債務解決ニ供スル爲預リタル同銀行舊株二百六十二株ヲ昭和十一年三月頃擅ニ自己ノ金借ニ付宇都宮市杉原町宇都宮不動產株式會社ニ賣渡擔保トシテ差入レ以テ之ヲ横領シ第二 從來専ラ辯護士ニ非シテ報酬ヲ得ル目的ヲ以テ他人間ノ爭訟事件ノ代理仲裁和解等ヲ爲シ又ハ他人ノ權利ヲ讓受ケ訴訟其ノ他ノ手段ニ依リ其ノ權利ノ實行ヲ爲スコトヲ業トシ之ニ依リテ生計ヲ營ミ居タルモノナル處昭和七年八月二十日株式會社下野產業銀行ヨリ城山自動車合資會社代表社員飯村喜作カ渡邊廣子小倉信義外五名支拂保證ノ下ニ同銀行宛ニ振出シタル金額五千圓ノ約束手形債權ノ取立ノ爲ノ信託讓渡ヲ受ケタルヲ奇貨トシ昭和十一年六月二十六日之ニ基キ宇都宮區裁判所ニ對シ右約束手形ノ各債務者ニ對スル支拂命令ヲ申請シ其ノ頃夫々支拂命令ヲ得タル上同年七月一日宇都宮市新石町ナル渡邊廣子方ニ於テ同人ヨリ金百二十圓ヲ同月三日同市一條町ナル被告人

方ニ於テ小倉信義ヨリ金二十圓ヲ執レモ右支拂保證義務免除ノ代償トシテ受取り以テ他人ノ權利ヲ讓受ケ訴訟等ノ手段ニ依リ其ノ權利ノ實行ヲ爲スコトヲ業トシタルモノナリ

被告人ハ昭和九年九月二十一日宇都宮地方裁判所ニ於テ詐欺竝業務上横領罪ニ依リ懲役八月ニ處セラレ當時右刑ノ執行ヲ終リタルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一ノ所爲ハ刑法第二百五十二條第一項ニ第二ノ所爲ハ法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第二條第四條第一項ニ各該當スルトコロ判示第二ノ罪ノ刑ニ付テハ禁錮刑ヲ選擇シ判示前科アルヲ以テ刑法第五十六條第五十七條ヲ適用シ判示第一ニ對スル有期懲役刑ニ累犯ノ加重ヲ爲シ右ハ併合罪ナルヲ以テ同法第十四條第十五條第十條ニ則リ右有期懲役刑ノ長期ト禁錮刑ノ長期トヲ合算シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年二月ニ處スヘク尙同法第二十一條ヲ適用シ當審ニ於ケル未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主文

原判決ヲ破毀ス
被告人ヲ懲役十月ニ處ス
原審ノ未決勾留日數中六十日ヲ右刑ニ算入ス
法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律違反ノ事實ニ付テハ被告人ハ無罪

○理由

辯護人佐久間渡上告趣意書第一點原判決ハ法律ニ背反シタル不當ノ判決ナリ即原判決ハ其ノ理由ニ於

法律事務取扱ノ取締ニ關スル件(昭和八年法律第五十四號)施行ノ前後ニ誇リタ
ル同法第二條ノ罪

「從來専ラ辯護士ニ非シテ……業トシ」云々ト判示シタリ一、然レトモ右法律事務取扱ニ關スル法律ハ同法附則ニ依リ昭和十一年四月一日ヨリ施行セラレルモノニシテ同法施行前ニ遡及スルノ效力ヲ有スルモノニ非サルナリ之刑罰法規不遡及ノ當然ノ理ナリ二、被告人ハ原判決ノ理由中ニ判示セラレル如ク昭和七年八月二十日株式會社下野産業銀行ヨリ城山自動車會社振出ノ約束手形ノ取立ノ爲ノ讓受ヲ受ケタルモノニシテ右手形讓受行爲カ右法律事務取扱ニ關スル法律公布前ノ行爲ニシテ何等同法ノ違反行爲タラス三、而シテ手形ニ關シテハ取立讓渡乃至保證讓渡(隱レタル保證)カ許容セラレ手形行爲ノ大半カ右兩種ノ讓渡ナルヲ考フルトキ右取立讓渡亦當然適法行爲トシテ犯罪行爲タラス四、或ハ云ハン右讓渡行爲ハ犯罪ヲ構成セスト雖右取締法ノ施行後ニ於テ支拂命令ノ申請ヲナシタルコト自體カ法律ニ牴觸スト然レトモ右法律ノ實施後ニ於テ同法ノ實施前ニ讓受ケタル手形ヲ被告人ニ於テ權利行使ヲ中止セムトセハ更ニ他人ニ讓渡セサル可カラズ故ニ此ノ行爲亦右法律違反トナルヘシ然ラハ右違反タラサル時期ニ於ケル行爲迄モ右法律ニ依リ處罰セラレルノ違法アルモノナリ五、原判決ハ被告人ハ辯護士ニアラスシテ他人間ノ爭訟事件ノ代理仲裁和解ヲ業トシタリト認定スレトモ所謂業トハ一定時期間ノ繼續從事スルコトヲ要シ單ニ一行爲ヲナシタルノミニテハ業トナラサルモノナリ然ラハ右カ業タルノ認定ヲスヘカラサル限リ右法ノ違反タルモノニアラスト云フニ在リ仍テ按スルニ新法ノ施行以前ニ於テ全ク罪ト爲ラザリシ行爲ヲ新法ニ於テハ犯罪ヲ構成スルモノトシ

【要旨】

テ之ニ對シ一定ノ刑罰ヲ加フヘキコトヲ規定スル場合ニ其ノ新法施行以前ノ行爲ニ對シテ新法ヲ適用スヘカラサルヤ論ナシ蓋適法ナルモノトシテ爲サレタル行爲カ後ニ犯罪トシテ處罰セラレルニ至リテハ人ハ安シテ社會生活ヲ營ムコト能ハス個人ノ法的安全ハ全ク蹂躪セラレルノ結果ト爲ルヘキヲ以テナリ敍上ノ趣旨ハ數個ノ行爲カ相結合シテ一罪ヲ構成スヘキ場合ニ於テ其ノ一部ノ行爲カ新法施行前ニ行ハレタルトキト雖其ノ理ヲ異ニスヘキニアラスシテ斯ル場合ニハ其ノ全部ニ付其ノ罪ヲ問フコトヲ得サルモノトス昭和八年五月一日法律第五十四號法律事務取扱ノ取締ニ關スル件第二條ノ罪ハ他人ノ權利ノ讓受及其ノ權利ノ訴訟其ノ他ノ手段ニ依ル實行ナル分割シテ觀察スルコトヲ得ヘキ二個ノ行爲カ相結合シテ一罪ヲ構成スルモノナルトコロ右ノ所爲ハ同法施行前ニハ適法ナルモノトシテ法ノ認容シタルトコロナリシニ拘ラス同法ノ施行ニ依リ新ニ犯罪ト爲ルニ至リタルモノナルヲ以テ右權利讓受行爲ニシテ同法施行前ニ完了シタル以上假令其ノ權利實行ノ行爲カ同法施行後ニ行ハレタリトスルモ如上ノ理ニ依リ全體トシテ同法ノ適用ヲ受クヘキ限リニアラスト云ハサルヘカラス籲ツテ本件事案ヲ觀ルニ原判示第二事實ハ要スルニ被告人ハ從來辯護士ニ非スシテ専ラ報酬ヲ得ル目的ヲ以テ他人間ノ爭訟事件ノ代理仲裁和解等ヲ爲シ又ハ他人ノ權利ヲ讓受ケ訴訟其ノ他ノ手段ニ依リ其ノ權利ノ實行ヲ爲スコトヲ業トシ之ニ依リテ生活ヲ營ミ居リタルモノナルトコロ昭和七年八月二十日株式會社下野産業銀行ヨリ城山自動車會社代表社員飯村喜作カ渡邊廣子外數名ノ支拂保證ノ下ニ同銀行宛ニ

振出シタル金額五千圓ノ約束手形ノ債權取立ノ爲ノ信託讓渡ヲ受ケタルヲ奇貨トシ昭和十一年六月二十六日之ニ基キ宇都宮區裁判所ニ對シ右手形上ノ各債務者ニ對スル支拂命令ヲ申請シ其ノ頃夫々支拂命令ヲ得タル上右渡邊廣子等ヨリ支拂保證義務免除ノ代償トシテ金員ヲ受取り以テ他人ノ權利ヲ讓受ケ訴訟其ノ他ノ手段ニ依リテ其ノ權利ノ實行ヲ爲スコトヲ業トシタリト云フニ在リテ右被告人ノ權利讓受ハ昭和七年中ノ事ニ屬シ昭和八年五月一日法律第五十四號法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律（施行期日昭和十一年四月一日）施行前ノ行爲ナルコト明カナル以上其ノ權利實行ノ行爲ニシテ同法施行後ニアリトスルモ同法ニ依リテ處罰スヘカラサルモノナルコト敍上説明ノ趣旨ニ照シ疑ヲ容レヌ然ラハ原審カ前示ノ事實ヲ認定シ被告人ノ所爲ヲ前記法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第二條第四條ニ該當スルモノトシテ判示第一ノ横領ノ事實トノ間ニ刑法併合罪ノ規定ヲ適用處斷シタルハ失當ニシテ論旨理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ原判示第一事實ヲ法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百五十二條第一項ニ該當スルトコロ被告人ニハ判示ノ前科アルヲ以テ同法第五十六條第五十七條ニ則リ累犯加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ原審ノ未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入スヘク本件公訴事實中被告人ハ辯護士ニ非スシテ常ニ他人間ノ爭訟事件ノ代理仲裁和解等ヲ爲シ又ハ他人ノ權利ヲ讓受ケ訴訟其ノ他ノ手段ニ依

リ其ノ權利ノ實行ヲ爲スコトヲ業トスル者ナルトコロ昭和七年八月二十日宇都宮市池上町株式會社下野産業銀行宇都宮支店ヨリ城山自動車合資會社代表社員飯村喜作ヨリ同銀行ニ宛テ振出シタル額面五千圓ノ約束手形ノ取立委任ヲ受ケ自己名義ニ裏書讓渡ヲ受ケ居リタルカ昭和十一年六月二十六日宇都宮區裁判所ニ對シ該手形ニ基キ振出人飯村喜作及支拂保證人タル渡邊廣子、渡邊壽夫、小倉信義、池田保、戸室淺市、菊地甚四郎、神山勝三郎ニ對シ支拂命令ノ申請ヲ爲シ翌二十七日同裁判所ヲシテ右飯村外七名ニ對シ支拂命令ヲ送達セシメ其ノ結果同年七月一日保證人免除代トシテ渡邊廣子ヨリ金百二十圓小倉信義ヨリ金百圓中内金トシテ金二十圓ヲ同市内ニ於テ收受シ以テ他人ノ權利ヲ讓受ケ訴訟ニ依リ其ノ權利ノ實行ヲ爲スコトヲ業トシタリトノ事實ハ論旨説明ノ理由ニヨリ罪ト爲ラサルヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

檢事有安堅三關與

○公文書毀棄被告事件(昭和十二年(れ)第五四三號 棄却)

(昭和十二年五月二十七日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 水田 高夫 辯護人 (後藤 義隆 古川 高次)

【第一審】 大分區裁判所 【第二審】 大分地方裁判所

○判示事項

公文書ノ隱匿ト毀棄

○判決要旨

公文書ヲ隱匿シテ其ノ使用ヲ不能ナラシムルトキハ其ノ物件力有形的ニ毀損セラレサルモ刑法第二百五十八條ニ所謂公文書ノ毀棄ニ該當ス

【參照】 刑法第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十月ニ處ス原審ニ於ケル未決勾留日數中十五日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ曩ニ大分縣西國東郡三重村助役ニ就任シ昭和八年三月二十六日其ノ任期滿了ニヨリ退職スルコトトナリ居リ

タルトコロ當時同村松本貞吉ノ昵懇者ヨリ次期ノ助役選任ニ付立候補斷念方ノ懇請ヲ受ケタルヲ以テ村長ヨリ一應助役ニ推薦ヲ受ケタル後之ヲ辭退スルノ形式ヲ執ルコトヲ條件トシテ之ヲ承諾シタルニ拘ラス其ノ頃被告人ノ旅行中同村長近藤千夫ニ於テ右松本貞吉ヲ同村助役ニ推薦シタル結果遂ニ同月二十七日同人ノ助役選任ヲ看ルニ至リタルヨリ被告人ハ心中快カラス之ヲ松本貞吉ノ暗躍ニ基クモノナリトシ同人ニ對シ反感ヲ抱キ爾來互ニ相反目スルニ至リタルカ偶昭和十一年十月二十三日同村役場ニ立寄りタル際同事務室ノ机上ニ松本助役所管事務重要書類ノ一タル同村大字上香々地上佐古分戶籍簿一冊(證第二號)ノ放置セラレアルヲ觀咄嗟ノ間ニ之ヲ隱匿シ同人ヲシテ引責辭職セシメント決意シ直ニ右戶籍簿ヲ私ニ同所ヨリ搬出シ同年十一月六日迄同村大字上香々地ナル被告人宅ニ爾後同月二十日迄被告人方附近山林中ニ隱匿シ其ノ間右戶籍簿ノ使用ヲ不能ナラシメ以テ之ヲ毀棄シタルモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人後藤義隆上告趣意書第一點ハ被告人カ戶籍簿ヲ持チ出シタルハ助役松本貞吉ヲシテ引責辭職セシムルノ目的ニシテ戶籍簿其ノモノノ毀棄ヲ目的トシテ爲シタルモノニアラサルコトハ記録上明瞭ナリ被告人ハ昭和十一年十月二十三日村役場ヨリ戶籍簿ヲ持チ歸リ自宅床ノ間ニ置キアリタル書畫ヲ入レ保管ヲ爲ス箱ニ入レテ大切ニ保管ヲ爲シ居リタルモ戶籍簿盜難ノ嫌疑カ被告人ニ係リ居ルコトヲ感

知シ之ヲ香々地町ノ海中ニ遺棄セントシタルモ之ヲ中止シ尾形孝道、水田喜六所有ノ竹林中ノ雜木ノ根元ニ雨露ヲ防ク爲ニ適當ナル場所ヲ選ヒ且更ニ落葉ヲ以テ覆ヒ置キタルトコロ十一月十日ニ被告人ハ拘束セラレタルモノナリ其ノ間被告人ハ戶籍簿其ノモノヲ毀棄スルノ意思毛頭無ク一時隱匿シ時機ヲ見テ元ニ戻シ置ク考ヘナリシモノニシテ此ノコトハ公判請求書ニ認定セラレタル事實ナリ文書ノ毀棄ト隱匿トノ間ニハ明瞭ナル區別アルハ刑法第二百六十三條郵便法第五十二條等ニ依ルモ明カナリ併シテ本件被告人ノ犯意被告人ノ行爲カ毀棄ニアラスシテ一時的ノ隱匿ナルコトハ明瞭ナル事實ナリ尙物件ノ遺棄其ノ他ノ行爲ニ依リテ物件ノ使用ヲ將來ニ向ツテ不可能ナラシメタル場合ニ於テハ毀棄トナルハ勿論ナルモ物件ノ使用ヲ一時停止セシムルニ止マル行爲カ毀棄トナラサルハ毀棄ト區別セラルル隱匿ニハ常ニ物件ノ使用ヲ一時停止スルノ觀念ヲ伴フ點ヨリ見ルモ明カナリ以上ノ次第ニシテ本件ハ毀棄トシテ處罰スヘカラサルモノナルニ不拘原審ニ於テ公文書毀棄トシテ處罰シタルハ違法ナリト云フニアレトモ

苟モ公文書ヲ私ニ搬出シ竹林中ノ雜木ノ根元ニ隱匿スルカ如キハ其ノ文書ノ使用ヲ不能ナラシムルモノニシテ假令其ノ物件カ有形的ニ毀損サレストスルモ刑法第二百五十八條ニ所謂公文書ノ毀棄ニ該當スルモノトス(昭和九年十二月二十二日當院判例參照)故ニ被告人ニ於テ有形的ニ毀損スルノ意思ナカリシトスルモ畢竟法ノ不知ニ外ナラサルヲ以テ被告人ニ於テ犯意ナカリシモノト謂フヘキニアラス

【要旨】

論旨理由ナシ

辯護人古川高次上告趣意書第二點ハ前記所論ニ依リ觀スレハ被告(上告人)ノ戶籍簿奪取行爲ハ單ニ隱匿ノ意思目的ヲ以テ之ヲ隱匿シ助役(松本)引責辭職ノ原因ニ供シタルニ過キス固ヨリ毀棄ノ意思モナク目的モナク又物質的毀棄ノ事實モナシ事ノ實際ハ奪取後相當ノ注意ヲ以テ保管セラレタリ學者曰ク毀棄トハ文書ノ全部又ハ一部ノ效用ヲ失ハシムル一切ノ行爲ナリ然レトモ必スシモ物質的ニ毀損スル必要ナシト判例モ亦同理論ヲ採用シテ極端ニ自由法學論ニ陶醉セルノ感ナキニシモアラス然レトモ願フニ毀棄トハ毀損(破毀)廢棄(拋棄)ヲ意味セルモノニシテ結局毀損ノ結果物夫自體其ノ效用ヲ失ヒ保存ノ價值ナキ爲途ニ之ヲ廢棄又ハ拋棄ノ已ムヲ得サルニ至リシ場合ヲ指示スルモノナルコト之古來傳統ノ用語ニ適ス從テ物夫自體ノ效用ヲ物質的又ハ事實上感情上永久的ニ喪失セシメタル場合ナラサルヘカラス本件ノ奪取行爲ハ一時其ノ姿ヲ隱セル迄ニシテ即紛失ノ狀況ニ在リシ迄ナリ占有ノ所在カ左右セラレタル迄ナリ決シテ物夫自體カ減失毀損シタルモノニアラス又永久其ノ效用ヲ失ヒタルニモアラス一時其ノ利用ヲ失ヒタル迄ナリ利用ヲ失フコトト效用ヲ失フコトトハ異レリ效用ヲ失フコトトハ譬ヒ再現スルモ物夫自體カ減失毀損シタルモノナルニ反シ利用ヲ失フコトトハ一時姿ヲ消スモ再現スレハ忽チ物夫自體ノ特質本然ニ從テ其ノ效用ヲ發揮シ得ルモノナルニ反シ後者ハ全然其ノ本質ヲ滅却シ前者ハ依然タル本質ノ效用ノ全部又ハ一部ヲ所有スルモ一時其ノ利用ヲ阻害セラレタルニ過キス我刑法毀棄及隱匿ノ罪ト題スル第四章ノ規定ハ法文不備ニシテ正ニ其ノ改正ヲ要スヘキモノアリト思料ス今前述ノ如ク毀棄及隱匿ノ罪ト題スル規定並第二百六十三條ニ「他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ云々」ノ規定ヨリ觀レハ毀棄ト隱匿トハ明カニ區別セラレ用語自ラ異議アルコト古來傳統ノ觀念上然リト云ハサルヘカラス第二百六十三條ニ於ケル「他人ノ信書隱匿」ノ場合ハ體刑財產刑ノ選擇刑ヲ科スヘキ規定ニシテ毀棄ノ場合ハ隱匿ノ場合ト混同シテ

右法條ヲ適用シ得サルコトナルヘシ(尤モ況ンヤ論法ヲ以テ律シ得ル餘地アリトハ信スルカ)仍テ學者或ハ他人ノ信書毀棄ノ場合第二百六十一條ヲ以テ問擬スヘシト論スルモノアラン之ニ依レハ「前三條ニ規定シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス」云々トアリテ單ニ第二百六十條所謂損壞又ハ傷害ノ文字アルモ毀棄ノ語ナシ從テ用語上他人ノ信書毀棄ノ場合ハ一見適用ナキカ如キモ前三條ト指示セル點ヨリ第二百五十八條第二百五十九條毀棄ノ場合ヲモ含メル關係上本條ヲ以テ律スヘシトスル學說判例ニ異議ナキ所ナリ(但シ法文ノ用語ハ不備ナリト云フ點ヲ除キ)斯ノ如ク第二百六十三條ニ於テハ隱匿ト稱シ毀棄ト別義異様ノ文字ヲ認メナカラ第二百五十八條乃至第二百五十九條ノ毀棄ナル用語ニ至テハ俄然其ノ說ヲ變シテ毀棄ノ文字中隱匿ヲモ包含セルモノナリトシテ之ヲ處刑スルカ如キハ矛盾タルヲ免レス若シ夫レ前記第二百五十八條ヲ以テ本件上告人ノ隱匿行爲ヲ律セントセハヨロシク「公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄隱匿シタル者ハ云々」ト改正セサルヘカラス抑モ法ノ性質上民法ノ用語ハ之ヲ廣義ニ解釋スルヲ許サルヘキモ刑法ノソレハ之ヲ狹義ニ減縮嚴解スヘキモノナリトハ一般通說ナリ本件事犯ノ如キ他ノ條文ヲ以テ論スルハ兎モ角如上ノ如キ目的ヲ以テ奪取隱匿セル行爲ヲ以テ前審カ之ヲ文書毀棄罪トシテ處罰シタルハ著シキ擬律錯誤アルト共ニ一般原則ヲ無視セル重大ナル違法アリト云フニアレトモ其ノ理由ナキコトハ後藤辯護人上告論旨第一點ニ就キ説明シタル處ノ如シ就ヒテ了解スヘシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事池田克關與

○有價證券虛偽記入行使詐欺被告事件(昭和十二年(九)第四六五號
 同年五月二十八日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 和歌山兵作 辯護人 谷村清太郎

【第一審】 大津區裁判所 【第二審】 大津地方裁判所

○判示事項

實質上無効ノ有價證券ト偽造罪ノ成立——自己ノ作成スル有價證券ノ虛偽記入

○判決要旨

一有價證券カ商法ノ規定ニ違背シ實質上無効ナルトキト雖一見人ヲシテ其ノ有價證券ナルコトヲ信セシムヘキ程度ニ作成セラレタルモノナルトキハ刑法上有價證券ト認ムルニ妨ナシ【要旨第一】

實質上無効ノ有價證券ト偽造罪ノ成立 自己ノ作成スル有價證券ノ虛偽記入

二有價證券ノ虚偽記入ハ獨リ既成ノ有價證券ニ不實ノ記載ヲ爲ス
場合ニ限ラス自己ノ名義ヲ以テ新ニ有價證券ヲ作成スル者力其
ノ現ニ作成スル有價證券ニ故意ニ虚偽ノ事項ヲ記入スル場合ヲ
モ包含スルモノトス【要旨第二】

【参照】 刑法第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ
有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年二月ニ處ス押收品中貨物引換證
(證第一號同第六號同第十一乃至十四號同第十九號)中各虚偽記入部分ヲ沒收スルノ旨判決ヲ爲シタリ
被告人ハ肩書住居ニ於テ若山運送店ナル商號ニテ運送業ヲ營ミ居タル者ナルトコロ債務支拂ノ資ニ窮シタル結果貨物
引換證ニ虚偽ノ記入ヲ爲シテ之ヲ行使シテ他人ヨリ金錢ヲ騙取センコトヲ企テ
第一 當審ノ審理ヲ受ケタル後控訴取下ヲ爲シタル松村彌左衛門ト共謀シ

(イ) 昭和十一年四月二十二日頃大津市御藏町旅館中村屋事吉田仙次郎方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ右彌左衛門ヨリ
貨物運送ノ委託ヲ受ケタルコト無キニ拘ラス昭和十一年四月二十二日附被告人和歌山兵作名義ニテ荷受人ヲ原政
三郎トシ荷受人松村彌左衛門ヨリキリンビール二打入二百八十個ノ運送ノ委託ヲ受ケタル旨貨物引換證用紙ニ虚
偽ノ記入ヲ爲シ(證第十一號)其ノ頃情ヲ知ラサル原審相被告人山本幾之助ヲ介シ京都市東山區宮川筋一丁目原

政三郎方ニ於テ同人ニ對シ恰モ眞實右運送品ノ委託アリタル貨物引換證ナルカ如ク裝ヒテ之ヲ交付シテ行使シ同
人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ即時貸借名義ノ下ニ金千五百圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(ロ) 翌二十三日頃大津市上京町ナル當時ノ松村彌左衛門ノ住居ニ於テ右彌左衛門ヨリ貨物運送ノ委託ヲ受ケタル
コト無キニ拘ラス昭和十一年四月二十三日附被告人和歌山兵作名義ニテ荷受人ヲ執レモ松村彌左衛門ト
シ同人ヨリキリンビール二打入二百三十個ノ運送ノ委託ヲ受ケタル旨貨物引換證用紙ニ虚偽ノ記入ヲ爲シ(證第
十二號)前同様其ノ頃情ヲ知ラサル前記幾之助ヲ介シ京都市左京區孫橋通東大路東入樋上政一方ニ於テ同人ニ對シ
之ヲ交付シテ行使シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ即時貸借名義ノ下ニ金千四百圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二 松村彌左衛門及原審相被告人山本幾之助ト共謀シ昭和十一年六月十日頃右彌左衛門方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ
彌左衛門ヨリ貨物運送ノ委託ヲ受ケタルコト無キニ拘ラス昭和十一年六月十日發行被告人和歌山兵作名義ニテ荷送
人及荷受人ヲ執レモ松村彌左衛門トシ同人ヨリキリンビール二打入二百八十個ノ運送ノ委託ヲ受ケタル旨貨物引換
證用紙ニ虚偽ノ記入ヲ爲シ(證第十三號)前同様其ノ頃京都市東山區宮川筋八丁目井上新次郎方ニ於テ同人ニ對シ之
ヲ交付シテ行使シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ即時貸借名義ノ下ニ金千七百九十圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第三 原審相被告人山本幾之助ト共謀シ

(イ) 昭和十一年七月四日頃京都市東山區東山線仁王門下ル原審相被告人山本幾之助方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ堀
池幸太郎ヨリ貨物運送ノ委託ヲ受ケタルコト無キニ拘ラス昭和十一年七月四日附被告人和歌山兵作名義ニテ荷送
人及荷受人ヲ執レモ堀池幸太郎トシ同人ヨリキリンビール二打入二百八十個ノ運送ノ委託ヲ受ケタル旨貨物引換
證用紙ニ虚偽ノ記入ヲ爲シ(證第六號)前同様其ノ頃前記樋上政一方ニ於テ同人ニ對シ之ヲ交付シテ行使シ同人
ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ即時貸借名義ノ下ニ金千七百五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

實質上無効ノ有價證券ト偽造罪ノ成立 自己ノ作成スル有價證券ノ虚偽記入

(ロ) 同年同月十三日右幾之助方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ堀池幸太郎ヨリ貨物運送ノ委託ヲ受ケタルコト無キニ拘ラス昭和十一年七月十三日附被告人和歌山兵作名義ニテ貨物引換證用紙表面ニハ荷送人及荷受人ヲ孰レモ堀池行太郎トシ同人ヨリ江州玄米百七十俵ノ運送ノ委託ヲ受ケタル旨其ノ裏面裏書欄ニハ堀池幸太郎代ト冒書シ其ノ名下ニ三文判ヲ押捺シテ虚偽ノ記入ヲ爲シ(證第十九號)前同様其ノ頃前記井上新次郎方ニ於テ同人ニ對シ之ヲ交付シテ行使シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ即時貸借名義ノ下ニ金二千五百圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(ハ) 同年同月二十五日頃右幾之助方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ原政三郎ヨリ貨物運送ノ委託ヲ受ケタルコト無キニ拘ラス昭和十一年七月二十五日附被告人和歌山兵作名義ニテ貨物引換證用紙表面ニハ荷送人及荷受人ヲ孰レモ原政三郎トシ同人ヨリ江州米百七十俵價格金二千二百圓ノ運送ノ委託ヲ受ケタル旨其ノ裏面裏書欄ニハ原政三郎ト冒書シ其ノ名下ニ三文判ヲ押捺シテ以テ虚偽ノ記入ヲ爲シ(證第十四號)前同様其ノ頃前記樋上政一方ニ於テ同人ニ對シ之ヲ交付シテ行使シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ即時貸借名義ノ下ニ金千二百五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(ニ) 同年九月六日頃右幾之助方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ松村彌左衛門ヨリ貨物運送ノ委託ヲ受ケタルコト無キニ拘ラス昭和十一年九月六日附被告人和歌山兵作名義ニテ荷送人及荷受人ヲ孰レモ松村彌左衛門トシ同人ヨリキリシビル二打入二百二十個ノ運送ノ委託ヲ受ケタル旨貨物引換證用紙ニ虚偽ノ記入ヲ爲シ(證第一號)前同様其ノ頃京都市上京區五辻通千本東入采野七郎方ニ於テ同人ニ對シ之ヲ交付シテ行使シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ即時貸借名義ノ下ニ金千二百二十四圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

タルモノニシテ被告人ノ右虚偽記入其ノ行使竝詐欺ノ行爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中有價證券虚偽記入ノ點ハ刑法第六十二條第二項第一項第五十五條ニ同行使ノ點ハ

同法第六十三條第一項第五十五條ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルコトコトハ各順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第五十五條ニ則リ其ノ最モ重キ虚偽記入有價證券行使罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年二月ニ處シ押收品中貨物引換證(證第一號同第六號同第十一乃至十四號同第十九號)ノ虚偽記入ヲ爲シタル部分ハ本件虚偽記入ヲ爲シタル有價證券行使罪ノ組成物件ニシテ何人ノ所有ヲモ許ササルモノナルヲ以テ同法第十九條第一項第一號第二項ニ則リ之ヲ沒收スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人谷村清太郎上告趣旨書第二點本件證據品タル貨物引換證ヲ以テ所謂貨物引換證ナリト云フヘキヤ否ヤ之カ商法所定ノ要式ヲ具備セス所謂貨物引換證ニ似テ全ク非ナルモノナルコトハ一見明瞭ナルモノアリト確信罷在候而シテ凡ソ貨物引換證ナルモノハ託送貨物カ所謂運送ノ状態ニオカレテ初メテ荷送人ノ請求ニヨリ之カ運送人ニ於テ發行交付スルモノニ係リ送荷到達地ノ指定モナク只貨物ヲ運送人倉庫ニ入庫保管セシメ居ルトキニ於テ之ヲ發行スルノ必要ナク「現ニ保管中」ト明示スル證券又ハ現ニ保管中ナルヲ證券換金對手者ニ於テ熟知スル證券ヲ以テ有價證券虚偽記入ナリト認定處罰スヘキモノナリヤ否ヤ誠ニ疑問トスルトコロ上告辯護人ノ見ルトコロヲ以テセハ本件ノ場合ハ他ノ詐欺罪ニ該當處罰スルハ格別之ヲ以テ所謂有價證券虚偽記入行使罪ニ斷シテ無之ヲ確信罷在候從テコノ點ニ於

實質上無効ノ有價證券ト偽造罪ノ成立 自己ノ作成スル有價證券ノ虚偽記入

テ原審裁判所ハ「重大ナル事實ノ誤認アリ」顯著歴然タル敢テ指摘ヲ俟タスト被存候元來運送業者ハ商法所定ノ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スヲ業トスルモノヲ謂ヒ而シテ斯ル正式業者ニ於テ始メテ貨物引換證發行ノ權義ヲ有シ亦貨物引換證ハ託送貨物ノ運送ニオカレタル以後之カ處分等ノ爲貨物ニ代ルヘキ證券トシテ之ヲ發行交付セラルル要式ノ有價證券ナリトス果シテ然ラハ「若山運送店」主タル被告人ヲ以テ所謂運送人ト云フヘキヤ更ニ本件證券ヲ以テ有價證券虛偽記入行使罪トシテ保護スルニ足ル所謂有價證券ト云フヘキヤ被告人ハ敢テ倉庫業者ニアラサルハ自他共ニ熟知スルトコロ然ルヲ「現ニ保管中」ノ旨ヲ明記シ亦對手人之ヲ熟知スル場合ニ於テ尙且之ヲ保護スヘキヤ事理明瞭ナルニ不拘重大ナル事實ノ誤認ヲ敢テシ有價證券虛偽記入行使罪ヲ以テ間擬シタルハ法令違反ナルノミナラス根本虛偽記入アリト稱スル證據品證第十一號證第十二號證第十三號證第六號證第十九號證第十四號證第一號ノ各貨物引換證ヲ以テ所謂貨物引換證ナリト云フヘキヤ否ヤ之ヲ以テ商法所定スル所謂貨物引換證トハ全然似テ非ナルモノナルコトハ既ニ一見明瞭ナルコト敢テ敍說ヲ俟タサルトコロ而シテ凡ソ貨物引換證ナルモノハ商法所定ノ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲ス運送人ノ内所謂物品運送ヲ業トスル運送人ニ於テ初メテ之ヲ發行交付スルノ權義ヲ有シ更ニ託送貨物ノ運送ノ狀態ニオカレタルノ以後始メテ荷送人ノ請求ニ因リ之カ運送人ニ於テ之ヲ發行交付スルモノニ有之ソノ形式要件タルヤ商法所定ノ要件具

備シタル所謂要式證券ニシテ其ノ所定要式ノ欠缺シタルモノハ之ヲ當事者ニ於テ貨物引換證ナリト誤信假稱スルモ所謂貨物引換證券ニ非サルコト既ニ明カナリト確信罷在候果シテ然リトセハ本件ノ前記證券ノ各貨物引換證ナルモノハ所謂貨物引換證ニアラサルノ次第從テ之ヲ有價證券ノ虛偽記入アリトシテ保護スルニ足ルノ有價證券ナリヤ否ヤニ係ル所謂「重大ナル事實」ノ認定即苟クモ行使ノ目的ヲ以テ外形上他人ヲシテ真正ニ成立シタル有效ノ貨物引換證ナリト信用セシメ得ヘキ程度ニ於テ作成セラレタルノ貨物引換證ナリヤ否ヤ而シテ假ニ形式上竝實質上有效ト認メ得ヘカラサルノ貨物引換證ナリトスルモ之ヲ有價證券ノ虛偽記入アリトシテ保護スルニ足ル程度ノ所謂有價證券ナリヤ否ヤ上告辯護人ノ見ルトコロヲ以テセハソノ何レニモ恰當セサルモノ即所謂貨物引換證券ニモ非ス亦所謂有價證券ニモアラサルモノト斷定確信罷在候凡ソ有價證券ナルモノハ之カ當該證券ニ表示セラルル財產上ノ權利ノ行使ニ付其ノ證券ノ絕對占有ヲ必要トスルノ證券ヲ汎稱スルモノニシテ敢テ特定名稱ヲ法定又ハ固有スルノ證券ノミニ限ラサルハ上告辯護人ニ於テモ篤ク熟知スルトコロナルモ當事者カ貨物引換證券ナリ或ハ有價證券ナリト假稱誤信スルモ之ヲ果シテ保護スルニ足ルノ有價證券ナリヤ否ヤハ自ラ別個ノ問題ニシテ本件證據ノ證券ヲ以テ所謂有價證券ナリヤ否ヤハ當該裁判所ノ慎重認定スヘキトコロニ屬シ本件證據ノ各證券ハ所謂貨物引換證券ニアラストセハ如何ナル意味ニ於ケル所謂有價證券ナリヤニ關シ原審裁判所ハ特別ナル考慮ヲ拂ヒタルヤノ跡ナク「貨物引換證ニ虛偽ノ記入ヲ爲シテ之ヲ

實質上無效ノ有價證券ト偽造罪ノ成立 自己ノ作成スル有價證券ノ虛偽記入

行使シテ他人ヨリ金錢ヲ騙取センコトヲ企テ」「貨物引換證用紙ニ虚偽ノ記入ヲ爲シ」「恰モ眞實右運送ノ委託アリタル貨物引換證ナルカノ如ク裝ヒテ之ヲ交付シテ行使シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ」トアル通り而シテ亦「證據ヲ案スルニ敍上ノ事實中各犯意繼續ノ點ヲ除キ其ノ餘ノ部分ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述ト押収ニ係ル貨物引換證(證)ノ現存トニヨリ之ヲ認メ」「法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中有價證券虚偽記入ノ點ハ刑法第六十二條第二項第一項——同行使ノ點ハ同法第六十三條第一項——トアル通り本件公訴事實列舉ノ各事實ヲ以テ當然有罪處罰スヘキ所謂有價證券ノ虚偽記入竝行使ナリト速斷假定シタルハ所謂「重大ナル事實」ニ關スル認定ヲ誤リタルモノニシテ而モ顯著歴然タルモノナリト確信罷在候而シテ本件各證據ノ證券ハ如何ニモ貨物引換證用紙ヲ使用シタルモノナルモ之單ニ貨物引換證用紙タルニ止リ所謂貨物引換證ニアラス且亦貨物引換證タルコトヲ信セシムルニ足ル程度ノモノニアラサルコト前陳ノ如シ即單ニ「キリンビール」二打入二百八十個」「キリンビール」二打入二百二十個」ノ各種類及數量ノ記載ト「荷送人松村彌左衛門」「荷送人堀池幸太郎」「荷送人原政三郎」ノ各荷送人ノ記載ト「荷受人松村彌左衛門」「荷受人原政三郎」「荷受人堀池幸太郎」ノ各荷受人ノ記載ト裏面裏書欄ニハ「堀池幸太郎代」「原政三郎」ノ各裏書人記載(但第三ノ事實中(ロ)(ハ)ノミニ止マル)トアルニ止リ商法所定ノ第三百三十二條及同第三百三十一條ノ記載即「運送品ノ——重量又ハ容積及

其ノ荷送ノ種類」「到達地」「運送賃」等ノ記載アラス而シテ「現在保管中」即該品ハ現ニ被告人ニ於テ之ヲ保管中ナル旨ヲ表示シ居リ一見スレハ本件貨物引換證トハ倉荷證券ノ内タル預證券ノ如キ感アリ然レトモ之「現ニ保管中」又ハ運送人ニ於テ別ニ之ヲ運送スルニアラスシテ單ニ保管スルニ過キサルニ斯ル貨物引換證ヲ發行交付スルハ運送人タル業務ト矛盾背馳シ貨物引換證制度ノ根本ト相容レサルモノナリト確信罷在候即元來貨物引換證ナルモノハ商法カ持ニ法定創設シタル託送荷物ニ代ル可キ而シテ之カ處分ノ融通轉々性ヲ附與スル爲ノ證券ニシテ運送ノ狀態ニ置カレアル貨物ニ付發行スルコトヲ得ル特別ナルモノニシテ單ニ之ヲ寄託スルニ止ル貨物ニ付之カ保管者ヨリ自由ニ之ヲ發行スヘカラサルモノナルハ自ラ明瞭ナルトコロニ屬シ本件ノ如キハ各事實ノ全部ニ付特別ナル到着地ノ記載ナク却テ之ヲ被告運送店ニ於テ保管中ナル旨ヲ表示記載スルカ對手方即本件證券換金者タル原政三郎、井上新次郎、樋上政一、采野七郎ノ各金錢貸與者ニ於テ之カ貨物ノ被告運送店ニ保管スルモノナル事實ヲ熟知シテ之ヲ擔保ニ金錢ヲ貸與シタルモノナレハ所謂運送ノ狀態ニ置カレアル物品ニアラス若シ斯ル場合ノ貨物引換證發行ヲ許容セハ運送業者ハ倉庫業者ト何等ノ區別スルコトナキ次第ニテ營業トスル運賃ヲ如何ナル理由ヲ以テ之ヲ寄貨者ヨリ徵收スルコトヲ得ルヤ誠ニ奇怪ナル結果ヲ見ム從テ本件ノ各公訴事實ノ態樣實態ヲ仔細ニ檢討認定セハ直ニ觀取認識シ得ル通り如何ニ當事者力之ヲ以テ貨物引換證券ナリト假稱誤認スルモ貨物引換證券タルノ根本ニ背反スルモノニシテ貨物引換證

實質上無効ノ有價證券ト偽造罪ノ成立 自己ノ作成スル有價證券ノ虚偽記入

券タルコトヲ信セシムルニ足ルモノトハ斷シテ云フヘカラス況ンヤ各金錢貸與者ニ於テ被告人運送店ニ於テ記載各物件タル麥酒又ハ玄米ヲ現在保管スルモノナルヲ熟知又ハ現認シテ單ニ寄託シアルモノナル即運送ノ状態ニ置カレアルモノニアラサルヲ承知シテ之カ證券ノ授受ヲ爲スモノナルニ於テオヤ(本件ハ單ナル右貨物引換證ノミニヨル金錢貸與ニアラスシテ別ニ手形添附又ハ契約證添附ニヨリ初メテ金錢貸與授受ノ各行ハレタル點ヨリセハ本件貨物引換證ノミヲ特ニ信用シテ之カ裏書等ヲ以テ金錢授受ヲ爲シタルモノニアラス而シテ最後ニハ若山個人ノ小切手等ヲ受取り之カ支拂延期ヲ承諾シ居ルカ如キ彌々出テ益々奇怪ナル貨物引換證ナリト云ハサルヘカラス)果シテ然リトセハ本件貨物引換證ヲ以テ別途ノ意味ニ於ケル所謂有價證券ナリヤヲ見ルニ單純ナル預リ物件引換ヲ意味スル證券ニシテ之カ權利行使ニ該證券ノ占有ヲ必要トスル所謂有價證券トハ如何ニスルモ之ヲ是認スルコトヲ得ス斯ク若解釋シテ之ヲシモ尙保護スヘキノ有價證券ナリトセハ運送店ハ種々ナル證券ヲ自由ニ發行シ得ルコトヲ容認スルコトナリ有價證券制度ハ根本ヨリ破壊セラレ亦刑法カ特ニ之カ偽造變造虛偽記入ヲ處罰保護スル趣旨ハ遂ニ奈邊ニアルヤヲ疑ハサルヲ得サル結果トナル即刑法カ特ニ有價證券ニ關スル罪ヲ公私文書偽造罪ト區別シテ處罰セムトスル趣旨ハ既ニ其ノ文言ノ明示スル如ク公債證書或ハ株券其ノ他ノ有價證券ノ偽造變造虛偽記入及其ノ行使ヲ禁止シ因テ以テ財界取引ノ安全ヲ期セムトスルニ在リ然リ而シテ萬一有價證券ニ該當セストスルモ私權ニ關スル文書等ノ罪アルトキハ所謂文書偽

造罪ノ適用ヲ以テ處罰スルコトヲ得ヘク敢テ之ヲ曲ケテ迄適用セストモ多々益々便スルノ次第ニテ文書ニ關スル罪成立ノ餘地ナシトスルモ普通ノ詐欺罪ヲ以テ問擬スルニ敢テ事缺カス從テ果シテ有價證券ナリヤ否ヤハ成ル可ク嚴格狹義ニ解釋スヘク表面名ハ貨物引換證券ヲ假稱スルモ其ノ實貨物引換證券ナリヤ或ハ之ヲ他ノ意味ニ於ケル有價證券ナリヤハ充分檢討解釋シ以テ所謂取引ノ安全ヲ期ス可キノ次第ナラムカト被存候果シテ然リトセハ斯ル本件ノ場合ヲモ尙有價證券ニ關スル罪ナリトセハ却テ運送業ト倉庫業ヲ特ニ區別規制シタル商法ノ根本ヲ濫リ且ハ一種ノ有價證券ヲ創設スルノ結果ヲ招來シテ遂ニハ刑法所定ノ趣旨ヲ沒却スルノ憂アリト云フヘキナリ宜シク事案解決ニ適切恰當シタルノ認定處斷ヲ切望スルノ次第要スルニ原審判決ハ重要ナル事實ニ關スル認定ヲ誤リタルモノナリト斷スヘキト乍勝手確信罷在候ト云ヒ一同第四點以上ノ次第ナレハ本件ハ所謂有價證券虛偽記入行使罪ニ該當セス從テ別個ノ詐欺罪ニ問擬スルハ格別之ニ對シ原審判決ハ有價證券虛偽記入行使罪ヲ以テ處罰セラレタルハ法令違反即法令ノ適用ヲ誤リタル不當アリト思料罷在候ト云ヒ一同第五點以上ノ次第ナレハ檢事控訴ノ理由即斯ル貨物引換證ノ濫發夫自體ハ一般社會ニ對スル警戒ノ爲ニモ嚴罰ニ處スルヲ要スルトノ論ハ自然消滅スルノ結果トナリソノ控訴ハ亦理由ナカリシコトニ歸スルト確信罷在候以上何レノ諸點ヨリスルモ原審判決ハ法令ニ違背スルモノ重大ナル事實ニ關スル誤認アルモノトシテ破毀セラレ可ク假ニ上告申立人ノ右主張ニシテ理由ナシトスルモ刑ノ量定ニ於テ甚シキ不當アリト確信スル次第

【要旨第一】

第何卒被告人更生ノ爲刑ノ執行猶豫ノ御恩典ヲ賜度ク切ニ懇願スル次第ニ御座候ト云フニ在レトモ

【要旨第二】

有價證券カ商法ノ規定ニ違背スル爲實質上無効ナルトキト雖一見人ヲシテ其ノ有價證券ナルコトヲ誤信セシムヘキ程度ニ作成セラレタルモノナルトキハ刑法上之ヲ有價證券ト爲スニ敢テ妨ナク又有價證券ノ虚偽記入ハ獨リ既成ノ有價證券ニ對シ不實ノ記載ヲ爲ス場合ニ限ラス自己ノ名義ヲ以テ新ニ有價證券ヲ作成スル者カ其ノ現ニ作成スル有價證券ニ故意ニ虚偽ノ事項ヲ記入スル場合ヲモ包含スルモノト解スヘキコトハ孰レモ當院ノ從來判例トスル所ナルト同時ニ原判決擧示ノ證據ヲ綜合スルトキハ被告人カ運送業者トシテ若山運送店ノ經營中債務支拂ノ資金ヲ調達センカ爲判示ノ如ク行使ノ目的ヲ以テ不實ノ事項ヲ記入シタル自己名義ノ貨物引換證ヲ作成シテ之ヲ行使シタルコトノ證明十分ニシテ記録ヲ查スモ此ノ點ノ原判示ニ重大ナル過誤アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アルコトナク而モ所論ノ證據物件ヲ觀ルニ被告人ノ作成セル前記證券ハ孰レモ有效ナル貨物引換證ナリト誤信セシムヘキ程度ノ形式ヲ有スルモノト認ムヘキカ故ニ被告人ノ當該行爲ニ對シ刑法第六十二條第六十三條ヲ擬スヘキハ勿論ニシテ之ト同一判定ニ出テタル原判決ハ固ヨリ相當ナリト云フヘク尙被告人ニ對スル原審ノ科刑ヲ甚シク不當ト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト認メ難キコトハ前ニ説明シタル如クナルヲ以テ論旨ハ總テ理由ナキモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事徳江治之助關與

○横領差押標示無効被告事件

(昭和十二年(九)第五〇〇號 棄却)
同年五月二十八日第四刑事部判決

【上告人】 被告人 二宮吉太郎 辯護人 藥師寺志光

【第一審】 宇和島區裁判所 【第二審】 松山地方裁判所

○判示事項

刑法第九十六條ニ所謂「標示ヲ無効タラシメ」ノ意義

○判決要旨

刑法第九十六條ニ其他ノ方法ヲ以テ……標示ヲ無効タラシメ「トアルハ差押ノ標示ヲシテ實際上其ノ用ヲ爲スヲ得サルニ至ラシメタル行爲ヲ汎稱スルモノトス

刑法第九十六條ニ所謂「標示ヲ無効タラシメ」ノ意義

【參照】 刑法第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

刑事訴訟法第三百二十條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ

公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召喚スヘシ

第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ

同法第三百二十二條 裁判長ハ公判期日ヲ變更スルコトヲ得

公判期日ノ變更ニ關スル請求ヲ却下スル命令ハ之ヲ送達スルコトヲ要セス

○事實

第二審ハ被告人ノ債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏カ被告人方ニ臨ミ生爾其ノ他ノ物件ヲ差押ヘ被告人方本家ノ柱ニ公示書ヲ貼付シテ差押ノ事實ヲ標示シ被告人ヲシテ該物件ノ保管ヲ爲サシメタル處被告人ニ於テ其ノ差押ノ生爾中七十八貫餘ヲ擅ニ保管ノ場所ヨリ搬出シテ他人ニ賣却シタル事實ヲ認定シ刑法第九十六條ヲ適用シテ處斷シタリ

尙第二審ノ裁判長ハ本件ニ付判決ノ言渡期日トシテ昭和十二年二月十日午前九時ト指定シ乍ラ同日午前十一時ニ至リ其ノ言渡ヲ爲シタリ

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人藥師寺志光上告趣意書第一點原判決ハ「被告人ハ第一同月十五日未タ右差押手續ノ解除ナキニ拘ラス右保管ヲ命セラレタル差押物件中生爾七十八貫百五十匁ヲ擅ニ賣却センカ爲前示保管場所ヨリ搬出シ愛媛縣北宇和郡吉田町製糸業者溝端茂雄方ニ於テ之ヲ代金三百六十圓ニテ賣却シ以テ公務員ヨリ保管ヲ命セラレタル自己所有ノ物ヲ横領シ且之ニ依リ同時ニ右搬出賣却シタル部分ニ對スル差押標示ノ效力ヲ無効ナラシメ」タル旨判示セラレタリ然レトモ之法律ヲ誤解シタル違法ノ判決ナリト謂ハサル可ラス蓋刑法第九十六條ニ「封印又ハ差押ノ標示ヲ無効タラシムル」行爲トハ(イ)封印又ハ差押ノ標示自體ヲ毀損スルニ依リテ何カ差押ノ目的物ナリヤヲ認識スルコトヲ得サルニ至ラシメ以テ差押ノ效力ヲ喪失セシムルカ(民訴五六六條二項)(ロ)封印又ハ差押ノ標示自體ヲ毀損セス從テ何カ差押ノ目的物ナリヤハ明白ナルモ差押ノ目的物ヲ滅失セシメ又ハ之ヲ善意ノ第三者ニ讓渡スルニ因リテ差押ノ效力ヲ喪失セシムル行爲ヲ指稱スルモノトス故ニ差押物件ノ保管ヲ命セラレタル債務者カ之ヲ保管ノ場所ヨリ搬出スルモ封印又ハ差押ノ標示自體カ破壞セラレサル限り該差押物件ニ對スル差押ノ效力ハ依然トシテ存續シ債務者カ之ヲ處分スルモ其ノ處分行爲ハ差押債權者ニ對シ無効ナリト謂ハサル可ラス然ラハ本件ニ於テモ被告人ヨリ差押物件ヲ買受ケタル溝端茂雄ニ於テ善意無過失ノ爲民法

刑法第九十六條ニ所謂「標示ヲ無効タラシメ」ノ意義

第一九二條ニ因リ之カ所有權ヲ原始的ニ取得シ其ノ結果本件差押ヲ無効ニ歸セシメサル限り假令本件差押物件カ右溝端ノ手中ニ存スルモ差押債權者ハ同人ニ對シ差押ヲ對抗シ得ヘク從テ執達吏ハ之ヲ同人ヨリ取戻シテ其ノ競賣ヲ爲シ得ルモノナルカ故ニ未タ以テ刑法第九十六條ニ所謂差押標示ノ效力ヲ無効ナラシメタルモノト論斷スルヲ得ス然ルニ原判決ハ買主溝端茂雄ニ於テ本件差押物件ニ付善意取得ヲ爲シタルモノナリヤ否ヤニ關シ何等ノ審理ヲ爲スコトナク輒ク被告人ノ所爲ヲ差押標示ノ效力ヲ無効ナラシムル行爲ニ該當スルモノト爲シタルハ法律ヲ誤解シタルカ又ハ審理不盡理由不備ノ違法アルモノト謂ハサル可カラスト云フニ在レトモ

【要旨】

刑法第九十六條ニ「其他ノ方法ヲ以テ……標示ヲ無効タラシメ」トアルハ差押ノ法律上ノ效力ヲ亡失セシメタル行爲ヲ云フニ非スシテ差押ノ標示ヲシテ實際上其ノ用ヲ爲スヲ得サルニ至ラシメタル行爲ヲ汎稱スルモノナルカ故ニ被告人ノ債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏カ被告人方ニ臨ミ生繭其ノ他ノ物件ヲ差押ヘ被告人方本家ノ柱ニ公示書ヲ貼付シテ差押ノ事實ヲ標示シ被告人ヲシテ該物件ノ保管ヲ爲サシメタルニ拘ラス被告人ニ於テ其ノ差押生繭中七十八貫餘ヲ擅ニ保管ノ場所ヨリ搬出シテ他人ニ賣却シタルコト原判決認定ノ如クナル以上其ノ買受人ノ善意ナルト將惡意ナルトヲ問ハス右ノ賣却品ニ對スル差押ノ標示ヲ實効ナキニ歸セシメタルコト明白ニシテ前示法條ノ規定ニ該當スルコト勿論ナルヲ以テ原審カ右ノ法條ヲ適用シテ被告人ヲ處斷シタルハ相當ナリト云フヘク原判決ニ所論ノ如キ違

法アルモノト認メ難キカ故ニ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルニ因リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事徳江治之助關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和十二年(九)第二八五號 同年五月二十九日第九刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 藤本藤三郎 辯護人 北村利夫 鈴木義夫 西田米藏 松尾參三郎 外一名
【第一審】 甘木區裁判所 【第二審】 福岡地方裁判所

○判示事項

被告人ノ供述ニ依ル事實ノ認定——衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第五號ニ所謂選舉運動者

○判決要旨

被告人ノ供述ニ依ル事實ノ認定 衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第五號ニ所謂選舉運動者

一 被告人ノ供述ヲ斷罪ノ資料ト爲スニハ其ノ外形ニ拘ルコトナク其ノ全體ヨリシテ眞實ニ合スルモノト觀ラルル趣旨ニ據ルヘキモノトス【要旨第一】

二 特定ノ議員候補者ニ投票シタル選舉人ニ對シ報酬トシテ供與スヘキ趣旨ノ下ニ金錢ノ交付ヲ受ケタル者ハ衆議院議員選舉法第百十二條第一項第五號ニ所謂選舉運動者ナリトス【要旨第二】

【參照】 刑事訴訟法第三百三十六條 事實ノ認定ハ證據ニ依ル

同法第三百三十七條 證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス

衆議院議員選舉法第百十二條第一項 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
- 二 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ
- 三 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一

號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ

四 第一號若ハ前號ノ供與、要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ、若ハ之ヲ促シタルトキ

五 第一號乃至第三號ニ掲グル行爲ヲ爲サシムル目的ヲ以テ選舉運動者ニ對シ金錢若ハ物品ノ交付、交付ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ選舉運動者其ノ交付ヲ受ケ若ハ要求シ若ハ其ノ申込ヲ承諾シタルトキ

六 前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ
選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員當該選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス警察官吏其ノ關係道府縣内ノ選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキ亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人藤本藤三郎及西源右衛門ヲ各禁錮二月ニ處ス第一審ニ於ケル未決勾留日數中被告人藤本藤三郎ニ對シテハ十五日ヲ同西源右衛門ニ對シテハ二十日ヲ夫々右各本刑ニ算入ス被告人西源右衛門ヨリ金二百圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ昭和十一年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ執レモ福岡縣第一區ノ選舉人ナリシカ
(中略)

第四 被告人藤本藤三郎ハ同月十七日頃居村井手道雄方ニ於テ同人ヨリ同候補者ノ爲同村選舉人ノ投票取纏方依頼セラレ其ノ費用並報酬トシテ金二百圓ヲ提供セラルルヤ之カ分配時期並方法ニ付一任ヲ得タル上之カ供與ヲ受ケ

被告人ノ供述ニ依ル事實ノ認定 衆議院議員選舉法第百十二條第一項第五號ニ所 謂選舉運動者

第五 被告人西源右衛門ハ

(一) 同月十日頃同郡蜷城村小學校ニ於テ三笠半次郎ヨリ同候補者ニ投票シタル選舉人ニ對シ報酬トシテ供與スヘキ趣旨ノ下ニ金百圓ノ交付ヲ受ケ

(二) 同月十六日頃同村信用組合倉庫横ニ於テ右三笠半次郎ヨリ右同趣旨ノ下ニ金百圓ノ交付ヲ受ケタルモノナリ

而シテ被告人西源右衛門ノ判示所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人藤本藤三郎ノ判示所爲ハ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第四號ニ該當スルヲ以テ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮二月ニ處シ被告人西源右衛門ノ判示所爲ハ同法第一百十二條第一項第五號後段刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮二月ニ處シ尙同法第二十一條ニ則リ未決勾留日數中被告人藤本藤三郎ニ對シテハ十五日西源右衛門ニ對シテハ二十日ヲ夫々右本刑ニ算入シ尙判示被告人西源右衛門ノ交付ヲ受ケタル金二百圓ノ利益ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ衆議院議員選舉法第一百四條ニ則リ其ノ價格ヲ追徵スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人鈴木義男、北村利夫上告趣意書第六點原判決ハ第五事實トシテ「被告人西源右衛門ハ

(一) 同月十日頃同郡蜷城村小學校ニ於テ三笠半次郎ヨリ同候補者ニ投票シタル選舉人ニ對シ報酬ト

シテ供與スヘキ趣旨ノ下ニ金百圓ノ交付ヲ受ケ(二) 同月十六日頃同村信用組合倉庫横ニ於テ右三笠半次郎ヨリ右同趣旨ノ下ニ金百圓ノ交付ヲ受ケタルモノナリ」ト判示シ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第五號ニ問擬シタリ併シテ其ノ證據理由ヲ閱スルニ「……右金員授受ノ趣旨カ夫々判示ノ如クナル點ハ(中略)一、被告人源右衛門ニ對スル檢事ノ第一、二回聽取書中(記錄第九二丁以下及第二五一丁以下)同人ノ供述トシテ私ハ昭和十一年二月十一日頃及十六日頃ノ二回ニ互リ百圓宛二百圓選舉ノ金ヲ三笠半次郎ヨリ受取リタルカ三笠ハ最初ノ百圓ヲ私ニ渡ス際後テ相談ノ上村ノ者ニ花見ノ様ナ際ニ御馳走ヲ出スカラ其ノ時ハ何レ相談シテスル夫迄持テ居リ吳レト云ツテ渡サレタルニヨリ私ハ之ハ選舉ノ後當局ノ取締ノ目ニ觸レサル様ナリタル際村ノ有權者カ藤サンニ投票セル御禮ノ意味ニテ花見等ニ此等ノ者ニ御馳走ヲ出ス筈ノ金テアリ其ノ際ニハ三笠ト私トカ相談ノ上其ノ處分ヲスル故夫迄私カ保管シ置ク意味ニテ三笠カ私ニ預ケルモノナリト思ヒ之ヲ預リタリ次ノ百圓ニ就テモ同様ノ趣旨ニテ之ヲ預リタルモノナリ云々ノ記載」ヲ綜合シテ之ヲ認ムル旨説明シタリ然レトモ被告人源右衛門ノ右供述ノ趣旨ハ引用ニ依リ明白ナル如ク判示金二百圓ハ「同候補者ニ投票シタル選舉人ニ對シ報酬トシテ供與スル」趣旨ニテ受取リタリト謂フニ非サルハ勿論後日右金員ヲ使用スル場合ニ於テモ被告人源右衛門カ單獨ニテ「有權者等ヲ饗應」スルト謂フニモ非ス即被告人源右衛門ハ三笠半次郎ヨリ一時金二百圓ヲ預リ將來右三笠ト相談ノ上使用方法ヲ決定シ村内有權者等ヲ饗應スル資金トシテ三笠

被告人ノ供述ニ依ル事實ノ認定 衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第五號ニ所謂選舉運動者

被告ノ供述ニ依ル事實ノ認定 衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第五號ニ所謂選舉運動者

ニ代リ保管スル爲受取リタリト云フニ歸著ス之ヲ法律上解釋スレハ將來村内ノ選舉人ニ對シ響應ヲ爲スコトヲ共謀シタル被告人源右衛門ト三笠半次郎トカ其ノ共犯者内部ノ關係ニ於テ其ノ資金ヲ授受シ三笠カ保管スル代リニ被告人源右衛門ヲシテ保管セシメタル事實ヲ認定シ得ルニ過キス原判決カ唯一ノ證據トシテ引用スル被告人源右衛門ノ供述内容ニシテ以上説明ノ如クナル以上原判決ニハ重大ナル事實誤認若クハ理由不備ノ違法アリテ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニ在レトモ

【要旨第一】

刑事訴訟法ノ望ムトコロハ裁判上ノ認定ヲシテ眞實ト符合セシムルニ在リ茲ヲ以テ被告人ノ供述ニ付テモ其ノ供述ノ外形ニ拘ルコトナク其ノ引用セル供述ノ全體ヨリシテ眞實ニ合スルモノト觀ラルル事實ヲ認定スヘキモノトス所論摘録ノ供述ノ外原判決ニ引用セル爾餘ノ同被告人ノ供述ノ全體並其ノ他原判決舉示ノ證據ヲ綜合考覈スルトキハ原判示第五事實殊ニ被告人源右衛門カ三笠半次郎ヨリ判示候補者ニ投票シタル選舉人ニ對シ報酬トシテ供與スヘキ趣旨ノ下ニ判示金錢ノ交付ヲ受ケタル事實ヲ認定スルニ足リ記録ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト認ムルヲ得ス被告人源右衛門ト三笠半次郎トカ將來居村内ノ選舉人ニ對シ響應ヲ爲スヘキコトヲ共謀シ其ノ資金ヲ被告人源右衛門ニ於テ半次郎ニ代リテ保管シタリトノ所論ハ原判決ノ引用セル同被告人ノ供述ノ一部ノ外形ニ拘リ之ヲ被告人ノ有利ニノミ展開シタル見解タルヲ免レスサレハ原判決ニハ所論ノ如キ事實誤認又ハ理由不備ノ違法存スルモノト謂フヲ得ス論旨理由ナシ

同第九點原判決ハ第五事實トシテ「被告人西源右衛門ハ(一)同月十日頃同郡蜷城村小學校ニ於テ三笠半次郎ヨリ同候補者(藤勝榮)ニ投票シタル選舉人ニ對シ報酬トシテ供與スヘキ趣旨ノ下ニ金百圓ノ交付ヲ受ケ(二)同月十六日頃同村信用組合倉庫横ニ於テ右三笠半次郎ヨリ右同趣旨ノ下ニ金百圓ノ交付ヲ受ケタルモノナリ」ト認定シ被告人源右衛門ヲ金錢ノ交付ヲ受ケタル罪ニ問擬處斷シタリ然レトモ被告人源右衛門ヲ同罪ニ問擬スルニハ被告人源右衛門ハ判示候補者ノ爲投票取纏又ハ買收ニ從事シタルモノナルカ又ハ投票取纏方又ハ投票買收ノ依頼ヲ受ケ之ヲ承諾シタルモノナルコトヲ事實理由ニ明示セサルヘカラサルモノナリトス何トナレハ前示認定ニ依レハ被告人源右衛門ハ判示候補者ニ投票シタル選舉人ニ對シ報酬トシテ供與スヘキ趣旨ノ下ニ判示金員ノ交付ヲ受ケタリト云フニ在ルヲ以テ被告人源右衛門カ投票取纏又ハ買收ニ從事シタルモノニアラサル限り同候補者ニ投票ヲ爲シタル選舉人ハ誰々ナリヤ知ル能ハサルヲ以テ之カ報酬ヲ供與スルニ由ナク從テ被告人源右衛門カ判示金員ノ交付ヲ受ケタルハ如何ナル理由ニ基クモノナリヤ知ルコト能ハサレハナリ然ルニ原判決ハ何等此ノ事實ヲ明示スル所ナク漫然被告人源右衛門ヲ同罪ニ問擬シタルハ事實理由不備ノ違法アルモノニシテ破毀スヘキモノナリト信スト謂フニ在レトモ

【要旨第二】

原判示第五事實ニ依レハ被告人源右衛門ハ昭和十一年二月十日頃並同月十六日頃判示各場所ニ於テ三笠半次郎ヨリ判示候補者ニ投票シタル選舉人ニ對シ報酬トシテ供與スヘキ趣旨ノ下ニ合計金二百圓ノ

被告人ノ供述ニ依ル事實ノ認定
謂選舉運動者

衆議院議員選舉法第百十二條第一項第五號ニ所

八二一

(101)

交付ヲ受ケタルモノナレハ被告人ヲ目シテ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第五號ニ所謂選舉運動者ナリト做スヲ妨ケス蓋同法ニ所謂選舉運動トハ一定ノ議員選舉ニ付一定ノ議員候補者ヲ當選セシムヘク投票ヲ得若ハ得シムルニ付直接又ハ間接ニ必要且有利ナル周旋勸誘若ハ誘導其ノ他諸般ノ行為ヲ爲スコトヲ汎稱シ直接ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ周旋勸誘等ヲ爲ス行為ニ限局セラレヘキモノニ非サルコトハ本院ノ判例トスルトコロニシテ被告人ノ前敍ノ行為モ判示候補者ノ當選ニ關シ資益スルトコロアレハナリサレハ原判決ニハ所論ノ如キ事實理由不備ノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○移民保護法違反幫助被告事件(昭和十二年(九)第四九三號
同年五月二十九日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 津司安太郎 辯護人 濱野徹太郎
赤井幸夫

【第一審】 神戸區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

○判示事項

移民保護法第一條ニ所謂移民——同法第二十一條ニ所謂渡航

○判決要旨

- 一 中華民國及滿洲國以外ノ外國ニ渡航ノ目的力專ラ貸金ノ回收ニ在リ勞働ニ從事スルハ從タル目的タルニセヨ仍ホ移民保護法第一條ニ所謂移民タルヲ失ハサルモノトス【要旨第一】
- 二 渡航ノ許可ヲ受ケスシテ乗船シ其ノ船力我領土外ニ渡ルヘキ狀態ニ在ルトキハ移民保護法第二十一條ニ所謂渡航ニ外ナラサルモノトス【要旨第二】

【參照】 移民保護法第一條 本法ニ於テ移民ト稱スルハ勞働ニ從事スルノ目的ヲ以テ清韓兩國以外ノ外國ニ渡航スル者及其ノ家族ニシテ之ト同行シ又ハ其ノ所在地ニ渡航スル者ヲ謂フ

前項勞働ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

同法第二十一條 渡航ノ許可ヲ受ケス又ハ渡航地ヲ詐リテ許可ヲ受ケ又ハ渡航差止

移民保護法第一條ニ所謂移民 同法第二十一條ニ所謂渡航

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ十日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十一年三、四月頃神戸市内三越百貨店食堂ニ於テ小出三郎ヨリ三木半次郎カ行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ布哇ホノルルニ渡航スルニ付其ノ實現ニ盡力アリタキ旨ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ同人カ同地ニ於テ漁業ニ從事スルノ情ヲ知り乍ラ其ノ頃自己ノ知人ナル元船員山田榮太郎ニ三木半次郎ノ密航ニ付斡旋アリ度キ旨ノ依頼ヲ爲シ遣リ同人ヨリ更ニ日本郵船株式會社汽船大洋丸乗組員小林一郎ニ其ノ旨依頼シ三木ハ右小林一郎庇護ノ下ニ同大洋丸ニ乗船渡航スルコトトナリタル爲被告人ハ右盡力ニ對スル報酬トシテ前示山田榮太郎及小林一郎ニ贈與スヘキ金六百圓ヲ同年七月二十七日頃小出三郎ヨリ受領シ其ノ情ヲ知り乍ラ同日神戸市神戶區北長狹通大野屋旅館ニ於テ右ノ内金百圓ヲ山田榮太郎ニ金五百圓ヲ小林一郎ニ各交付シ因テ三木半次郎ヲシテ同年同月二十九日ホノルル向横濱港出帆ノ汽船大洋丸ニ乗船ノ上布哇ホノルルニ渡航セシメ以テ三木半次郎ノ前示犯行ヲ容易ナラシメ之カ幫助ヲ爲シタルモノナリ法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ移民保護法第二十一條刑法施行法第十九條第二條第二十條刑法第六十二條第一項ニ該當スルヲ以テ刑法第六十三條第六十八條第四號ニ則リ法定ノ減刑ヲ爲シ其ノ罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處シ右罰金不納ノ場合ハ同法第十八條ニ則リ十日間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人濱野徹太郎、赤井幸夫上告趣意書第二點上告人カ三木半次郎ノ渡航ニ付小出ヨリ其ノ援助方依頼セラレテ之ヲ承諾シタルハ同情ノ餘ニシテ且上告人カ斯ク同情ヲシテ同人ノ援助ヲ爲シタルハ同人カ資金回收ノ爲ナルコト前敍ノ通りナルモ假リニ上告人ニ於テハ同人ノ渡航カ資金回收ト共ニ勞働ニ從事スル目的アリシヲ知リタリトスルモ渡航ノ目的ハ専ラ資金回收ニアリテ漁業ニ從事スルハ其ノ間ノ附隨的ノコトナリシナリ而モ漁業ニ從事スルハ不確定のナモノニシテ或ハカモ知レン程度ノモノナリシナリ然レハ移民保護法第一條ニ所謂移民ト謂フヲ得サルモノナリ蓋同條ニ所謂移民ナルモノハ勞働ニ從事スル目的ヲ以テ海外ニ渡航スル者ヲ云フモノニシテ其ノ目的タルヤ確定的ニシテ而モ唯一或ハ主要タル場合ヲ指稱スルモノナリ果シテ然ラハ本件ノ如ク渡航ノ目的カ専ラ資金ノ回收ニアリテ而モ漁業ニ從事スルコトハ不確定ニシテ附隨的ノモノナルニ於テハ同條ニ所謂移民ト云フコトヲ得サルモノナリ然レハ移民保護法第二十一條所定ノ犯罪構成セス正犯ニシテ然リ上告人ノ如キ之カ幫助行爲ヲナシタルニ過キササルニ於テハ當然同條ノ從犯トシテ其ノ犯罪成立セサルモノナリ然レハ原判決ハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ當然破毀セラルヘキモノト信スト云フニ在リ

因テ案スルニ移民保護法第一條ニ移民ト稱スルハ勞働ニ從事スルノ目的ヲ以テ中華民國及滿洲國以外ノ外國ニ渡航スル者ヲ指斥シ其ノ勞働ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムトアリ而シテ移民保護法施行細則

【要旨第一】

第一條ニハ移民保護法第一條ニ掲クル労働ノ種類ヲ規定セルヲ以テ其ノ以外ノ目的ヲ以テ渡航スル者ハ之ヲ移民保護法ニ所謂移民ト稱スヘキニ非サルコト言フ俟タサルト同時ニ假令右渡航ノ目的ハ專ラ賃金ノ回收ニ在リ労働ニ従事スルハ從タル目的タルニセヨ仍。移民保護法第一條ニ所謂移民タルヲ失ハサルモノトス蓋同法ハ海外ニ於テ労働ニ従事スル者ヲ保護スルト共ニ公安ノ維持又ハ外交上ノ必要ニ應スル爲其ノ渡航移住等ニ付取締制限ヲ規定シタルモノナレハ苟モ労働ニ従事スル目的ナルニ於テハ其ノ主從ヲ區別スル要ナケレハナリ原判決ニ認メタル事實ハ第一點摘録ノ如クナルヲ以テ被告人ノ行爲ハ同法第二十一條ノ幫助罪ニ當リ原判決ノ法律適用ニ誤アルヲ見ス論旨理由ナシ

同第四點原審判決ハ其ノ事實理由ニ於テ「被告人ハ昭和十一年三、四月頃神戸市内三越百貨店食堂ニ於テ小出三郎ヨリ三木半次郎カ行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ布哇ホノルルニ渡航スルニ付其ノ實現ニ盡カアリタキ旨ノ依頼ヲ受ケ之ヲ承諾シ同人カ同地ニ於テ漁業ニ従事スルノ情ヲ知り乍ラ其ノ頃自己ノ知人ナル元船員山田榮太郎ニ三木半次郎ノ密航ニ付斡旋アリ度キ旨ノ依頼ヲ爲シ遣リ同人ヨリ更ニ日本郵船株式會社汽船大洋丸乗組船員小林一郎ニ其ノ旨依頼シ三木ハ右小林一郎庇護ノ下ニ大洋丸ニ乗船渡航スルコトトナリタル爲被告人ハ右盡力ニ對スル報酬トシテ前示山田榮太郎及小林一郎ニ贈與スヘキ金六百圓ヲ同年七月二十七日小出三郎ヨリ受領シ其ノ情ヲ知り乍ラ同日大野屋旅館ニ於テ右ノ内金百圓ヲ山田榮太郎ニ金五百圓ヲ小林一郎ニ各交付シ因テ三木半次郎ヲシテ同年同月二十九日ホノル

ル向横濱港出帆ノ汽船大洋丸ニ乗船ノ上布哇ホノルルニ渡航セシメ以テ三木半次郎ノ前示犯行ヲ容易ナラシメ之カ幫助ヲナシタルモノナリ」ト判示シ行政廳ノ許可ヲ受クルコトナク布哇ホノルルニ渡航シタル事實ノ證據理由ニ於テ三木半次郎ニ對スル檢事ノ聽取書中「昭和十年四月迄布哇ホノルルニテ漁師ヲ爲シ其ノ後本籍地ニ歸リタルカホノルルニテ四、五千圓ヲ他ニ貸付ケ居タル爲其ノ回收旁々五、六年漁師トシテ出稼スルコトトナリタルカ自分ハ曩ニ脱船入國シ居ル故密航セント思ヒ昭和十一年三月頃小出三郎ニ密航ノ方法ヲ依頼シ同年七月二十九日午後一時二十分頃大洋丸ニ乗船シ無事航行ヲ續ケ居タルカ本年八月六日即明朝九時ホノルルニ著ク前日午後五時頃船中ニテ發見セラレ其ノ翌七日ホノルル移民官ニ引渡サレ取調ヲ受ケタル旨」ノ供述記載トアリ然レトモ右判決ハ理由不備又ハ擬律錯誤ノ違法アルモノト信ス按スルニ移民保護法第二條ニハ「移民ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ外國ニ渡航スルコトヲ得ス」トアリ同法第二十一條ハ「渡航ノ許可ヲ受ケスシテ渡航シタル移民云々」ト規定シ同條所定ノ犯罪ヲ構成スルニハ移民ナルコト渡航ノ許可ヲ受ケサルコト及渡航シタルコトヲ以テ其ノ要件トナスモノナリ同法第二十一條ノ所謂渡航トハ一國ノ領土外ニ赴クコトヲ總稱スルモノニシテ必スシモ他國へ入國シタルコトヲ要セス苟モ他國へ入國スルノ目的ヲ以テ一國ノ領土ヲ離レタ場合ニハ渡航ノ事實アリシモノト認メテ差支ナシト説ク者アリ原判決モ亦此ノ見解ニナラヒテ判斷シタルヤノ憾アリ然レト單ニ帝國ノ領土ヲ離レタルノミヲ以テ未タ渡航アリト云フヲ得ス出航後目的國

ニ入國スルコトニヨリテ始メテ茲ニ渡航ノ事實アリト認ムヘキモノト信ス蓋同法處罰ノ法意ハ一ニ移民ノ保護並外交關係ノ圓滑ヲ保護スルニ在ルモノナレハ帝國領土ヲ出航後目的國ニ上陸又ハ少ナクトモ其ノ領海内ニ入ルニ非サレハ法益ヲ侵害スルノ恐ナキノミナラス斯ル法益侵害ノ實ナキ行爲ヲモ處罰スルハ不當ニ個人ノ自由ヲ壓シテ處罰ノ範圍ヲ擴張スルモノト謂フヘキナリ加之刑法第三百三十六條ノ阿片煙輸入罪同法第四百四十八條ノ偽貨輸入罪及銃砲火藥類取締法等ニ於ケル輸入ノ觀念ニツキテハ陸揚又ハ領海内ニ入ルコトヲ必要トスルコト學說判例等シク之ヲ認ムル處ナリ(輸入ノ觀念ニツキテ阿片煙輸入罪ニツキ陸揚說昭和八年(れ)第七一七號同年七月六日大判、銃砲火藥類取締法違反事件ニツキ明治四十年九月二十七日大審院判例)以上輸入ノ觀念ニツキ渡航ナル觀念ヲ對比考量スルトキ竝移民保護法第二十一條ノ法意ヨリ照察スルトキハ同法ニ所謂「渡航シタル移民」トハ帝國ノ領土ヲ出航シテ他國ニ入國シタル場合ヲ指稱スルモノニシテ單ニ帝國ノ領土ヲ離レタルノミニテハ實行ノ著手アリタルニ過キスシテ未タ犯罪ノ完成アリタリト解スルコトヲ得サルモノナリ尙移民保護法第二十一條ニハ「渡航シタル移民」トアリ「出航シタル移民」ト規定シアラサルニ徴シテモ右ノ如ク解スルヲ妥當ナリト信ス本件ニ於テ見ルニ三木半次郎ノ乘船セル大洋丸ハ昭和十一年七月二十九日橫濱港ヲ出帆シ同年八月七日午前九時ホノルル著港前日即同八月六日午後五時頃同人ノ密航發覺シホノルル移民官ニ引渡サレタルモノナリ然レハ三木半次郎ノ密航發覺シタルハホノルル著港十七時間前ニシテ未タ

米國ノ領海外ナルコト明白ナリ果シテ然ラハ三木ハ渡航ノ結果ヲ得サリシナルヘク移民保護法第二十一條ニ所謂犯罪ヲ構成セルモノト謂フヘシ三木ニシテ然リ上告人ニ於テ同條犯罪ノ幫助犯成立セサルコト言フ須ヒサル所ナルヘシ然レハ原判決カ上告人ヲシテ同法第二十一條刑法第六十二條一項ニ間擬シタルハ擬律錯誤ノ違法アルカ理由不備ノ違法アルモノニシテ破毀セラルヘキヤ當然ナリト信スルナリト云フニ在レトモ

原判決ノ認メタル事實ハ論旨摘録ノ如クナルモ之ヲ引用證據ヨリ見レハ三木半次郎ハ船カ布哇ホノルルニ著ク十六、七時間前ニ密航ヲ發見セラレ著港ト同時ニ移民官廳ニ引渡サレタル趣旨ト解スヘキモノトス因テ案スルニ渡航ノ許可ヲ受ケスシテ乘船シ其ノ船カ航海自然ノ順序ヲ辿リ我領土外ニ渡ルヘキ状態ニ在ルトキハ移民保護法第二十一條ニ所謂渡航ニ外ナラサルモノトス蓋渡航ハ上陸又ハ入國ト觀念ヲ異ニスルノミナラス移民保護ノ目的ヨリ密航者ヲ取締ル立法ノ精神ヨリ推スニ航海ノ途中ニ在ル者ヲモ含ムト解スルヲ妥當トスレハナリ故ニ原判決ニ於テ敍上ノ事實ヲ認メテ移民保護法第二十一條ヲ適用シタルハ正當ニシテ所論ノ如ク理由不備又ハ擬律錯誤ノ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事武松久吉關與

○偽證教唆被告事件(昭和十二年(九)第五七三號
同年五月二十九日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 上原永盛 辯護人 上原健男

【第一審】 那覇地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

教唆者ヲ教唆シタル者ノ罪數

○判決要旨

同一訴訟事件ニ付教唆者二名ヲ教唆シ其等ノ者ヲシテ更ニ十數名ヲ教唆シテ偽證セシメタルトキハ證人ノ員數ニ應シテ數罪成立シ併合罪トシテ處斷スヘク連續ノ一罪又ハ牽連ノ一罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

【參照】 刑法第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス
教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人新垣松ハ昭和十一年七月一日施行ノ沖繩縣島尻郡小祿村會議員選舉ニ際シ議員候補者トシテ立候補シ被告人新垣牛助ハ之カ選舉運動員ト爲リ共ニ選舉運動ニ從事中同年六月下旬頃居村內ニ於テ新垣松ハ選舉人ナル原審相被告人浦事新垣蒲戸外八名ニ被告人新垣牛助ハ選舉人太郎事嘉手刈樽外七名ニ夫々個々ニ面接シ被告人新垣松ニ投票アリ度キ旨依頼シタル爲右兩被告人ハ村會議員選舉罰則違反ノ廉ニ依リ那覇區裁判所ニ於テ略式命令ヲ以テ罰金刑ニ處セラレ同年七月二十二日該命令ヲ受ケタルヨリ被告人新垣松ハ其ノ翌日頃同村出身ニシテ那覇市ニ於テ新聞記者ヲ業トセル被告人上原永盛ノ肩書居宅ヲ訪問シ之カ對策ニ付教示ヲ求メタルトコロ

第一 被告人上原永盛ハ即時同所ニ於テ被告人新垣松ニ對シ正式裁判ノ申立ヲ爲シ公判廷ニ於テハ犯行ヲ否認シタル上被面接者ヲ證人トシテ喚問ヲ求メ其ノ證人ニ對シテハ何等投票ノ依頼ヲ受ケタルコト無キ旨虛偽ノ事實ヲ證言セシムル様依頼シ偽證セシムヘキコトヲ教唆シ

(中略)

タルモノナリ

被告人上原永盛ハ昭和十一年七月七日那覇地方裁判所ニ於テ衆議院議員選舉法違反ノ罪ニ依リ懲役三月ニ處セラレ上告中ノトコロ昭和十二年二月十七日上告棄却トナリタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人上原永盛ノ行爲ハ曩ニ確定シタル衆議院議員選舉法違反ノ罪ト刑法第五十條ノ關係ニアルヲ以テ

教唆者ヲ教唆シタル者ノ罪數

未タ裁判ヲ經サル本件ニ付更ニ裁判ヲ爲スヘク本件ノ所爲ハ刑法第六十一條第二項第六十九條ニ該當シ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ヲ適用シテ犯情重シト認ムル新垣龜ニ對スル偽證教唆罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役六月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人上原健男上告趣意書第一點原判決ハ擬律錯誤ノ違法アルカ若ハ理由不備ノ違法アリ原判決ハ其ノ判示第一ノ事實トシテ被告人永盛ハ即時同所ニ於テ被告人新垣松ニ對シ原審相被告人新垣龜外十五名ヲシテ虚偽ノ事實ヲ證言セシムル様依頼シ偽證セシムヘキコトヲ教唆シト判示シ其ノ判示第二ノ事實トシテ被告人新垣松ハ右教唆ニ基キ被面接者ヲシテ偽證ヲ爲サシメムコトヲ決意シ被告人新垣牛助ト會見ノ上前記趣旨ノ偽證ヲ爲サシメムコトヲ協議シテ(イ)被告人新垣松ハ同月下旬頃居宅ニ於テ原審相被告人新垣加那外十一名ニ對シ(ロ)被告人新垣牛助ハ其ノ頃同所ニ於テ原審相被告人新垣牛外三名ニ對シ虚偽ノ證言方依囑シ偽證ノ教唆ヲ爲シ原審相被告人新垣龜外十五名ヲシテ虚偽ノ陳述ヲ爲サシメタリト判示シ法律適用ノ部ニ於テ被告人新垣松、新垣牛助ノ所爲ハ各刑法第六十條第六十一條第一項第六十九條ニ該當シ各同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ヲ適

用シ被告人永盛ノ所爲ハ刑法第六十一條第二項第六十九條ニ該當シ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ヲ適用シ被告人松、牛助及永盛ノ所爲ニ對シ刑法第四十五條前段同法第四十七條第十條ヲ以テ處斷シタリ然レトモ原判決ノ判示スルトコロニ依レハ被告人松及牛助ハ昭和十一年九月下旬頃原審相被告人新垣龜外十五名ニ對シ同一ノ目的ノ下ニ獨立シテ和罪ト爲ルヘキ同種ノ行爲タル偽證ノ教唆ヲ順次ニ爲シタルコト明ナリ然ルニ原判決ハ之ニ對シ刑法第四十五條前段同法第四十七條第十條ヲ適用處斷シタリ然レトモ刑法ハ刑法第四十五條ニ確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トスト規定シアルニ拘ラス特ニ同章中ニ第五十五條ノ規定ヲ設ケ連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷スト規定シタリ之レ未タ確定裁判ヲ經サル數罪中或ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合或ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルル場合或ハ連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルル場合ヲ峻別シ刑法第五十四條第五十五條ノ場合ハ何レモ之ヲ一罪トシテ處斷スルヲ便宜トシ特ニ規定シタルモノニシテ單ナル未タ確定裁判ヲ經サル數罪ト之ヲ區別スルノ必要アルハ勿論刑法カ之ヲ規定スルノ趣旨ヨリスルモ之ヲ區別セサルヘカラサルナリ而シテ刑法カ特ニ刑法第五十四條同第五十五條ヲ規定スル以上刑法第四十五條ハ刑法第五十四條及第五十五條ヲ除ク「未タ確定裁判ヲ經サル數罪」ノ場合ニノミ適用サルヘキモノニシテ苟モ同一ノ目的ノ下ニ獨立シテ犯罪ト爲ルヘキ同種ノ行爲カ順次反覆セラルル場合ニ於テハ之ヲ刑法第四十五

條ノ規定スル場合ト區別セサルヘカラサルナリ然レトモ從來ノ判例ヲ閱スルニ同一被告事件ニ付數人ニ對シテ偽證ノ教唆ヲ爲シ偽證セシムルニ於テハ其ノ教唆カ數個ノ行爲ヲ以テ爲サレタルト一個ノ行爲ヲ以テ爲サレタルトヲ問ハス常ニ併合罪ヲ構成スルモノニシテ連續一罪ヲ以テ論スヘキモノニ非スト判示スルモ(昭和七年(れ)第一六九二號昭和八年二月十四日第四刑事部判決)如何ナル理由ニヨリ他ノ犯罪ニ於テハ連續一罪トシテ處斷セラルヘキ所爲カ偽證教唆罪ニ限り理由ノ如何ヲ問ハス常ニ併合罪ヲ構成スルヤ明ナラサルナリ原判決亦漫然從來ノ判例ヲ踏襲シ被告人松同牛助カ共謀ノ上昭和十一年九月下旬頃原審相被告人新垣龜外十五名ニ對シ順次偽證ノ教唆ヲ爲シ偽證ヲ爲シタルノ事實ヲ認定シタルニ拘ラス法律適用ノ部ニ於テ何等ノ理由ヲ附セス漫然被告人等ノ所爲ニ對シ刑法第四十五條前段同法第四十七條第十條ヲ適用シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リ適用スヘカラサル法律ヲ適用シタルノ違法アルカ若ハ理由不備ノ違法アリテ此ノ點ニ於テ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ同一訴訟事件ニ付數名ニ對シテ偽證ヲ教唆シタルトキハ證人ノ員數ニ應シテ數罪成立シ併合罪トシテ處斷スヘク連續ノ一罪又ハ牽連ノ一罪ヲ構成スヘキモノニ非サルコト本院ノ屢々判例トスル所ナリ故ニ右事件ニ於テ教唆者ヲ教唆シタル者ニ付テモ亦同一ニ論結スヘキモノナルコト更ニ絮說ヲ要セス原判示ニ依レハ被告人永盛ハ原審相被告人新垣松及同新垣牛助ヲ教唆シ右兩名ヲシテ第一審相被告人新垣龜外十五名ヲ教唆シ其ノ中十四名ヲシテ判示ノ如ク偽證セシメタリト云フニ在ルヲ以テ原判決ニ於

【要旨】

テ被告人永盛ニ對シ刑法第六十一條第二項第六十九條ノ外同法第四十五條第四十七條等ヲ適用シテ處斷シタルハ正當ニシテ所論ノ如ク擬律錯誤ノ違法ナク又原判決ニハ判文ニ其ノ理由ヲ説明セルカ故ニ理由不備ノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事武松久吉關與

○工場法違反被告事件(昭和十二年(れ)第五一二號 棄却)

(同年六月一日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 中村 兼 吉 辯護人 前 澤 英文

【第一審】 名古屋區裁判所 【第二審】 名古屋地方裁判所

○判示事項

工場法第九條ニ所謂危険ナル業務 工場法第九條ト同法施行規則第五條ノ關係

工場法第九條ニ所謂危険ナル業務——工場法第九條ト同法施行規則第五條ノ關係

○判決要旨

一年齡十六歳未滿ノ職工ニ對シ床上約九尺ノ高サナル危険防止ノ装置ナキ廻轉中ノ動力傳導シヤフトヨリ約二尺五寸ヲ隔ツルニ過キサル箇所ニ於テ旋盤機ノ調帶取付作業ヲ爲サシムル如キハ工場法第九條ニ所謂危険ナル業務ニ該當スルモノトス【要旨第一】
二工場法施行規則第五條ハ工場法第九條ノ法意ニ從ヒ同條ニ掲ケル「業務」ノ範圍ヲ明確ナラシメタルモノトス【要旨第二】

【参照】工場法第九條 工場主ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危険ナル部分ノ掃除、注油、検査若ハ修繕ヲ爲サシメ又ハ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ若ハ取外シテ爲サシメ其ノ他危険ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

工場法施行規則第五條 工場法第九條ニ掲ケル業務ノ範圍左ノ如シ

- 一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ附屬スル勢輪曲柄、連接桿、聯桿器、啣子桿、發電機ノ「コンミニューター」、轉子、銳利ナル刀物、齒輪、調帶車、車軸、車輪

接手又ハ之ニ準スヘキ危険ナル部分ヲ其ノ運轉中ニ掃除、注油、検査又ハ修繕スル業務

- 二 危険ナル方法ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ又ハ取外シテ爲ス業務
- 三 汽罐ノ焚火、給水弁、阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱
- 四 發電機、電動機、發電機ノ抵抗器若ハ變壓器ノ取扱又ハ高壓電線ノ接続
- 五 鋸機ニ木材ヲ送給スル業務
- 六 危険ナル齒輪、調帶車、勢輪、調索ニシテ完全ナル柵圍其ノ他危害豫防裝置ナキモノ又ハ之ニ準スヘキモノニ接近シテ行フ業務
- 七 完全ナル柵圍其ノ他ノ危害豫防裝置ナキ車軸道、足場其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ當時職工十數名ヲ使用シテ前掲肩書住居地ニ於テ電動機ニ依リ鐵工場ヲ經營スルモノナル處昭和十一年二月十三日午後五時三十分頃其ノ使用職工中村銀次郎ハ右工場ニ於テ當時十六歳未滿ナリシ同工場雇人北岡勇夫(大正十一年三月三十一日生)ヲシテ自己ノ使用中ノ旋盤機ノ切斷落下シタル調帶ヲ天井梁ノ所謂段車ニ取付ケシメント欲シ

床上ヨリ約九尺ノ高サニ於テ該梁ニ架設シアル幅員一尺ノ板二枚ノ上ニシテ其ノ約二尺五寸ノ距離ニ接近シテ何等危険防止ノ裝置ナキ工場備付動力傳導シャフトノ廻轉シ居レル箇所へ登攀セシメタル上同人ニ對シ床上ヨリ前記調帶ヲ投上ケテ之ヲ受取ラシメ以テ危険ナル業務ニ就カシメタルモノナリ

法律ニ照スニ判示事實ハ工場法第二十條第九條第二十二條同法施行規則第五條第六號ニ該當スルヲ以テ所定罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ基キ被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人前澤英文上告趣意書第一點ハ原判決ハ工場法第九條工場法施行規則第五條第六號ヲ誤解適用セテ違法アリ本件事實ハ被告人中村兼吉ノ經營ニ係ル鐵工場ニ於テ昭和十一年二月十三日使用職工タル中村銀次郎カ當時十六歳未滿ナリシ同工場雇人北岡勇夫ヲシテ自己ノ使用中ノ旋盤機ノ切斷落下シタル調帶ヲ天井梁ノ所謂段車ニ取付ケシメント欲シ床上ヨリ約九尺ノ高サニ於テ該梁ニ架設シアル幅員一尺ノ板二枚ノ上ニシテ其ノ約二尺五寸ノ距離ニ接近シテ何等危険防止ノ裝置ナキ工場備付ノ動力傳導「シャフト」ノ廻轉シ居ル箇所へ登攀セシメタル上同人ニ對シ床上ヨリ前記調帶ヲ投上ケシメテ

之ヲ受取リタリト云フニ在リ工場法施行規則第五條第六號ハ「危険ナル齒輪、調帶車、勢輪、調帶、調索ニシテ完全ナル柵圍其ノ他危険豫防裝置ナキモノ又ハ之ニ準スヘキモノニ接近シテ行フ業務」ト規定スルカ故ニ前記事實カ右規定ニ該當スルモノナリトナス原判決ハ前記事實ハ十六歳未滿ノ者ヲシテ「廻轉中ノシャフトニ約二尺五寸程接近シタル箇所ニ立タシメタル」點ニ於テ同規則ニ該當スルモノナリト云ハルルカ如シ果シテ然リトセハ右ハ工場法施行規則第五條第六號ノ解釋ヲ誤リタルモノナリト信ス理由ハ次ノ如シ(一)北岡勇夫ナル者カ登攀シタル場所ヨリ約二尺五寸程接近シテ「シャフト」カ廻轉シ居リタル事實ニ付テハ爭無キモ右事實カ直ニ工場法施行規則第五條第六號ニ該當スルモノナリトセハ工場法第九條同法施行規則第五條ハ勿論工場法及同法施行規則ノ大半ハ全ク意味ヲ爲ササルニ至ルヘシ同法及同法施行規則ノ大半ハ十六歳未滿ノ者又ハ女子ニ對シ一定ノ業務ニ就業セシムル事ヲ禁シ其ノ業務ノ範圍制限及方法ニ關シ詳細之ヲ規定シ右業務ハ何レモ危険ナル裝置ニ接觸(Derühren)シテ爲ス業務ナル處同法施行規則第五條第六號ノ骨子ヲ爲ス業務ハ危険ナル裝置ニ接觸スルニ非スシテ單ニ接近スル(Sich nahern)ヲ止ル業務ナリ法律及命令カ危険ナル裝置ニ接觸スル業務ニ關シテハ之ヲ列舉シ限定シ更ニ幾多ノ制限ヲ設クルモ危険ナル裝置ニ接觸スルニアラスシテ單ニ接近スルニ止ル場合ニハ何等ノ制限ヲ設ケス(柵圍其ノ他危険豫防裝置云々ハ暫ク措キ)シテ單ニ廻轉中ノ「シャフト」トノ距離約二尺五寸程ナリシ事實ノミニテ足ルトナスハ工場法及他ノ工場法施行規則ヲ全ク無意味ナラ

シムル解釋ニシテ其ノ誤ナル事明瞭ナリ(2)工場法施行規則第五條ハ工場法第九條ヲ執行スル爲ニ發セラレタル所謂執行命令ニシテ同規則ヲ以テ法律タル工場法第九條ヲ擴充シ其ノ範圍ヲ逸脱スルハ憲法違反ナリ工場法第九條ハ掃除、注油、検査及修繕ヲナスニ付機械ノ運轉中ト雖其ノ危険ナラサル部分ニ付之ヲ禁スルモノニ非サル事異論ナカルヘキモ何人モ機械ニ接近スル事無クシテ掃除、注油、修繕及検査ヲナシ得サルヘキニ付工場法施行規則第五條第六號ニ付單ニ機械ニ約二尺五寸程接近シタリトノ一事ヲ以テ之ニ該當スルモノナリトナス原判決ノ解釋ヲ以テセハ右危険ナラサル部分ニ關スル掃除、注油、検査修繕モ亦工場法施行規則第五條第六號ニ該當スト云フヘク從テ工場法第九條ハ同施行規則第五條第六號ニ依リ改廢セラレタリト云ハサル可カラサルニ至ルヘシ右憲法違反ヲ認容スル原判決ノ解釋ノ誤ナル事明ナリト信スト云ヒ同第二點ハ原判決ハ審理不盡理由不備ノ違法アリ北岡勇夫ナル者ノ行爲カ工場法施行規則第五條第六號ニ該當スルモノナリト云ハシカ爲ニハ宜シク實地檢證ニ依リテ現場ノ詳細ナル調査ヲ遂ケ殊ニ「シャフト」ノ直徑廻轉速度ノ如何調帶ノ幅員及長サノ如何調帶カ「シャフト」ニ懸リタル後何分程經過セハ所持者ニ危険ヲ生スルヤ否等ハ充分之ヲ審理スヘク又如何ナル理由ニ依リテ右北岡勇夫ナル者ノ行爲カ工場法施行規則第五條第六號ニ該當スルモノナルヤ否ノ判斷ヲ爲シテ判決理由ニ詳細明示スヘキモノナリト信ス然ルニ原判決ハ之ヲ爲サス漫然廻轉中ノ「シャフト」ニ約二尺五寸程接近シタル事實ノミニ依リテ同施行規則第五條第六號ニ該當スルモノ

ナリトナスハ明ニ審理不盡理由不備ノ違法アルモノト云ハサルヘカラス原判決ハ以上二點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨第一】

原判示事實ハ原判決舉示ノ證據ヲ綜合シテ優ニ之ヲ證明スルニ足リ之ニ依レハ判示北岡勇夫(當時十六歳未滿)ノ判示調帶取附工作ハ判示危険防止ノ裝置ナキ廻轉中ノ動力傳導シャフトヨリ約二尺五寸隔ツルニ過キササル箇所ナルニ加ヘ床上約九尺ノ高サナル判示工場ノ天井梁ニ架設セル幅員一尺ノ板二枚ノ上ニ於ケル作業ナルヲ以テ危険豫防裝置ナキ動力傳導裝置ニ接近シテ行フ危険ナル業務ト云フヘク正ニ工場法施行規則第五條第六號ニ於テ其ノ意義ヲ明確ニセル工場法第九條ニ所謂「其ノ他危険ナル業務ニ就カシムルコト」ニ該當スルモノト解スヘキナリ而シテ工場法施行規則第五條ハ前敍ノ如ク

【要旨第二】

工場法第九條ノ法意ニ從ヒ只同條ニ掲クル「業務」ノ範圍ヲ明確ナラシムルニ過スシテ該施行規則第五條中其ノ孰レノ項目ニ於テモ工場法第九條ノ法意ヲ不法ニ擴充シ其ノ範圍ヲ逸脱スルノ規定存スルコトナシ從テ工場法第九條ノ「其ノ他危険ナル業務」ヲ以テ常ニ危険ナル裝置ニ接觸シテ爲ス業務ニ限定スル旨ノ所論カ其ノ當ヲ得サルコトハ勿論該施行規則第五條ヲ目シテ工場法第九條ノ規定ノ範圍ヲ逸脱セルモノナリトスル所論ハ到底之ヲ首肯スルヲ得ヌ又記録ヲ精査スルモ原判決ノ事實ノ認定ニ重大ナル誤認アリト疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナシ然ラハ原審カ被告人ニ對スル判示犯行ヲ認定シ之ニ判示法條ヲ適用處斷シタルハ極メテ正當ニシテ原判決ニハ審理不盡又ハ理由不備等何所論ノ如

キ違法ナシ論旨孰レモ理由ナシ
右ノ理由ナルニ因リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事村上常太郎關與

○關稅法違反被告事件 (昭和十二年(九)第五六三號 棄却)
同年六月二日第三刑事部判決

【上告人】 被告人 西岡芳太郎 辯護人 古賀元吉

外三名

【第一審】 神戸區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

○判示事項

關稅定率法第一條輸入稅表ノ酒精ニ對スル課稅標準——關稅法ノ故
買罪ノ組成物件ト沒收

○判決要旨

一 關稅定率法第一條輸入稅表中一九七號ノ酒精ニ付テハ其ノ含有
スル純酒精ノ容量ノ度数ニ依ラス輸入セラルル全量ニ對シ課稅
スヘキモノトス【要旨第一】

二 關稅法第七十五條ノ二ノ故買罪ヲ組成シタル物ハ刑法第十九條
ニ則リ之ヲ沒收シ得ヘキモノトス【要旨第二】

【參照】 關稅法第七十四條

輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ又ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ犯
罪ニ係ル貨物ノ原價ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ其ノ貨物ヲ沒收ス但シ他ノ法
律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

同法第七十五條 關稅ノ違脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ違脫シタル者ハ其ノ違脫ヲ圖リ又ハ
違脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス但
シ犯罪ニ係ル貨物カ關稅定率法別表第四百十二號第二項ニ掲クル貴石ナルトキハ
罰金又ハ科料ハ其ノ原價ノ三倍ニ相當スル金額トス

同法第七十五條ノ二 前二條ノ犯罪ニ係ル貨物ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シ
タル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ犯罪ニ係ル貨物カ前條但書ニ掲クル
貴石ナルトキハ罰金ハ五千圓以下トシ其ノ原價カ五千圓ヲ超ユルトキハ原價ニ相
當スル金額以下トス

同法第八十二條ノ四 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條
第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用
ス

關稅定率法第一條輸入稅表ノ酒精ニ對スル課稅標準 關稅法ノ故買罪ノ組成物件
ト沒收

關稅定率法第一條 外國ヨリ輸入スル物品ニハ別表ニ依リ關稅ヲ科ス
同法別表輸入稅表六十四號

品名	單位	稅率
葡萄酒(ポート、シエリー、ヴェルモット、マテラ、マルサラ、サンラファエル等ヲ含ム)	每百リットル	八一、九〇
但シ攝氏十五度ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スルモノヲ純酒精トシ原容量百分中純酒精ノ容量二十四ヲ超エサルモノ		
一、 釀入ノモノ		
二、 其ノ他		
甲、 原容量百分中純酒精ノ容量十四ヲ超エサルモノ		
イ、 攝氏十五度ニ於テ百立方センチメートル中ニ於ケル糖分ヲ葡萄酒トシテ計算シタル重量一グラムヲ超エサルモノ	每百リットル	二六、七〇
ロ、 其ノ他	每百リットル	四五、一〇
但シ攝氏十五度ニ於テ百立方センチメートル中ニ於ケル糖分ヲ葡萄酒トシテ計算シタル重量二十グラムヲ超エタルモノハ二十グラム以上一グラムヲ増ス毎二百リットルニ付二十五錢ヲ加フ		

品名	單位	稅率
乙、 其ノ他	每百リットル	四一、七〇
但シ攝氏十五度ニ於テ百立方センチメートル中ニ於ケル糖分ヲ葡萄酒トシテ計算シタル重量二十グラムヲ超エタルモノハ二十グラム以上一グラムヲ増ス毎二百リットルニ付二十五錢ヲ加フ		

品名	單位	稅率
同表六十六號		
別號ニ掲ケサル酒類		
一、 攝氏十五度ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スルモノヲ純酒精トシ原容量百分中純酒精ノ容量七ヲ超エサルモノ	每百リットル	二七、八〇
二、 其ノ他		
甲、 釀入ノモノ	每百リットル	一二四、〇〇
乙、 其ノ他	每百リットル	七三、九〇
但シ攝氏十五度ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スルモノヲ純酒精トシ原容量百分中純酒精ノ容量五十以上一ヲ増ス毎二百リットルニ付一圓二十八錢ヲ加フ		

酒精

每リットル 一、二〇

昭和七年法律第四號輸入税ノ從量税率ニ關スル法律 關稅定率法別表輸入稅表ニ定メタル從量税率ハ當分ノ内之ヲ百分ノ百三十五トス但シ同輸入稅表ニ掲クル物品ニシテ本法ノ別表ニ掲クルモノノ從量税率ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル從量税率ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

刑法第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

同法第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 犯罪行爲ヲ組成シタル物
 - 二 犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物
 - 三 犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物
- 沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人西岡芳太郎同金永男ヲ各罰金二十九萬八百七十一圓ニ被告人梅谷茂同大澤袈裟雄ヲ各罰金七百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人西岡芳太郎同金永男ヲ各一年間被告人梅谷茂同大澤袈裟雄ヲ各百日間勞務役場ニ留置ス被告人梅谷茂ニ對シ押收ニ係ル酒精一斗入罐二個詰木箱二百十三箱及酒精一斗入罐一個ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ

全部被告人梅谷茂ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人西岡芳太郎同金永男ハ共謀ノ上酒精ヲ滿洲國營口又ハ關東州大連ニ於テ入手シ關稅ヲ違脱シテ内地ニ密輸入センコトヲ企テ被告人西岡芳太郎ハ之ニ要スル資金ヲ支出シ被告人金永男ハ其ノ仕入運送賣捌等ヲ分擔シ

(一) 昭和十年七月末頃滿洲國營口ニ於テ酒精六千八百四十立(一斗入罐二個詰二百箱)ヲ發動機船第二號東洋丸ニ積載シ同年八月二十日東京市荒川區尾久町荒川河岸ニ航行シ通關手續ヲ爲サス密ニ之ヲ同所ニ陸揚シ以テ一立ニ付一圓六十二錢ノ割合ニ依ル關稅合計一萬一千八十圓八錢ヲ違脱シ

(二) 同年十一月下旬頃滿洲國營口ニ於テ酒精六千八百四十立(前同様二百箱)ヲ前記東洋丸ニ積載シ同年十二月五日兵庫縣加古郡二見港ニ航行シ通關手續ヲ爲サス密ニ之ヲ同所ニ陸揚シ以テ關稅金一萬一千八十圓八錢ヲ違脱シ

(三) 昭和十一年一月中旬關東州大連港ニ於テ酒精八千五百五十立(前同様ノモノ二百五十箱)ヲ前記東洋丸ニ積載シ同年一月二十八日兵庫縣江井ヶ島ニ航行シ通關手續ヲ爲サス密ニ之ヲ同所ニ陸揚シ以テ關稅金一萬六千六百五十一圓ヲ違脱シ

(四) 同年二月十八日頃關東州大連港ニ於テ酒精一萬二百六十立(前同様ノモノ三百箱)ヲ前記東洋丸ニ積載シ同月二十六日兵庫縣江井ヶ島ニ航行シ通關手續ヲ爲サス密ニ之ヲ同所ニ陸揚シ以テ關稅金一萬六千六百二十一圓二十錢ヲ違脱シ

(五) 同年三月十八日頃關東州大連港ニ於テ酒精一萬三千六百八十立(四百箱)ヲ前記東洋丸ニ積載シ同月二十五日頃兵庫縣明石郡松江海岸ニ航行シ通關手續ヲ爲サス密ニ之ヲ同所ニ陸揚シ以テ關稅金二萬二千六百六十一圓六十錢ヲ違脱シ

關稅定率法第一條輸入稅表ノ酒精ニ對スル課稅標準 關稅法ノ故買罪ノ組成物件

(六) 同年四月中旬頃關東州大連港ニ於テ酒精一萬三千六百八十立(四百箱)ヲ前記東洋丸ニ積載シ同月二十三日兵庫縣江井ヶ島ニ航行シ通關手續ヲ爲サス密ニ之ヲ同所ニ陸揚シ以テ關稅金二萬二千六百一圓六十錢ヲ逋脫シ

第二 被告人梅谷茂ハ被告人金永男等カ大連ヨリ關稅ヲ逋脫シテ輸入シタル酒精ナルノ情ヲ知悉シナカラ
(一) 昭和十一年一月二十九日頃大阪市東區道修町二丁目成光商店事岡本英吉方ニ於テ被告人金永男ヨリ前記關稅逋脫ニ係ル酒精二百五十箱ヲ一箱三十圓替ニテ買受ケ

(二) 同年二月末日頃前同所ニ於テ被告人金永男ヨリ關稅ヲ逋脫シタル酒精百五十一箱ヲ一箱三十圓替ニテ買受ケ

(三) 同年三月二十五日頃前同所ニ於テ金永男ヨリ關稅逋脫ニ係ル酒精二百五十箱(内酒精一斗入罐二個詰十三箱及同一斗入一罐ハ押收ニ係ルモノ)ヲ一箱三十圓替ニテ買受ケ

(四) 同年四月末頃前同所ニ於テ金永男ヨリ關稅逋脫ニ係ル酒精二百箱(全部押收ニ係ルモノ)ヲ三十圓替ニテ買受ケ

以テ故賣ヲ爲シ

第三 被告人大澤袈裟雄ハ前記ノ如ク被告人金永男等カ大連ヨリ關稅ヲ逋脫シテ輸入シタル酒精ナルノ情ヲ知りナカラ金永男ヨリ之カ賣捌方ノ依頼ヲ受クルヤ之ヲ承諾シ同人ノ爲ニ

(一) 昭和十一年三月初頃東京市汐留驛ニ於テ前記關稅逋脫ニ係ル酒精百四十九箱ヲ受取り之ヲ情ヲ知ラサル澤田末松ヲ介シテ東京市下谷區御徒町三丁目八一富田春治等ニ一箱三十數圓替ニテ賣却シ遣ハシ

(二) 同年同月末頃前同驛ニ於テ關稅逋脫ニ係ル酒精百五十箱ヲ受取り前同様情ヲ知ラサル澤田末松ノ手ヲ介シ東京市内ニ於テ前記富田春治等ニ一箱三十數圓替ニテ賣却シ遣ハシ以テ牙保ヲ爲シ

タルモノニシテ被告人等ノ判示所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人西岡芳太郎同金永男ノ判示所爲ハ關稅法第七十五條刑法第五十五條第六十條ニ該當スルヲ以テ罰金刑ヲ選擇シ被告人西岡芳太郎同金永男ヲ各逋脫シタル關稅額ノ三倍ニ相當スル罰金二十九萬八百七十一圓ニ處スヘク被告人梅谷茂同大澤袈裟雄ノ判示所爲ハ關稅法第七十五條ノ二刑法第五十五條ニ各該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人梅谷茂同大澤袈裟雄ヲ各罰金七百圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ被告人西岡芳太郎同金永男ヲ各一年間被告人梅谷茂同大澤袈裟雄ヲ各百日間勞務場ニ留置スヘク押收ニ係ル酒精一斗入罐二個詰木箱二百十三箱及酒精一斗入罐一個ハ被告人梅谷茂ノ本件故買行爲ノ組成物件ニシテ同人ノ所有物ナルヲ以テ刑法第十九條第一項第一號第二項ニ依リ同被告人ニ對シ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ被告人梅谷茂ノ申請ニ依リ同人ノ關係部分ニノミ關スル證人ニ支給シタルモノナルヲ以テ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部同被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス 尙被告人西岡芳太郎同金永男ノ兩名カ共謀シテ判示第一ノ如ク關稅ヲ逋脫シテ營口又ハ大連ヨリ輸入シタル酒精ハ全部被告人金永男ニ於テ賣却シ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ關稅法第八十三條ニ依リ右酒精ノ價額ヨリ關稅額ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ヲ 犯則者タル被告人兩名ヨリ夫々追徴スヘキモノナルモ酒精ニ對スル關稅額ハ其ノ價額ヲ超過スルコト被告人金永男ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ徴スルモ明白ナルヲ以テ關稅逋脫ニ係ル酒精ノ價額ヨリ關稅額ヲ控除スルコトヲ得ス從テ同條ニ依リ追徴ヲ爲シ得サルヲ以テ追徴ノ言渡ヲ爲サス

主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

理 由

關稅定率法第一條輸入稅表ノ酒精ニ對スル課稅標準 關稅法ノ故買罪ノ組成物件

各被告人辯護人古賀元吉上告趣意書第二點被告人西岡芳太郎及同金永男ニ共通ナル上告理由原審判決ニハ重大ナル事實ノ誤認ヲ爲シタルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由及擬律錯誤ノ違法アリ原審判決ハ「法律ニ照スニ被告人西岡芳太郎同金永男ノ判示所爲ハ關稅法第七十五條刑法第五十五條第六十條ニ該當スルヲ以テ罰金刑ヲ選擇シ被告人西岡芳太郎同金永男ヲ各連脱シタル關稅額ノ三倍ニ相當スル罰金二十九萬八百七十一圓ニ處スヘキ」モノナリト判示シタルモノナル處右原審ノ算定シタル所百分中九十四分ノ酒精分ヲ含ムト云フ本案酒精ニ對シテ一立當リ金一圓六十二錢ノ關稅ノ連脱アリタルモノナリト事實ヲ認定シタルモノニシテ其ノ算定ニハ神戸稅關ニ於ケル酒精分九十四パーセントナリトスル鑑定書ヲ信スヘシトスルモ結局一立ノ關稅額ノ算定ニ付金九錢六厘宛ノ過大ノ算定ヲ爲シタルヤ明ナリ此ノ點ニ關シ原審ニ於テハ檢事ヨリ附帶控訴アリタルモノニシテ檢事局ノ意見ハ關稅定率法ニ所謂酒精トハ他ノ法令ニ於ケルカ如ク純酒精分ノ記載ナキヲ以テ純酒精分含有量ノ如何ヲ問ハス總テ其ノ容量ニ從ヒ關稅ノ額ヲ決定スヘキモノナリト云フニ在リテ原審亦此ノ見解ヲ採用シタルモノナル處如斯見解ハ若シ關稅定率法及其ノ附屬法令カ單ナル警戒ノ爲ノ法令ナレハ格別然ラスシテ完全ト公平トヲ期スヘキ關稅定率法及其ノ附屬法令ノ解釋トシテハ極メテ不當ナル解釋ナリトセサルヘカヲス製造法其ノ他使途ノ多岐ニ基キ此ノ種化學製品ノ純精度ノモノカ輸入セラルル場合ト七・八十パーセントノ稀薄度ノモノノ輸入セラルル場合トニ付原審ノ見解ノ如キモノカ關稅定率法ノ解釋トシテ正當ナ

リトノ前例ヲ作ルコトハ帝國ノ法令解釋ノ非科學性ヲ疑ハシムルモノトシテ憂慮スヘキモノアリト信ス酒精ニハ無水アルコト然ラサルモノトノ間ニ製法及使途ニ重大ナル差異アルコトヲ想起シテ原審ノ認定ヲ顧ルトキ其ノ事實ノ認定ニハ關稅定率法及其ノ附屬法令ノ解釋ヲ誤リ因テ事實ニ付重大ナル誤認ヲ敢テセルモノト云フヘク神戸稅關ノ鑑定書ニ照シ其ノ疑顯著ナルモノアリト信ス原審判決ハ此ノ一點ニ於テモ破毀ヲ免レスト信スト云フニ在リ

然レトモ關稅定率法第一條ノ輸入稅表ニ依レハ酒精ニ付テハ其ノ一九七號ニ每リツトルニ付一圓二十錢ト記載シ單ニ容量ヲ以テ課稅ノ單位ヲ示シタルニ止リ酒精及酒精含有飲料稅法若ハ其ノ他ノ稅法(例ヘハ臺灣酒精令)ニ見ルカ如ク特ニ原容量中ニ於ケル純酒精ノ容量ノ度數ヲ以テ課稅ノ單位トスヘキコトヲ示ササルノミナラス前示輸入稅表中ニ於テモ葡萄酒(六四號)及別號ニ掲ケサル酒類(六六號)ニ付テハ特ニ純酒精ノ意義ヲ明カニシ其ノ含有量ノ程度ニ從テ稅率ヲ區別シ課稅スヘキ旨ヲ規定セル事實ニ照シテ稽フルトキハ酒精ニ付テハ含有セラルル純酒精ノ容量ノ程度如何ヲ問ハス輸入セラ

ル酒精ノ全量ニ付同稅率表所定ノ稅率ニ依リテ課稅スルノ法意ナリト解スルヲ相當トス本件記錄中ノ神戸稅關提出ノ鑑定書亦本件輸入セラレタル酒精ノ全量ニ付課稅額ヲ算定セルモノニシテ右ノ論結

ト其ノ趣旨ヲ異ニスルモノニ非ス原審判決ニハ毫モ所論ノ如キ違法ナク論旨理由ナシ

同第八點原審判決ニハ沒收スヘカラサルモノニ付沒收ヲ言渡シタル違法有リ原審判決ハ「被告人梅谷

【要旨第一】

關稅定率法第一條輸入稅表ノ酒精ニ對スル課稅標準 關稅法ノ故買罪ノ組成物件
ト沒收

茂ニ對シ押收ニ係ル酒精一斗入罐二個詰木箱二百十三箱及酒精一斗入罐一個ハ之ヲ沒收ス」ト言渡シ理由トシテ右物件ハ「被告人梅谷茂ノ本件故買行為ノ組成物件ニシテ同人ノ所有物ナルヲ以テ刑法第十九條第一項第一號第二項ニ依リ同被告人ニ對シ之ヲ沒收ス」ト宣言シタリ然レトモ査スルニ關稅法第七十四條同第七十五條同第七十五條ノ二ノ規定ハ前二者ハ犯則ニ係ル貨物ハ必ス之ヲ沒收スヘシト規定シ後者ハ只單ニ罰金ノミヲ科スヘシト規定ス隨テ同法第七十五條ノ二ノ規定中同法第七十四條又ハ第七十五條ノ犯則者ノ依賴ニヨリ其ノ情ヲ知リテ運搬中ノ貨物同シク寄藏中ノ貨物ハ關稅法第七十四條同第七十五條及同第八十三條第一項前段ノ規定ノ趣旨ニヨリ當然沒收スヘキ趣旨ナルモ故買シタル者又ハ牙保ヲ受ケタル者ノ依賴ニヨリ其ノ情ヲ知ル者ノ運搬中ノ貨物同シク寄藏中ノ貨物又ハ故買者ノ貨物牙保ニヨル貨物ハ之ヲ沒收セサル趣旨ナルコト是レ關稅法第七十五條ノ二ノ法意ニシテ且關稅法第八十三條第一項前段ニ於テ「本法ニ依リ沒收スヘキ貨物」ト規定スルニ照スモ更ニ又「本法ニ依リ沒收スヘキ貨物カ犯則者(第七十四條第七十五條ノ犯則者ヲ指ス法意ナルニ外ナラス)以外ノ者ニ屬シ又ハ消費其ノ他ノ事由ニ依リ沒收スルコト能ハキルトキハ……犯則者ヨリ追徵ス」ト規定スルニ顧ルモ沒收ハ之ヲ關稅法第七十四條同第七十五條ノ犯罪者ニ限定シテ若シ其ノ者ヨリ沒收スル能ハサルトキハ別ニ追徵スルコトト定メタルモノニ外ナラサルコトニヨリテ洵ニ明ナリ即斯ル關稅法第七十四條同第七十五條同第七十五條ノ二及同第八十三條ノ規定ハ刑法第八條後段ニ所謂「其ノ法令ニ特

別ノ規定アルトキ」ニ該當スルモノナリ然ルカ故ニ關稅法第七十四條同第七十五條同第七十五條ノ二及同第八十三條ノ規定ヲ適用スル場合ニハ刑法第十九條ノ適用ナキコト當然ナリ然ルニモ不拘原審判決ハ被告人ノ所爲ヲ關稅法第七十五條ノ二ノ規定中ノ故買ナル旨ヲ認定シ乍ラ其ノ法令ヲ適用スルニ當リ刑法第十九條ヲ適用シテ被告人梅谷茂ニ對シ其ノ所有ニ係ル酒精二百十三箱及一罐ノ沒收ヲ言渡シタリシハ前叙ノ理由ニ照シ關稅法ニ依リ沒收スヘカラサル物件ヲ沒收スト言渡シタルモノニ係リ正ニ違法ナリ破毀セラレヘキモノナリト信スト云フニ在リ

仍テ案スルニ關稅法第七十四條及第七十五條カ同條違反ノ罪ニ付特ニ犯則貨物ハ之ヲ沒收スヘキ旨ヲ規定セルハ國家カ同法規ニ違背シテ輸入シタル貨物カ反則者ノ手ニ存在スルコトヲ禁止シ犯人ニ不正ノ利得ヲ得セシムルコトヲ妨止シ以テ密輸入ノ取締ヲ嚴重勵行セントスル主旨ニ外ナラサルヲ以テ右兩條ニ沒收ノ規定アルノ故ヲ以テ右法條以外ノ關稅法違反ノ罪ニ付テハ沒收ニ關スル刑法總則ノ規定ノ適用ヲ全然排除セルモノト解スヘキモノニアラス而シテ叙上ノ如キ犯則者ニ不正ノ利益ヲ得セシメサラントスル立法ノ趣旨ニ鑑ミ尙同法第八十二條ノ四ニ於テ特ニ刑法總則ノ規定ヲ列擧シ之カ適用ヲ排除セルニ拘ラス右列擧法條中ニ刑法第十九條ヲ除外シタルニ依ツテ之ヲ觀ルトキハ關稅法第七十五條ノ二ノ故買罪ニ付テハ刑法第八條ニ依リ同法第十九條ノ適用アルモノト解スルヲ相當トス然ラハ原審カ被告人梅谷茂ニ對シ關稅通脫ニ係ル酒精故買ノ事實ヲ認定シ其ノ組成物件タル所論酒精ニ付刑法

【要旨第二】

關稅定率法第一條輸入稅表ノ酒精ニ對スル課稅標準 關稅法ノ故買罪ノ組成物件
ト沒收

第十九條ヲ適用シテ沒收ノ言渡ヲ爲シタルハ相當ニシテ毫モ所論ノ如キ違法ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事有安堅三關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和十二年(九)第六五六號 棄却)

(同年六月三日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 倉石 忠雄 辯護人 小齋甚治郎 原田治郎 金子勝 井手 仲藏
外八名
【第一審】 長野地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

訴訟費用ノ負擔者ヲ定ムヘキ範圍——公判期日變更命令謄本送達ト召喚狀ノ要否

○判決要旨

一 選舉違反事件ノ證人ニ對シ選舉情勢又ハ選舉運動方法ニ關スル事項或ハ金錢供與罪ニ於ケル供與金員ノ出所ニ關スル事項ニ付訊問ノ爲サレタル場合ニ於テハ同證人訊問ニ因リテ生シタル訴訟費用ハ供與者タル被告人竝被供與者タル被告人ヲシテ連帶負擔セシメ得ヘキモノトス【要旨第一】

二 訴訟關係人ニ對シ公判期日ノ召喚狀ヲ發シタル後期日ヲ變更シ該期日變更命令謄本ノ送達ヲ爲シタルトキハ更ニ召喚狀ヲ發スルノ要ナキモノトス【要旨第二】

【參照】 刑事訴訟法第二百三十七條 刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ヲシテ訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムヘシ

被告人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタル費用ハ刑ノ言渡ヲ爲ササル場合ト雖被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

同法第二百三十八條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ヲシテ連帶シテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

衆議院議員選舉法第一百十二條第一項 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以訴訟費用ノ負擔者ヲ定ムヘキ範圍 公判期日變更命令謄本送達ト召喚狀ノ要否

下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ響應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

(中略)

四 第一號若ハ前號ノ供與、響應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ受諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

(省略)

刑事訴訟法第三百二十條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ

公判期日ニハ被告人辯護人及輔佐人ヲ召喚スヘシ

第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ

同法第八十四條 被告人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

被告人ヨリ期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出頭シタル被告人ニ對シ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命シタルトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ス口頭ヲ以テ出頭ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ
受訴裁判所ニ近接スル監獄ニ在ル被告人ニ對シテハ監獄官吏ニ通知シテ之ヲ召喚スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被告人監獄官吏ヨリ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ召喚狀ノ送達アリタルモノト看做ス

同法第九十九條 召喚狀ハ之ヲ送達ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人倉石忠雄ヲ禁錮四月ニ被告人土屋俊治ヲ禁錮三月ニ被告人山田齡兒、小林三雅ヲ各懲役二月ニ被告人小林六一郎、清野建之助ヲ各懲役一月ニ被告人松澤信三郎、鶴田博友、小出和四郎ヲ各罰金二百圓ニ處ス第一審ニ於ケル未決勾留日數中被告人倉石忠雄、土屋俊治ニ對シテハ各四十日被告人山田齡兒、小林三雅ニ對シテハ各三十日被告人小林六一郎、清野建之助ニ對シテハ各十日ヲ夫々同被告人等ノ本刑ニ算入ス被告人松澤信三郎、鶴田博友、小出和四郎ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間同被告人等ヲ勞役場ニ留置ス押收ニ係ル金員中被告人松澤信三郎提出ノ金五十圓(昭和十一年證第一〇號ノ一二)被告人鶴田博友提出ノ金百圓(同號ノ一三)被告人小林三雅提出ノ金千圓(同號ノ二五)ノ内金九百圓ハ孰レモ之ヲ沒收ス被告人小出和四郎ヨリ金八十圓同松澤信三郎ヨリ金三十圓同山田齡兒ヨリ金五十圓同小林六一郎ヨリ金五十圓同清野建之助ヨリ金九十圓ヲ夫々追徴ス當審ニ於テ證人小林新造同竹内直重ニ支給シタル旅費日當ハ被告人山田齡兒同小林三雅同小林六一郎ノ逆帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ被告人倉石忠雄ハ同年一月二十五日長野縣第一區ヨリ議員候補者トシテ立候補シ被告人土屋俊治ハ同月二十六日同候補者ノ選舉事務長トナリ被告人小平瀨左衛門ハ同月二十八日頃被

訴訟費用ノ負擔者ヲ定ムヘキ範圍 公判期日變更命令謄本送達ト召喚狀ノ要否

告人米望富藏モ同年二月三日頃執レモ候補者ノ選舉委員トナリ爾餘ノ被告人等ハ執レモ法定ノ選舉運動者ニ非サリ
シトコロ

第一 被告人倉石忠雄ハ自己ニ當選ヲ得ル目的ヲ以テ

(一) 同年一月二十九日頃長野市南縣町ナル自己ノ選舉事務所ニ於テ被告人ノ羽入田松作ニ對シ自己ノ爲同縣上水
内郡三水村ニ於ケル投票取纏ヲ爲ス費用及報酬トシテ金百五十圓ヲ供與シ

(二) 同年三月十日長野市大門町藤屋ホテルニ於テ被告人青沼治重ニ對シ自己ノ爲選舉運動ヲ爲ス費用及報酬トシテ
金百圓ヲ供與シ

第二 被告人倉石忠雄ハ實兄倉石久福ト共謀ノ上自己ニ當選ヲ得ル目的ヲ以テ

(一) 同年一月二十五日前記藤屋ホテルニ於テ被告人清野建之助ニ對シ自己ノ爲同縣下水内郡豊井村外二個村ノ投
票取纏ヲ爲ス費用並報酬トシテ右久福ノ手ヨリ金百五十圓ヲ供與シ

(二) 同年三月十一日前記選舉事務所ニ於テ被告人野崎哲太郎及同瀧澤久男ノ兩名ニ對シ自己ノ爲同縣下高井郡ノ内
俗ニ岳北ト稱スル地域ニ於テ投票取纏ヲ爲ス費用並報酬トシテ右久福ノ手ヨリ金四百圓ヲ供與シ

第三 被告人倉石忠雄同小平瀨左衛門同關谷英一ノ三名ハ共謀ノ上被告人倉石ハ自己ニ當選ヲ得被告人小平及同關谷
ハ候補補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同縣上高井郡政友俱樂部幹部其ノ他ニ對シ投票取纏方ヲ依頼シ其ノ費用並
報酬トシテ各本人ノ得票豫想數ニ應シ金員ヲ供與センコトヲ謀議シ被告人小平及同關谷ハ右謀議ニ基キ

(一) 同年一月二十七日被告人小平瀨左衛門居宅ニ於テ被告人小出和四郎ニ對シ金八十圓

(二) 同日同所ニ於テ被告人宮川西松ニ對シ金八十圓

(三) 同日同所ニ於テ同縣上高井郡保科村北澤常吉ニ對シ金三十圓

(四) 同日同所ニ於テ同郡川中村倉島武右衛門ニ對シ金二十圓

(五) 同日同所ニ於テ同郡日瀧村中村金治郎ニ對シ金三十圓

(六) 同日同所ニ於テ同郡日野村瀧澤梅吉ニ對シ金十五圓

(七) 同日同所ニ於テ同郡高南村被告人松澤信三郎及原審相被告人關野彌太郎ノ兩名ニ對シ被告人信三郎ノ手ニ金
八十圓

(八) 同日同郡日野村大澤長太方ニ於テ同人ニ對シ小布施大助ヲ通シ金十圓

(九) 同月二十八日前記被告人小平瀨左衛門居宅ニ於テ原審相被告人細野東雄ニ對シ金五十圓

(十) 同日同所ニ於テ同郡須坂町金箱政治ニ對シ金二十圓

(十一) 同日同所ニ於テ須坂町片桐整太郎ニ對シ金十圓

(十二) 同月二十九日被告人關谷英一居宅ニ於テ被告人石割幸助ニ對シ金百十圓

(十三) 同月三十一日被告人鶴田博友方ニ於テ同人ニ對シ金百圓

(十四) 同年二月二日前記被告人小平瀨左衛門居宅ニ於テ同郡川田村小林常祥ニ對シ金二十圓

ヲ候補補者ノ爲右各本人居住ノ町村ニ於テ投票取纏ヲ爲ス費用並報酬トシテ供與シ以テ被告人關谷ハ一面無資格選
舉運動ヲナシ

第四 被告人倉石忠雄同小平瀨左衛門ハ共謀ノ上被告人倉石ハ自己ニ當選ヲ得被告人小平ハ候補補者ニ當選ヲ得シム
ル目的ヲ以テ

(一) 同年一月三十日前記事務所ニ於テ原審相被告人白澤喜太郎ニ對シ同人ノ居村ニ於テ投票取纏ヲ爲ス費用並報
酬トシテ金百圓ヲ供與シ

(二) 同年二月三日同所ニ於テ被告人宮澤正治ニ對シ同縣上水内郡西山部ナル七二會榮日里南小川北小川ノ五個村ニ於テ投票取纏ヲ爲ス費用並報酬トシテ金二百五十圓ヲ供與シ

第五 被告人倉石忠雄同土屋俊治ハ共謀ノ上被告人倉石ハ自己ニ當選ヲ得被告人土屋ハ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年一月三十日右選舉事務所ニ於テ被告人山田齡兒同小林三雅ノ兩名ニ對シ同縣下高井郡ノ内俗ニ岳南ト稱スル地域ニ於テ投票取纏ヲ爲ス費用並報酬トシテ右齡兒ノ手ニ金千圓ヲ供與シ

第六 被告人土屋俊治同小平瀨左衛門ハ共謀ノ上同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年一月三十日前記事務所ニ於テ被告人山岸顯雄ニ對シ同候補者ノ爲同人居村ノ投票取纏ヲナス費用並報酬トシテ被告人小平ノ手ヨリ金百圓ヲ供與シ

第七 被告人土屋俊治ハ尙單獨ニテ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年二月三、四日頃前記事務所ニ於テ被告人青沼治重ニ對シ同候補者ノ爲演說ニ依ル選舉運動ヲ爲ス報酬トシテ金五圓ヲ供與スルト共ニ右同趣旨ニ於テ他ノ遊説員ニ供與スヘキ資金トシテ金三十圓ヲ交付シ

(中略)

第九 被告人小出和四郎ハ前記第三ノ(一)記載ノ如ク同年一月二十七日被告人小平瀨左衛門肩書居宅ニ於テ被告人倉石忠雄同小平瀨左衛門同關谷英一ヨリ同候補者ノ爲居村ニ於テ投票取纏ヲ爲ス報酬並費用トシテ被告人關谷英一ノ手ヨリ金八十圓ノ供與ヲ受ケ

(中略)

第十一 被告人松澤信三郎ハ前記第三ノ(七)記載ノ如ク右同日同所ニ於テ被告人倉石忠雄同小平瀨左衛門同關谷英一ヨリ前記趣旨ノ下ニ被告人關谷英一ノ手ヨリ原審相被告人關野彌太郎ト共同ノ關係ニ於テ金八十圓ノ供與ヲ受ケ

(中略)

第十三 被告人鶴田博友ハ前記第三ノ(十三)記載ノ如ク同月三十一日同被告人肩書居宅ニ於テ被告人倉石忠雄同小平瀨左衛門同關谷英一ヨリ前記趣旨ノ下ニ被告人關谷英一ノ手ヨリ金百圓ノ供與ヲ受ケ

(中略)

第十九 被告人山田齡兒同小林三雅ハ共謀ノ上

(一) 前記第五記載ノ如ク同年一月三十日前記事務所ニ於テ被告人倉石忠雄同土屋俊治ヨリ同候補者ノ爲同縣下高井郡ノ内俗ニ岳南ト稱スル地域ニ於テ投票取纏ヲ爲ス報酬トシテ被告人山田齡兒ノ手ヨリ金千圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 次テ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同月三十一日同縣下高井郡中野町料理店藤木屋ニ於テ被告人小林六一郎ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金五十圓ヲ供與シ以テ

第二十 被告人小林六一郎ハ前記第十九ノ(二)記載ノ如ク同日同所ニ於テ被告人山田齡兒同小林三雅ヨリ前記趣旨ノ下ニ金五十圓ノ供與ヲ受ケ

(中略)

第二十三 被告人清野建之助ハ

(一) 前記第二ノ(一)記載ノ如ク同年一月二十五日前記藤屋ホテルニ於テ被告人倉石忠雄及其ノ兄倉石久福ヨリ同縣下水内郡豊井村外二個村ノ投票取纏ヲ爲ス費用並報酬トシテ右久福ノ手ヨリ金百五十圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

(イ) 同年一月二十六日同郡豊井村岡田理榮方ニ於テ同人ニ對シ同候補者ノ爲同村ノ投票取纏ヲ爲ス費用並報酬

トシテ金十圓ヲ供與シ
(ロ) 同月二十七日同郡飯山町内藤静枝方ニ於テ原審相被告人小山重信ニ對シ同候補者ノ爲同郡永田村ノ投票取
纏ヲ爲ス費用並報酬トシテ金五十圓ヲ供與シ
以テ一面無資格選舉運動ヲ爲シ
タルモノニシテ被告人倉石忠雄同土屋俊治同山田齡兒同小林三雅同清野建之助ノ判示所爲ハ夫々犯意繼續ニ出テタル
モノナリ

尙被告人小林六一郎ハ昭和八年三月十四日東京控訴院ニ於テ恐喝罪ニ依リ懲役八月ニ處セラレ其ノ後其ノ刑ノ執行ヲ
受ケ了リタルモノニシテ右ノ事實ハ同被告人ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニヨリ明カナリ
法律ニ照スニ判示所爲中被告人倉石忠雄同土屋俊治同山田齡兒同小林三雅同清野建之助ノ各金錢供與ノ所爲ハ孰レモ
衆議院議員選舉法第百二十二條第一項第一號ニ被告人土屋俊治ノ金錢交付ノ所爲ハ同條項第五號ニ被告人小出和四郎同
松澤信三郎同鶴田博友同山田齡兒同小林三雅同清野建之助ノ各金錢ノ供與ヲ受ケタル所爲ハ孰レモ同條
項第四號ニ被告人山田齡兒同小林三雅同清野建之助ノ各金錢供與ノ所爲ハ一面無資格選舉運動ニ該ルヲ以テ衆議院議
員選舉法第九十六條第一項第百二十九條ニ觸レ即一所爲ニシテ二罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項
前段第十條ニ則リ夫々重キ金錢供與罪ノ刑ニ從フヘク又被告人倉石忠雄同土屋俊治同山田齡兒同小林三雅同清野建之
助ノ判示各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルヲ以テ孰レモ刑法第五十五條ヲ適用シテ一罪ト爲シ結局全被告人ニ對シ判示衆
議院議員選舉法第百二十二條第一項ヲ以テ臨ムヘキヲ以テ犯情ニ照シ所定刑中被告人倉石忠雄同土屋俊治ニ對シテハ各
禁錮刑ヲ被告人山田齡兒同小林三雅同清野建之助ニ對シテハ各懲役刑ヲ被告人小出和四郎同松澤信三郎
同鶴田博友ニ對シテハ各罰金刑ヲ夫々選擇シ尙被告人小林六一郎ニ對シテハ前示前科アルヲ以テ刑法第五十七條ニ依
リ累犯ノ加重ヲ爲シタル上夫々其ノ刑期又ハ罰金額ノ範圍内ニ於テ主文第一項掲記ノ刑ニ處スヘク但シ右禁錮刑又ハ

懲役刑ニ處セラレタル被告人等ニ對シテハ刑法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中夫々主文第二項掲記ノ
日數ヲ右本刑ニ算入スヘク又罰金刑ニ處セラレタル被告人ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ付刑法第十八
條ニ則リ主文第三項記載ノ如ク勞役場留置ノ期間ヲ定ムヘク主文第四項表示ノ押收金員ハ孰レモ本件犯行ニ依リ收受
シタル利益ナルヲ以テ衆議院議員選舉法第百十四條前段ニ依リ之ヲ沒收スヘク而シテ主文第五項表示ノ金額ハ沒收ス
ルコト能ハサル利益ナルニ依リ同法條後段ニ則リ夫々之ヲ追徵スヘク主文末項記載ノ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三
十七條第一項第百三十八條ニ從ヒ被告人山田齡兒同小林三雅同小林六一郎ノ連帶負擔トスヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人土屋俊治、山田齡兒、小林三雅、小林六一郎辯護人小齋甚治郎上告趣意書第一點原判決ハ被告
小林六一郎ニ對シ訴訟費用ノ負擔ヲ命シ不利益ノ判斷ヲ爲シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノニシテ
違法ナリ原判決ハ其ノ主文ニ於テ「當審ニ於テ證人小林龍造同竹内直重ニ支給シタル旅費日當ハ被告
人山田齡兒同小林三雅同小林六一郎ノ連帶負擔トス」ト判示シタリ然レトモ該證人ハ辯護人ヨリ原審
提出ノ證據申請書記載ノ通り證人小林龍造ハ被告人土屋俊治同山田齡兒同小林三雅ノ爲ニ又證人竹内
直重ハ被告人山田齡兒同小林三雅ノ爲ニ申請ヲ爲シ許可セラレタルモノニシテ被告人小林六一郎ニ付
何等ノ關係ナキコト明白ナリ之ヲ詳言スレハ證人小林龍造ノ證言スヘキ事實關係ハ被告人山田齡兒同

小林三雅、小林治雄、竹内直重ト運動方針ニ付協議ヲ爲シタル事實並昭和十一年一月三十日下高井郡政友俱樂部ヲ代表シ山田齡兒ト共ニ長野市ノ倉石候補選舉事務所ヲ訪問シ選舉情勢等ノ報告ヲ爲シタル經過ヲ證明スヘク申請ヲ爲シタルモノナリ又證人竹内直重ハ被告人山田齡兒カ被告人土屋俊治(選舉事務長)ヨリ下高井郡通稱岳南ノ選舉運動費トシテ受領シタル金一千圓ヲ持參シタル事實ヲ何時承知セルヤ否就二月五日中午野館ニ被告山田齡兒同小林三雅同竹内直重同小林治雄同坂口文夫ノ五名ニテ會合シ演說會日割表ノ作成運動方針等ノ協議ヲ爲シタル際被告山田齡兒ハ土屋事務長ヨリ受領シタル金一千圓中一部私用ニ融通シタルニ依リ明六日補填スル旨ノ申出アリタルヲ以テ之カ補填ノ上ハ該一千圓ハ選舉委員タル證人竹内直重ニ保管セシメ其ノ支出方ヲ依頼スルコトニ協議成立シタル事實ヲ立證スヘク申請シ兩者共許可セラレタルモノナリ而シテ其ノ證言セラレタル事實モ亦以上ノ範圍内ニシテ被告人小林六一郎ニ毫モ關係ナキコトハ事理當然ナリ蓋被告人小林六一郎ノ爲申請シタル證人ハ上條尙次、天野愛子ノ兩名ナルコトハ右證據申請書ニ徴シ寔ニ明白ナリ果シテ然ラハ右證人小林龍造同竹内直重ノ審問ハ被告小林六一郎ノ事實ニ關係ナカリシモノナルヲ以テ該證人ニ支給シタル費用ハ其ノ審問ヲ必要トシタル被告山田齡兒同小林三雅及被告土屋俊治ニ於テ負擔スヘキモノナルコト論ヲ俟タサル所ナリ然ルニ原判決ハ被告小林六一郎ニ毫モ關係ナキ證人審問ノ費用ニ付其ノ負擔ヲ命シ不利益ノ判斷ヲ爲シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタル違法アルモノニテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云ヒ一第

二點原判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リタル違法アルモノナリ原判決ハ其ノ主文末項ニ於テ「當審ニ於テ證人小林龍造同竹内直重ニ支給シタル旅費日當ハ被告人山田齡兒同小林三雅同小林六一郎ノ連帶負擔トス」ト判示シ其ノ法律上ノ理由末尾ニハ「主文末項記載ノ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ從ヒ被告人山田齡兒同小林三雅同小林六一郎ノ連帶負擔スヘキモノトス」ト説示シタリ然レトモ第一點所論ノ如ク被告小林六一郎ニ何等關係ナキ證人審問ノ訴訟費用ヲ同被告人ニ負擔セシメタルハ違法タルヤ勿論被告人小林六一郎ニ對シ被告人山田齡兒同小林三雅ト共犯ナリトシテ刑事訴訟法第二百三十八條ヲ適用シ訴訟費用ノ連帶負擔ヲ命シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノナルコト明白ナリ何トナレハ被告人小林六一郎ハ被告人山田齡兒同小林三雅ト共犯關係ナキコトハ原判決事實理由第十九第二十ノ記載ニ徴シ洵ニ明白ニシテ茲ニ共犯ノ何モノタルヤヲ説明スル迄モ無キ所ナリ原判決ハ爰點ニ於テ法律ノ解釋ヲ誤リ被告人小林六一郎ヲ共犯ト爲シ訴訟費用ノ連帶負擔ヲ命シ不利益ノ判斷ヲ爲シタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免カレサルモノト信スト云フニ在リ

原審證人小林龍造、竹内直重ハ被告人小林六一郎以外ノ被告人ノ爲ニ辯護人ヨリ申請シ許可セラレタルモノナルコト洵ニ所論ノ如シト雖同證人訊問調書ヲ査閱スルニ判示候補者ニ關スル選舉情勢又ハ選舉運動方法ニ關スルコト或ハ被告人小林六一郎ニ對スル判示金五十圓ノ供與者タル被告人山田齡兒、小林三雅カ判示候補者並選舉事務長ヨリ投票取纏報酬トシテ供與ヲ受ケタル金千圓ノ授受並其ノ使途

【要旨第一】

ニ關スル事項ニ付訊問ヲ爲サレアルコトヲ認メラルルヲ以テ右證人訊問ハ被告人小林六一郎ニ對シテモ亦關係アルモノト謂フヲ得ヘク從テ之ニ要シタル旅費日當ヲ供與者タル被告人山田齡兒小林三雅ト連帶シテ負擔セシメタル原判決ハ正當ニシテ所論ノ如ク法律ノ解釋ヲ誤リタルノ違法アリト爲スヘカラス論旨理由ナシ

被告人倉石忠雄、土屋俊治、松澤信三郎、鶴田博友、清野建之助、小出和四郎辯護人原田治郎、金子勝藏上告趣意書第四點原審ニ於ケル訴訟手續ヲ記録ニヨリ檢討スルニ記録第八五〇丁ニ昭和十一年九月十五日附昭和十一年十月十日午前九時ノ公判期日ヲ昭和十一年十一月十二、十四日午前九時ニ變更シタル命令アリ而シテ右命令ノ謄本ハ被告人及辯護人等ニ適法ニ送達セラレタリ仍テ昭和十一年十一月十二、十四日午前九時ヘノ公判期日變更ハ適法ニ效力ヲ生シタルモノナルヲ以テ裁判長ハ刑事訴訟法第三百二十條第二項ニヨリ被告人及辯護人ヲ召喚セサルヘカラスナリ同法第八十四條同第三百二十條第三項ニヨレハ被告人及辯護人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲ササルヘカラス然ルニ記録ヲ精査スルモ前記公判期日ニ對スル召喚狀ハ存在セス加之同法第八十四條第二項ニヨル所謂請書ナルモノモ存在セス即昭和十一年十一月十二日ノ原審ニ於ケル第一回公判期日ハ被告人及辯護人ニ對スル適法ナル召喚ナクシテ開始セラレタルモノナルヲ知ル進テ原審第一回公判調書ヲ査閱スルニ右公判期日ニハ被告人及小齊甚治郎外十名ノ辯護人ハ出頭シ居ルモ辯護人水津靜吉同金子勝藏ハ不出頭トナリ居リ而

モ右期日ニハ上告人等ニ對スル事實審理遂行セラレタリ即昭和十一年十一月十二日ノ公判期日ニ於ケル公判手續ハ辯護人ニ對スル適法ナル召喚ナク辯護人水津靜吉同金子勝藏ノ出頭ヲ見スシテ開始セラレ被告人訊問等ノ事實審理行ハレタルモノニシテ此ノ點ニ於テ辯護權ノ行使ヲ制限シタル違法アルモノト言ハサルヘカラス果シテ然ラハ右辯護權行使制限ノ違法アル公判手續ニ基キ爲サレタル原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨第二】

記録ヲ査閱スルニ原審昭和十一年十月十日午前九時ノ公判期日ニ付テハ各關係人ニ對シ召喚狀ヲ送達シ其ノ後職權ヲ以テ該期日ヲ同年十一月十二、十四日午前九時ト變更シ右期日變更命令謄本ヲ各被告人及辯護人ニ送達シタルコトヲ認メ得ヘシ然レハ右期日變更命令謄本ノ送達ニ依リテ曩ニ發シタル召喚狀記載ノ公判期日ヲ變更シタルモノト謂フヘク更ニ召喚狀ヲ發スルノ要アルヲ見ス從テ原審カ辯護權行使制限ヲ爲シタリト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事池田克關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和十二年(九)第五五七號 棄却)

(同年六月四日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 八木太一 辯護人 川瀬專之助

【第一審】 横濱區裁判所 【第二審】 横濱地方裁判所

○判示事項

刑事訴訟法第二十四條第八號ニ所謂基礎トナリタル取調ノ意義

○判決要旨

刑事訴訟法第二十四條第八號ニ所謂基礎トナリタル取調トハ有罪判決ニ付テハ其ノ事實認定ノ資料ニ供セラレタル證據ノ取調ヲ指稱スルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第二十四條 判事ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除外セラルヘシ

(中略)

八 刑事事件ニ付豫審終結決定若ハ前審ノ裁判又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタルトキ但シ受託判事トシテ關與シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

○事實

第二審判決ハ被告人八木太一、鈴木正博、大谷啓助カ井上競ヨリ議員候補者胎中楠右衛門ノ爲選舉運動ヲ爲スヘキコトヲ依頼セラレ其ノ運動ノ報酬並費用トシテ各金十圓ノ交付ヲ受ケタル上爾餘ノ被告人等ニ對シ右ノ金員ヲ分割供與シタリトノ事實ヲ認定判示シタリ而シテ右判決ノ裁判長橋本判事ハ別事件ニ於テ井上競カ被告人八木太一外二名ニ對シ前記ノ如ク金員ヲ交付シタル事實ニ付井上競ヲ被告人トシテ取調ヘ有罪判決ヲ爲シタルカ其ノ取調ノ結果ハ本件ノ第三審判決ノ證據トシテ全然採用セザリシ所ナリ

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人川瀬專之助、堀内正巳上告趣意書先ツ本事件ノ要領ヲ述ヘンニ本件被告人等ニ對スル衆議院議員選舉法違反被告事件ハ候補者胎中楠右衛門ノ選舉事務員ヨリ同鈴木勇藏ニ金員ヲ交付シテ選舉運動ヲ依頼シテ右鈴木勇藏ヨリ更ニ神奈川縣津久井郡中野町井上競ニ胎中候補者ノ爲選舉運動ヲ依頼シテ

刑事訴訟法第二十四條第八號ニ所謂「基礎トナリタル取調」ノ意義

金五十圓ヲ交付シ被告人八木太一同鈴木正博同大谷啓助ハ右井上競ヨリ胎中候補ノ爲投票並投票取纏ノ選舉運動ヲ依頼セラレ其ノ報酬及費用トシテ各金十圓宛交付セラレ本件他被告人六名ハ右三名ヨリ前記同趣旨ノ下ニ金員ヲ受取リタルモノナリトノ事案ナルトコロ全被告人ハ昭和十一年五月二十七日横濱區裁判所ノ公判廷以來第二審公判廷ニ到ル迄極力其ノ事實ヲ否認シ檢事聽取書若ハ豫審調書(本件ニ關シ豫審判事ハ何故カ檢事同様警察署ニ出張シ刑事ノ取調直後檢事之カ取調ヲ爲シ其ノ或者ニ對シテハ豫審判事亦直後ニ取調ヲ爲シタルモノナリ)ニ於ケル供述ハ警察官吏ノ拷問強迫等ノ手段ヲ施サレタル結果止ムナク爲シタル虛偽ノ自白ナリトノ趣旨ヲ陳述シタルモノニシテ極力金錢供與ノ事實無キコトヲ主張シ立證シ居ルモノナルヲ以テ本件ノ審理ニ當リテハ事實ノ真相ヲ確ムルト共ニ心證上理論上經驗上果シテ本件各被告人等ニ對スル聽取書信憑スルヲ得ルヤ就中本件斷罪ノ基本タル井上競ニ對スル聽取書ハ果シテ其ノ作成其ノ動機原因其ノ内容ニ於テ其ノ客觀的事情ニ於テ又各被告人ノ聽取書等ヲ對比シテ證據トシテ引用スルコトカ妥當ナリヤ否ヤノ點ニ付詳細審理ヲ遂ケテ眞實發見ノ後判決スルヲ至當ナリトス然ルニ原審判決ハ以下上告趣意書記載ノ如ク各點ノ疑點アルニモ拘ラス原審判決文上被告人等ニ對シ何等理由ヲ明示スルコトナク單ニ前述虛構ノ内容ヲ盛ル聽取書ヲ引用シテ取テ有罪ノ判決ヲ爲シタルモノナリ依テ原審判決ハ左記各點ニ依リ破毀ヲ免レサルヲ得サルモノナリト信ス第一點原判決ハ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ判事審判ニ關與シタルノ違法アリ第一原審裁判長

判事橋本匡也氏ハ本件裁判ノ基本トナルヘキ高山男也外十八名ニ係ル衆議院議員選舉法違反被告事件ヲ横濱地方裁判所第一刑事部ニ於テ昭和十一年十月以降審理ヲ爲シ昭和十二年一月十六日之カ判決言渡ヲ爲シ其ノ間本件被告人八木太一、鈴木正博、大谷啓助三名ニ各金十圓也ヲ供與シタリト稱スル井上競ヲ取調且井上競カ鈴木勇藏ヨリ五十圓ノ違反金ヲ授受セル事實ヲ認定シタルノミナラス井上競カ右五十圓也ヲ本件各被告人ニ夫々分與シ授受シタル旨ノ犯罪事實ヲ本件原審判決カ取扱タル證據ト同様ナル證據ヲ以テ昭和十二年一月十六日ニ於テ有罪判決言渡ヲ爲シタルモノナリ即判事橋本匡也氏ハ原審取調ヲ開始スル以前ニ於テ既ニ井上競ノ取調ヲ爲シ且井上競カ公判ニ於テ當該授受並供與ノ事實ヲ否認セルニモ拘ラス井上競カ本件被告人等ニ所定ノ金員ヲ授受セル犯罪事實ヲ認定シ判決ヲ爲シ乍ラ恬然本件審判ニ關與シタルモノニシテ右ハ刑事訴訟法第二十四條ノ規定ニ依リ當然職務ヨリ除斥セララル場合ナルニモ拘ラス右事情ヲ詳知シ且本辯護人ノ公判廷ニ於ケル注意ヲ聽キ乍ラ本件審判ヲ遂行シタルモノナリ當時被告人等ハ右裁判所ト同様ニ右事實ヲ確知シ始ヨリ本件裁判カ有罪タルコトヲ前提トセサルヘカラサル事實ヲ認識シ悲嘆ニ暮レツツ裁判ニ服從スルノ不得已仕儀ニ立到リタルモノナリ要スルニ原審判決ハ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ判事審判ニ關與シタルノ顯著ナル違法存スルモノナリ」第二點原審判決ハ左記法律違背ノ點アリ原審判決理由中第一乃至第九ノ認定事實並之カ證據トシテ舉示セラレタル第一項ヲ除キタル左記證據被告人八木太一ニ對スル檢事聽取書被告人鈴木正博

ニ對スル檢事ノ第一回聽取書並第二回聽取書被告人大谷啓助ニ對スル檢事聽取書被告人森下義輝ニ對スル強制處分ニ因ル豫審判事ノ訊問調書被告人坂口知博ニ對スル檢事ノ聽取書被告人古宮重次ニ對スル檢事聽取書被告人尾崎吉右衛門ニ對スル檢事聽取書被告人平井卯市ニ對スル檢事聽取書被告人下鳥好ニ對スル檢事聽取書大谷太一ニ對スル檢事聽取書井上競ニ對スル檢事聽取書等ヲ證據トシテ引用シタリ然レトモ原審引用ニ係ル前記各證據ニ對シテハ各被告人等ハ其ノ公判ニ於ケル取調ニ際シ右事實又否認シ居ルノミナラス又各被告人ノ上申書ニ於テ右聽取書作成ノ動機原因ヲ明白ニシ或ハ神奈川縣刑事課特有ノ拷問方法ニ依リ拷問セラレ或ハ警察拷問ノ風評喧傳セラレ畏怖ノ念繼續中ニ前記各聽取書作成セラレタルコト明瞭ナリ而シテ右被告人ノ前記ノ如キ不法取調ノ主張ヲ否認スル檢事ノ立證ナキ以上ハ右ノ如キ被疑者ニ對スル聽取書ノ作成ハ刑事訴訟法第三百三十五條第三百三十九條ニ違背シテ爲シタル訊問ニ基ケル聽取書ト認定スヘキモノナルヲ以テ之ヲ以テ本件斷罪ノ資料トスル原審判決ハ違法ノモノタルコトヲ免レサルモノナリ」第三點原判決ハ其ノ判決理由中證據ノ記載中九百七十八頁乃至九百八十頁ニ於テ昭和十一年四月十三日附檢事ノ聽取書謄本ヲ證據トシテ……全被告人ニ對スル證據トシテ……引用シタリ然レトモ右聽取書ヲ以テ本件斷罪ノ資料ト爲スコトハ結局事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ左記ノ顯著ナル事由アルモノナリ第一事由右聽取書ノ第七項ニ依レハ「本年二月十五日頃ノ夕方私カタ食ヲ濟マセタ後裏ノ仲通りヲブラブラシテ居タ處云々」鈴木勇藏カ私方ノ

方ニブラブラヤツテ來ルノニ出會マシタ」其ノ時胎中ノ選舉ノ事ヲ頼マレ十圓札五枚ヲ四ツ折ニシテ供與セラレタリト述ヘ居ルモノニシテ當時選舉肅正ノ聲高ク其ノ取締嚴重ナル時期ニ於テ鈴木勇藏カ井上競ニ買収ヲ依頼スルニ當リ果シテ裏通リト云ヘル道路上ニ於テ極秘ヲ要スル金錢ノ供與ヲ夕方ブラブラ歩キノ途上ニ於テ爲スカ如キコトハ果シテ事實ナリヤ否ヤ此ノ調書中此ノ一項ヲ讀ミタルノミニシテ其ノ陳述ノ虛偽ナルコトヲ洞見シ得ヘシ況ヤ右事實ヲ否認セル鈴木勇藏ノ上申書提出セラレアルニ於テオヤ第二事由右調書第八項(一)乃至(十)ヲ觀ルニ右鈴木勇藏ヨリ供與セラレタル金五十圓ヲ本件各被告人等ニ配分シタル詳細ノ記述アリ其ノ要旨左記ノ如シ(一)ハ佐藤愛輔ニ係ルモノニシテ金錢供與ノ極秘行爲カ二月十七、八日頃ニ於テ井上競カ裏庭ニ立チ佐藤ハ廊下ニ出テ爲サレタリト云フニ在リ(二)ハ成瀬豐壽ニ係ルモノニシテ金錢供與ノ極秘行爲カ二月十七、八日頃成瀬ノ店舗ニ於テ行ハレタリト云フニ在リ該店舗ハ提出ノ寫眞帳ニモ明白ナルカ如ク中野町ノ大通リニ面スルモノニシテ餘リニ露骨ナル買収行爲ニ啞然タラシムルモノニシテ果シテカカル事實アリタリヤ否ヤヲ疑フヲ常識トス(三)ハ當審被告人大谷啓助ニ係ルモノニシテ「大谷啓助方ノ表カラ行ツテ其ノ前ノ廊下ニ居タ同人ニ會ヒ」十圓札ヲ以テ買収及運動ヲ依頼シタリト云フニ在リテ之又人々ニ容易ニ其ノ行爲ヲ觀取セラレ得ル場所ナルコト明ナリカカル危險ナル場所ニ於テ果シテ極秘ノ取引ヲ爲スト云フカ如キコトハ常識上容ルルヲ得ルヤ而カモ其ノ相手方タル大谷啓助ハ町會議員ニシテ政友會ノ黨員ナリ

選舉ニ際シカカル危険ヲ踏ムノ愚ヲ爲スカ如キコトハ苟モ選舉ニ經驗アル者之ヲ敢テスル者アラムヤ
 (四)ハ西村彦藏ニ係ルモノニシテ金錢供與ノ場所ハ西村彦藏方ノ裏ニ於テセリト云フカカル行爲カ
 果シテ戶外ニテ行ハルルモノナリヤ(五)ハ被告人鈴木正博ニ係ルモノニシテ鈴木正博方ノ横道ニテ
 同人ニ金錢ヲ供與シタリト云フニ在リ前記横道トハ鈴木家ハ縣道ニ直面シ居リ其ノ家ニ向テ右側ノ三
 間餘ノ横道ニシテ縣道ニ直角ニ接スルモノナリ從テ縣道ヲ通行スル人々ニハ直ニ眼ニ付易キ場所ナリ
 鈴木被告人ハ吳服商ニシテ從來孜々トシテ其ノ業ヲ營ミ居リ自己ノ清キ一票ヲ投スルノ外未ダ嘗テ選
 舉運動ニ携リタルコトナキ者ナリ且鈴木正博ハ從來井上競カブリキ職ノ得意先トシテ出入シタル且那
 筋ナルニ之ニ對シ金十圓ヲ供與シテ選舉運動ヲ依頼シ同人ハ「引受ケタ」ト云フテ夫レヲ受取リマシ
 タト云フカ如キハ當該地方ノ民情風俗ヲ無視セル聽取書ニシテ之ヲ信憑スヘキモノニ非ス(六)ハ被
 告人八木太一ニ係ルモノニシテ金錢供與ノ場所ハ「同町所在ノ燃絲工場ニ訪ネ工場ノ入口テ同人ニ會
 ヒマシタカラ胎中サンニ頼ムト云フテ四ツ折ニシタ十圓札一枚ヲ裸ノママヤリマシタ同人ハニツタリ
 シテ夫レヲ受取リマシタ」トアリ被告人八木太一ハ其ノ提出ニ係ル履歷書ニ依リ明白ナルカ如ク從來
 中野町青年團長ヲ爲シ居ル模範青年ニシテ燃絲ノ販賣ニ専門ニ從事シ他事ヲ顧ミス況ヤ選舉等ニハ未
 タ携ハリタルコトナキ青年ナリ公判廷ニ於ケル八木太一ノ供述ヲ約言スレハ從來選舉等ニハ全然關係
 ナキコト八木太一ハ燃絲等ノ販賣ヲ爲シ父八木茂經營ノ燃絲工場ハ主トシテ女工多キモノカラ八木茂

ノ妻(八木太一ノ母)ト太一ノ妻トカ一切工場ヲ監督シ居リ三日ニ一度行クカ行カヌカノ程度ニシテ
 夫レモ機械直シノ爲ニ出入スル位カ精々ナリ訪問客トノ應接其ノ他訪問ヲ受クル時ハイツモ店ニ於テ
 爲シ燃絲工場ノ入口ニ於テセサルコト等公判廷ニ於ケル供述ニ明白ナリ果シテ然ラハ井上競カ燃絲工
 場ノ入口ニ於テ金錢供與ヲ爲シタリトスルハ甚タ疑ハシト云ハサルヘカラス(七)ハ榎本雄治ニ對ス
 ル金錢供與ノ場合ニシテ調書ニ依レハ「榎本雄治方ニ行キ裏口カラ一寸家ノ中ニ入ツテ同人ヲ呼出シ
 云々」トアレトモ調査シタルトコロニヨレハ榎本雄治方ニ裏口ナシコレ井上競ノ調書ニ於ケル事實無
 根ノ奇怪ナル點ノ一ツナリ(八)ハ山本愨ニ關スル金錢供與ノ場合ニ關スルモノニシテ店先ニ於テ
 「裸ノママ五十錢銀貨四ツヲヤリマシタ」ト記載セラレアリ其ノ日時ハ二月十九日ノ朝ナリト云フ山
 本愨ノ家ハ履物商ニシテ縣道ニ直面セル店舗ナルカ選舉投票日ノ前日ニ店先ニ於テ本件買収金カ授受
 セラレタリト云フニ在リ(九)ハ大塚進治ニ關スルモノニシテ金錢供與ノ場所ハ「○自動車ノ車庫ノ
 處テ」渡シタル旨ノ記載アリ其ノ日時ハ二月十九日ノ午後ナリト云フ上記(二)(八)及(九)ハ何レ
 モ其ノ位置中野町ノ縣道ニ直面シ居リ且其ノ日ハ選舉期日ノ前日ニシテ警察取締ノ最モ嚴シカルヘキ
 日時ニシテカカル場所ニ於テ選舉ノ爲不淨ノ金錢ヲ供與スルカ如キコトハ常識上考フルコト能ハス之
 本聽取書ノ奇怪ナル點ノ一ツナリ(一〇)ハ加藤治作ニ關スル金錢供與ニ關スルモノニシテ其ノ供與
 ノ場所ハ實ニ「公會堂ノ入口」ナリト云フ其ノ日時ハ二月十九日ノ午後ナリト云フ辯護人ニ於テ其ノ

地ヲ檢スルニ「公會堂ハ中野町ノ中央山本傳吉氏ノ邸宅内ニ在リ縣道ヨリ山本家ノ入口ヲ通レハ公會堂ニ直接ニ入ルモノニシテ其ノ間ニ於テ加藤治作ヲ呼ヒ込ムトスレハ山本家ノ邸内ニ於テスルコトト爲リ衆目看視ノ中ニ選舉ノ不淨金ヲ供與スル事トナルカカル日カカル場所ニ於テ金錢供與ヲ爲スカ如キコトハ社會通念上考フルコト能ハス之井上競ノ調書ノ不審怪訝ニ堪エサル點ノ一ツナリ第三事由昭和十一年四月十三日井上競ノ聽取書ノ二項「財産ハ住宅二棟宅地約二百五十坪畑約一反歩銀行預金約八百圓保險積立金約二百圓テ借金カ約三千圓アリマス」トアリ其ノ資産ハ計算ニ依レハ積極消極財産相殺シテ殆ント零ニ近ク其ノ職業ハ父ノ代ヨリ金物商兼貳力職ヲ爲シ來レルコト聽取書ノ通リナリ此ニ對シ八木太一、鈴木正博、大谷啓助ノ資産ニ付聽取書ニ依リ之ヲ見ルニ八木太一昭和十一年四月十九日聽取書ノ第二項ニ依レハ財産ハ住宅竝工場等八棟宅地約三百坪畑一町歩其ノ機械類ノ價格約五千圓ト貸金約五千圓預金約千圓テ借金カ約三千圓テアリマス鈴木正博ノ聽取書ニハ財産ニ關スル記載ナシ大谷啓助ノ聽取書ニモ財産ニ關スル記載ナシ昭和十一年五月二十七日ノ公判廷ニ於ケル供述ニ依レハ公判調書ノ如ク鈴木正博ハ家屋四棟ヲ有シ吳服商ヲ營ミ生活ハ相當程度外ニ「山カ約五町歩畑五反歩等」ヲ有スルコト公判供述ノ如ク大谷啓助ハ家屋工場及諸機械等ヲ有シ宅地二百數十坪畑一反三畝歩ヲ有スル旨ノ供述及兩者共中野町ニ於テ中等程度ノ中上ノ部ニ屬スル生活程度ナルコトヲ供述シ且八木太一モ鈴木正博モ大谷啓助モ亦被告人井上競カブリキ職人ニシテ自宅ノブリキ葺ノ爲ニ出入スル

職人ナルコト即自己ヨリ社會的地位ノ低キモノナルコトヲ供述シ居レリ以上ノ各證據ニ依リテ明白ナル如ク本件選舉ニ際シ八木太一、鈴木正博、大谷啓助ノ各被告人ニ各十圓宛供與シタリト稱スル井上競ハ中野町ニ於ケル地位之等ノ被告人ヨリモ低位ニアリ且之等ノ被告人ニ對シテブリキ職人トシテ出入職人ノ立場ニアルコト明ナル以上ハ社會常識上井上競カ其ノ部下ノ職人等ニ對シテ其ノ運動資金ヲ供與シタリト云フ場合ナラハ格別出入ノブリキ職人タル井上競カ其ノ得意先ノ主人等ニ對シテ選舉運動ノ爲不淨ナル金員ヲ供與シタリト云フカ如キハ之ヲ認ムルコト能ハサルナリ第四事由金錢ヲ供與シタリト云フ、トカ眞實ナラハ其ノ金錢供與ノ日時場所トカ其ノ眞實サヲ基礎付ル重大問題ナリ第一ニ井上競ノ昭和十一年四月十三日附檢事聽取書ト本件被告人八木太一、鈴木正博、大谷啓助ノ各聽取書及他ノ相被告人等ノ各聽取書トヲ對照スルトキハ原審判決カ井上競ノ聽取書ノ引用ニ付重大ナル齟齬アルコトトナルヘシ而シテ右ノ點ニ關シテハ別ニ之ヲ詳述ス第二ニ前記問題ニ付重大ナル齟齬ノ顯著ナル例證ハ井上競第二回聽取書三十六丁乃至三十九丁ニ在リ此ノ聽取書ヲ讀メハ相被告人大塚進次ト成瀬豐壽ト西村彦藏三名ノ陳述ト井上競ノ陳述トカ齟齬ヲ來シ居リタルコト調書上明白ナリ單ニ金額ニ於テ著シキノミナラス其ノ授受ノ場所モ亦甚タ異レリ且其ノ他本件相被告人等トノ間日時場所ニ付齟齬ヲ來シ居ルコトモ亦明白ナリ右ニ對シ金額ノ點ニ關シテハ「何分ヤツタ先カ多ク又落付テ數ヘテヤリマセスカラ小口ノ分ハ少シ違ツテ居ルカモ知レマセヌ」トノ辯明ヲ採用シ日時場所ノ點ニ關シテ

ハ「尙私カ右ノ頼ヲシテ金ヲ遣ツタ人々ニ頼ンタ日時ヤ場所等ハ時モ經ツテ居ルシ頼ンタ相手カ多イ
 ノテ多少記憶違カアルカモ知レマセヌ」トノ辯明ヲ爲サシメタル程相被告人トノ間ノ陳述ハ齟齬ヲ來
 シ居ル次第ナリ辯第二十號證ノ井上競ノ上申書ニ依レハ右陳述ハ虛構ノ事ナル故ニ陳述ニ齟齬ヲ來セ
 ルモノナルコトヲ述ヘ右僅々四枚ノ聽取書ヲ作成スル爲四月二十二日ヨリ二十七日迄實ニ五日間ヲ費
 シ其ノ間井上競ハ相被告人ノ陳述ト辻褄ヲ合セルノニ實ニ苦勞ヲシタ旨ノ記述アリ推察スルニ當時向
 山係檢事モ井上競ト相被告人等トノ陳述ノ齟齬セルニ疑惑ヲ抱キ貴重ナル五日間ヲ井上競ノ聽取書ヲ
 符合セシムルニ費シタルモノノ如シ其ノ結果前記ノ如キ辯明ヲ採用シタルモノノ如シ其ノ辯明ヲ觀ル
 ニ「相手ノ申ス事カ私ノ云フ事ト違ツテ居ルトスレハ夫レハ相手ノ云フ事カ正確ト思ヒマスカラ其ノ
 様ニ御訂正ヲ願ヒマス」トアリ本件ノ如キ僅カ五十圓ノ金ヲ分配スル場合ニハ金ノ分配ヲ計畫スル者
 カ井上競ナル以上ハ井上競ニ於テ確實ナル金額ヲ覺ヘ居ルコト通常ニシテ「相手ノ云フ事カ正確ナ
 リ」等ト云フハ其レ自體虛偽ナルコトヲ自白シ居ルモノト云フヘク之ハ反面ヨリ云ヘハ「私ノ申スコ
 トハ出鱈目テアリマスカラ相手ノ云フ通りニシテ下サイ私ノ陳述ト相手ノ陳述トハ絶對ニ合ヒマセヌ
 カラ相手ノ申スコトヲ採用シテ下サイ」ト陳述シ居ルコトヲ洞見スヘキナリ第五事由本件記録六九二
 丁乃至七〇三丁ニハ鈴木勇藏上申書アリ其ノ第一ニ付取調ノ經過ヲ見ルニ詳細ナル刑事ノ取調ノ記載
 アリテ神奈川縣水上警察署ニ於テ拷問ヲ受ケタル顛末ヲ明白ニシ井上競ニ金錢供與ノ事實ナキニモ拘

ラス事實アル旨ノ虛偽ノ自白ヲ爲スニ到レル原因動機ヲ詳細ニ記述上申セルモノナリ本件記録第七〇
 三丁乃至第七一五丁ニハ井上競ノ上申書アリ第一警察署テノ取調ノ概況トアル部分ヲ讀ムニ神奈川縣
 溝警察署ニ於ケル取調ヲ受ケ刑事ヨリ拷問ヲ受ケタル結果遂ニ強制的ニ自白ヲ爲サシメラレシ顛末ヲ
 詳記シ八木太一、鈴木正博、大谷啓助、佐藤愛輔以下六名ニ金錢供與ヲ爲シタル旨ヲ述タル理由トシ
 テ「右ノ人々ハ平生知合テハアリマスカ大谷啓助ヲ除イテハ從來選舉關係カ全クナイ者テアリマス私
 ハ鈴木勇藏カ事實無根ノ事ヲ申立テソノ爲ニコンナ困ヲスルト云フコトハ非常ニ口惜シク思ツテ居マ
 シタソシテ兎ニ角大體ニ於テ全然選舉ニ關係ノ無イ者ヲ云ヒ出セハ井上モ苦シマキレニ云ツタノタト
 考ヘテ吳レルタロウソウスレハ自分ノ明モ立ツテアロウ云々」ト記述セラレタリ之ヲ要スルニ井上競
 ノ昭和十一年四月十三日ノ檢事聽取書ハ拷問ヲ受ケテ畏怖ノ念ノ繼續中ニ作成セラレタルモノニシテ
 措信スルコト能ハサルコト井上競ノ上申書ニ依リ極メテ明白ナリ」第四點本件各被告人ノ斷罪資料タ
 ル聽取書及豫審調書ヲ觀ルモ其ノ各供述記載ハ次ノ如ク各相矛盾シ又ハ吾人ノ經驗法則ニ違背シ居ル
 モノニシテ被告人等提出ノ上申書ノ記載ト併セ考フレハ原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコト疑フニ
 足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト信ス即(一)本件各被告人ノ上申書ニ記載シアル如ク被告人等ハ中
 野警察署ニ於テ神奈川縣刑事課ノ刑事中野署ノ警部補及刑事等ヨリ取調ヲ受ケ本籍住所生年月日財產
 家族投票セル候補者授受ノ金額交付シタル者場所日時等ヲ表示セル紙ニ被疑者自身記入スルコトヲ強

フルノ方法ヲ執リ其ノ或者ハ撲ル蹴ル突クノ暴行ヲ受ケ或ハ強制收容スルコトヲ以テ老父母又ハ多數ノ子女ヲ擁スル被告人等ヲ強迫シ殊ニ關係者中數名ハ既ニ數日間否認ヲ續ケタル結果遂ニ「體ニ聞ク」ト稱シテ最大ノ拷問ニ掛ケラレ而カモ其ノ拷問方法ハ竹刀ヲ兩手ニテ捧ケ中腰ニテ立タスモノニシテ十分間ヲ出スシテ顔面蒼白トナリ油汗ヲ流シ出シ三、四十分ニシテ意識ヲ喪失シ前面ニ倒レ被疑者ハ殆ト此ノ程度ニテ虚偽ノ自白ヲ爲シタリトコトニテ被告人等ハ如何ニ否認シ續クルモ結局前者ノ轍ヲ踏ムニ過キスト觀念シタル爲止ムナク虚偽ノ自白ヲ爲シ其ノ直後畏怖ノ念ノ繼續中檢事及豫審判事ノ訊問ヲ受ケ其ノ虚偽ノ自白ノ儘之ヲ陳述シタルモノナリ(二)被告人八木太一關係ニ於テハ、昭和十一年四月十九日附被告人八木太一ニ對スル檢事ノ聽取書ニ依レハ井上競カ八木太一ニ金員ヲ交付シタリトセラルルハ二月十六日頃ノ午後五時頃トノ供述記載アリ原判決又之カ事實ヲ認定シタル井上競ニ對スル檢事聽取書ニハ二月十八日頃ノ夕方トノ供述記載アリ殊ニ井上競ハ二月十五日頃ノ夕方鈴木勇藏ヨリ金員ノ交付ト選舉運動ノ依頼ヲ受ケ十七日頃ノ夕方佐藤愛輔十八日ノ朝八時頃成瀬豐壽同日頃夕刻大谷啓助、西村彦藏、鈴木正博、八木太一十九日頃ノ朝九時頃榎本雄次、山本哲同日午後大塚進次、加藤治作ヲ各買收シタル趣旨ノ順序的供述ノ記載アルモノニシテ右十八日頃トアルハ井上競ノ記憶力ノ正常ナル限リ十六日頃ヲ摘示セサルコト明カナリサレハ井上競モ八木太一モ總選舉期日タル二月二十日ノ直前ニ於テ買收其ノ他違反行爲ヲ爲スニ於テハ各人ノ記憶普通ナル以上當然其ノ當日

ヲ記憶シ得ヘキ筋合ニシテ斯ク二日モ其ノ供述ノ日時ヲ異ニスルカ如キハ社會常識上アリ得ヘカラサルトコロナレハ右ハ該聽取書カ止ムナク爲サレタル捏造事實ノ記載ナルコトヲ窺知シ得ルニ充分ナリ又井上競ノ聽取書ニ於ケル如ク二月十八日頃八木太一ニ金員ヲ交付シタリトセンカ斯クテハ被告人森下義輝ノ被告人八木太一ヨリ金員ヲ受ケタリトセラルル二月十七日頃ニハ未タ被告人八木太一ニ於テ該金員受領ナカリシコトトナルモノナリ斯ノ如ク井上競ノ聽取書ノ供述記載ハ逐次列擧的ナル點ヨリ觀レハ日時ニ著シキ相違アルコト有リ得ヘカラサルト共ニ之ヲ認ムルコト前記ノ如キ理由ニ依リ不可能トナルモノナリ之等ノ矛盾ハ以テ原判決ノ事實認定カ重大ナル事實ノ誤認ニ基クモノナルコトヲ立證スルモノト云ハサルヲ得ス更ニ金員ノ交付場所ニ付井上競ノ前記檢事聽取書ニハ八木方工場入口ニテトアルニ對シ被告人八木太一ノ前記檢事聽取書ニハ井上方附近ノ裏通りニテトアリテ右兩者ノ供述記載ノ齟齬ハ前記日時ノ點ニ關スル相違點ト共ニ原審公判調書ニ於ケル被告人ノ供述カ事實ニ合致スルコトヲ裏書スルモノト云ハサルヲ得サルナリ。ロ、原判決ハ其ノ理由ニ於テ第一ノ(二)(イ)並第四ニ於テ被告人八木太一ハ二月十七、八日頃同郡牧野村地内道路ニ於テ被告人森下義輝ニ胎中候補ノ爲ニ投票方ヲ依頼シ其ノ投票報酬トシテ金五圓ヲ供與シ森下ハ之ヲ受ケタル事實ヲ認定シタリ被告人八木太一カ前記ノ如ク井上競ヨリ金員ノ交付ヲ受ケタリト虚偽ノ自白ヲ止ムナク爲シタル爲更ニ金員ノ交付先ヲ嚴重ニ追究サルルニ及ヒ止ムヲ得ス森下及後記ノ如ク坂口ノ兩被告人ヲ擧ケラルルニ到リ

タル理由ハ當時債權ヲ辨濟セサル兩者ナラハ道德的責任ノ一部ハ免レ得ルトノ同人ノ心理状態ニ基キタルモノナルコト辯第七號證(森下ニ對スル父八木茂名義ノ昭和十年十月三十日附内容證明郵便ニ依ル催告書)及辯第六號證(坂口ニ對スル同様催告書)竝一審二審公判調書中ノ八木被告ノ供述記載ニ依ルモ明白ナルノミナラス森下被告カ胎中候補ニ投票セス平川松太郎ニ投票シタル事實(一審公判調書參照)ニ依ルモ明瞭ナリ原審ハ斯ノ如キ明瞭ナル證據アルニモ拘ラス又被告人八木太一カ被告人森下義輝同坂口知博ト絶對ニ相會スル機會アリ得ヘカラサル三名ノ交互ノ所在證明ヲ爲サンカ爲ノ八木茂、小室得市、小島徳藏、門倉久一郎、江成利有、小野澤とし、森崎光二(以上八木太一ノ二月十六日、十七日、十八日、十九日、二十日ノ各所在立證)森下キミ子、富田敬宇ノ妻某(以上森下義輝ノ二月十七日ノ所在立證)山崎木又(坂口ノ二月十六日、十七日、十八日、十九日ノ所在立證)ノ各證人申請ヲ全部却下シテ審理シ重大ナル事實ノ誤認ヲナシ被告人等ニ有罪ノ事實認定ヲ爲シタルモノナリ殊ニ山坂五里ヲ距ツル牧野村ニ被告人八木太一カ痔疾ニ苦シミツツ雪ヲ分ケテ僅カニ二票ノ買收ニ赴クカ如キハ想像ニ苦シム所ナルノミナラス選舉前ニ於ケル被告人八木太一ノ所在明瞭ナル以上(辯第號證同人ノ日誌參照)右事實ハ當然否定セラルヘキモノニシテ尙又昭和十一年四月二十二日附被告人森下義輝ニ對スル訊問調書ニ依レハ「昭和十一年二月十六、七日頃ト思ヒマス牧野村ノ馬本ヘ煙草ヲ買ヒニ行キマシタ恰度吉原ト馬本ノ中間頃ノ道路テ八木太一カ後カラ私ニ追付キマシタ其ノ時八木

ハ私ニ云々」トアリテ煙草ヲ馬本迄買ヒニ行キタル旨ノ陳述記載アルモ煙草店ハ森下ノ家ト軒ヲ接スル隣家ニ在リ而モ懇意ノ隣家ニテ煙草ヲ買ヒ求メス右ノ如ク他ニ行クコトハ絶對ニナキ理ニシテ又同人ノ檢事聽取書ニハ「用事カアツテ行ク途中吉原ト馬本ノ道テ豫テ知合ノ八木太一ニ出會ヒマシタ」トアリ八木太一ノ檢事聽取書(記錄二〇丁)ニハ「二月十七、八日頃午後一時過津久井郡牧野村ニ行キ有權者ノ森下義輝方ニ行コウトシタ處同人方ノ手前ノ道路テ山着姿ノ同人ニ逢ヒ云々」トアリテ前記森下被告ノ供述記載ト比較スルモ兩者會シタリト爲ス場所カ異ルノミナラス森下方ニ行ク途中八木太一カ森下ニ追付ク理ナキハ現地地圖ニ依ルモ明瞭ニシテ之等ノ供述記載カ森下被告ノ一審公判廷ニ於ケル「訊問サレテ理窟ニ合スヘク止ムナク言ツタ」旨ノ供述ノ眞實ナルコトヲ立證シテ餘アルモノト云ハサルヲ得サルナリハ、原判決ハ其ノ理由第一ノ二(ロ)竝第五ニ於テ被告人八木太一カ二月十七、八日頃牧野村坂口知博方ニ於テ同人ニ胎中候補ノ爲投票方ヲ依頼シ其ノ投票報酬トシテ金三圓ヲ供與シ同人ハ之ヲ受ケタル趣旨ノ事實ヲ認定シタリ然レトモ右ハ被告人八木太一カ森下義輝ニ供與シタリト虚偽ノ自白ヲ爲シタルト同一ノ趣旨ニ依リ同シク内容證明郵便ニテ金錢支拂ノ催告ヲ爲シタル坂口知博ヲ金錢供與ノ相手方トシテ虚偽ノ自白ヲ爲シタルモノニシテ右ハ辯第六號證(催告書)ニ依ルモ明カナルカ同人モ亦胎中候補ニ投票シタルモノニ非ス候補者平川松太郎ニ投票シタルモノナルコト第一審公判調書ノ同人ノ供述記載ニ依ルモ明瞭ニシテ殊ニ坂口被告ハ十七、八日ハ共ニ勤務先タル

秋山川亦二發電所ニ日中勤務ヲ爲シ居タルモノニシテ該勤務中ハ他出ヲ許ササル同所ノ規定ニ依リ前記ノ如ク自宅ニハ不在ナリシニ拘ラス本件事實ノ認定ヲ受ケタルモノナリ(三)被告人鈴木正博關係ニ於テハ昭和十一年四月十九日附鈴木正博ニ對スル檢事ノ第二回聽取書ニ依レハ「二月十八日頃古宮重次方ニ行キ同人方庭ヲ胎中サンニ頼ムト云ツテ云々」トアルモ昭和十一年五月三日附古宮重次ニ對スル檢事ノ聽取書ニ依レハ「二月十八日頃ノ夕方近所ノ鈴木正博カ私方ノ表カラ私ヲ呼ヒマシタノテ何用カト思ツテ出テ見タ處同人ハ今度ノ選舉ヲ頼ムト云ツテ云々」其ノ時候補ハ誰候補ニ頼ムト云ヒマセヌテシタカ云々」トアリ其ノ場所カ同人方庭ナラハ同人方ノ裏ニアタル表ト裏ト相異ナルモノニシテ右事實ヲ觀ルモ同被告人等ノ一、二審ノ公判調書ニ於ケル供述記載竝上申書ノ記載カ眞實ヲ物語ルコトヲ窺知シ得ルモノナリ(四)被告人大谷啓助關係ニ於テ昭和十一年四月十九日附被告人大谷啓助ニ對スル檢事聽取書ニ依レハ右被告人啓助カ自己ノ長男大谷太一ニ買收ノ趣旨ニテ金二圓ヲ交付シタル旨ノ記載アルモ自己ノ子供ヲ買收スルカ如キハ何人モ認メ得サルトコロニシテ同被告人カ「警察官吏ヨリ暴行強迫ヲ受ケ其ノ追究ニ抗シ得スシテ遂ニ最モ謝罪出來ルト思ヒタル長男ヲ指示シタル旨ノ一審及二審ノ公判調書中ノ同人ノ供述カ其ノ間ノ事情ヲ物語ルモノト謂フヘク更ニ此ノ外ニ買收セシモノヲ舉ケサレハ強制收容スルトノ豫審判事ノ言ヲ恐レ止ムナク自己ノ從弟ノ子ニシテ同人ノ五人組ノ一軒ニ養子ニ世話シタル同地方ニ所謂子ニ當ル平井卯一ヲ指示シタルトコロ更ニ今一人出

ササレハ刑務所ニ送ルトノ豫審判事ノ言ニ止ムナク同人ノ五人組ノ一人ニテ自己カ嫁ヲ世話シタル仲人親ニ當ル下鳥好ヲ出シタリトノ同被告人ノ供述カ又眞ニ人情ノ歸趨ヲ物語ルモノニシテ之等ヲ以テ觀レハ大谷啓助ノ上申書記載ノ事實通り本件事實認定カ誤認ニ出テタルモノナリト信ス」第五點原審判決ハ左記ノ趣旨ノ通り違法不法ナル判決ナリ第一本件ニ關スル客觀的狀勢竝證據(一)提出ニ係ル辯第一號證乃至辯第五號證ハ當時本件犯罪地タル中野町ニ於テ讀マレタル新聞ノ一部ニシテ辯第一號證ハ橫濱貿易新報辯第二號證ハ東京朝日新聞ノ神奈川版辯第三號證同辯第四號證ハ橫濱貿易新報辯第五號證ハ讀賣新聞神奈川版ニシテ本件選舉期日二月二十日以前ノ十七、八日頃ノ新聞ナリ而テ原審判決認定ニ係ル買收運動實行時期ハ十七、八日頃トナリ居ルモノナリ提出シタル十七日ノ新聞紙ニ依レハ當時ノ選舉肅正ノ後ヲ受ケ當時神奈川縣ニ於テハ峻嚴ナル摘發ニ檢事局モ刑事課モ大活動ヲ始メタルコト及河野候補ニ勾引狀發セラレタル旨ノ記載アリ同十八日ノ新聞紙ニ依レハ郡部ノ違反擴大セルコト河野候補ハ強制收容セラレタルコト及第三區ハ實質上無投票區トナリタル旨ノ記載アリ尙原審裁判所ニ於テ取調ヲ爲シタル鈴木勇藏衆議院議員選舉法違反事件公判ニ於テ鈴木勇藏等胎中派ノ選舉委員ハ當時前記ノ如キ事情ニ依リ選舉演說會ヲ止メンコトヲ議シタルコトアル旨ヲ供述シ居ル次第ナリ(二)如斯狀況ナルニ加ヘテ本件犯罪地タル中野町ニ於テハ本件選舉當時ヨリ選舉肅正運動アリ舉町神前ニ於テ選舉肅正ヲ祈願シタルコト被告人等ノ公判廷ニ於ケル供述竝其ノ上申書等ニ依リ明白ナリ

右ノ如キ客觀的状況アル中野町ニ於テ本件買收行爲アリト斷定センニハ被告人等ノ否認スル以上ハ適確ナル客觀的ノ證據ナカルヘカラス然ルニ原審判決ノ理由ヲ見ルニ單ニ被告人等カ否認シ居ル聽取書ノミナリ而テ本件犯罪檢舉ノ緒ハ實ニ井上競ノ聽取書ニ在リ右聽取書カ基本トナリテ前示各聽取書カ作成セラレタルモノナリ而テ右聽取書ノ作成ノ原因動機及其ノ聽取書ノ内容否認ニ關スル井上競提出ノ上申書アリ之ト他被告人等ノ公判廷ニ於ケル否認ノ供述トアル以上ハ原審裁判所ハ被告人等ノ要望スルトコロノ井上競ヲ證人トシテ原審裁判所ニ於テ取調ヲ爲シ其ノ眞實ヲ發見スルニ務ムヘキナリ然ルニ原審裁判所ハ此ノ唯一且根本ヲ爲ストコロノ井上競ノ證人申請ヲ却下シテ漫然本件審理ヲ終結セリ一、本件ニ關スル證據ハ唯單ニ檢舉聽取書ノミ聽取書カ證據トシテ效力アリヤ否ヤノ問題ハ兒島大審院長其ノ他判事檢事數名ノ弄在事件以來大問題トナリ嘗テ大審院ハ之ヲ無効ナリト判決シタリ其ノ後現今ノ如キ聽取書ノ形式ヲ案出シタル結果大審院ノ容ルル所トナリ「刑事訴訟法上聽取書ノ作成ヲ禁シタル法文ナシ徵憑ト爲スニ妨ケナシ」トノ判決例トナリ今日ニ到リシモノナリ一、然レトモ前記判決例謂フ所ノ徵憑タルヘキ聽取書ハ換言スレハ聽取書カ證據力ヲ完全ニ具備スルニハ檢事カ單ニ本人ノ自供スルコトヲ記錄シタルノミニテハ不可ナリ假令刑事訴訟法上支障ナキ形式ヲ具備シタル聽取書ニセヨ荒唐無稽出鱈目ナル本人ノ自供ヲ錄取シタリトシテ當該聽取書ハ證據トシテ採用シ得ヘキモノニアラス一、然ラハ如何ナル本人自供ノ聽取書カ證據トシテ採用スヘキ適格ヲ有スルカ明治九年八

月廿八日司法省達訓令斷罪ノ證據トアル部分ヲ見ルニ第一被告人眞實ノ白狀ト記載セラレタリ虛偽ノ自白ヲ排斥シ眞實ノ白狀ヲ採用スヘキコト勿論ナリ然ラハ眞實ノ白狀トハ如何第一ニ刑事訴訟法第十章被告人及被疑者ノ訊問ニ際シテハ同法第三百三十六條「被告人ニ對シテハ丁寧親切ヲ旨トシ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシ」ト要求セラレアリ之ヲ本件原審聽取書ニ付之ヲ觀ルニ果シテ各被告人ニ對シ其ノ取調ニ當リ親切丁寧ヲ旨トセラレタリシヤ其ノ利益トナル部分ヲ陳述スルノ機會ヲ與ヘラレ居リシヤ被告人ノ原審公判ノ供述ニ依レハ親切ニ代ルニ威迫ヲ受ケタリ丁寧ニ代ルニ強迫ヲ受ケタリ監禁強迫拷問等實ニ人權蹂躪ノ事實ノ中ニ其ノ聽取書ノ基本トナル取調檢事ノ命令ヲ受ケタル刑事ノ取調ハ爲サレタリ其ノ聽取書ハ實ニ強迫觀念ニ依リ別言スレハ畏怖ノ念繼續中ニ事實ヲ歪曲セル聽取書カ作成セラレタル旨ヲ各被告人カ公判廷ニ於テ其ノ裁判長ニ訴ヘ居ルニ非スヤ如斯聽取書果シテ證據トシテノ適格ヲ有スルモノナラムヤ第二ニハ相被告人間ノ陳述ノ大體ニ於テ大局ニ於テ其ノ犯罪ノ要件タル時ト場所トニ於テ辻褄ノ合フコトヲ必要トス辻褄ノ合ハサルコトハ犯罪ノ無キコトノ一ツノ證左トモ云フヘシ事實ノ證明ナキニ歸スルモノト云フヘシ尙原審判決採用ノ聽取書中辻褄ノ合ハサル點ハ別ニ詳述シタルトコロナリスル聽取書ヲ證據トシテ採用スル原審判決ハ不法ト云ハサルヘカラス第三聽取書ハ其ノ内容事實カ吾人ノ社會生活ノ經驗則ト法律家ノ常識トニ適合スルモノタラサルヘカラス原審判決ハ前記本件犯罪地ノ客觀的状況ヲ無視シ選舉界ノ實狀ニ即セス斯ル聽取

書ハ信憑力無シ第四聽取書ハ當該地方ノ國情民俗ノ認識アルモノナラサルヘカラス原審引用ノ聽取書ハ神奈川縣第三區地方ノ民情ヲ無視セル内容ヲ有ス本件犯行ノ地方ハ徳川時代江川太郎左衛門ノ領地ニシテ神奈川縣中最モ五人組制度ノ發達シタリシ土地ナルコト提出ニ係ル書證及各被告人ノ上申書等ニ竝公判廷ニ於ケル供述ニ明白ナリ然ルニ本件聽取書ニハ其ノ間ノ事情ハ毫末モ考慮セラレス五人組制度無キ地方ノ地方民ノ行動ト同一視シテ本件聽取書ハ作成セラレタリ如是當該地方ノ民情ノ認識無キ聽取書ハ其ノ信憑力ノ要件ヲ缺クモノト云ハサルヘカラス之ヲ要スルニ原審判決ニ引用セル各聽取書ニ關シ調査スルニ前記ノ如ク第一乃至第四ノ證據トナルヘキ聽取書ノ要件ヲ缺ク不法ノ聽取書ナリ前記ノ如キ聽取書ヲ引用シタル原審判決ハ違法ノモノタルコトヲ免レサルナリ尙原審裁判所ハ上記ノ如キ違法ナル聽取書ノミヲ信憑シテ進ンテ本件檢舉ノ基本トナレル井上競ノ聽取書ノ吟味ヲ爲サス被告等カ舉ケテ熱望セル井上競ノ證人申請ヲ却下シテ之ヲ顧ミス刑事訴訟法ノ公判第一主義ノ原則ヲ無視シテ井上競ノ取調ヲ爲サスシテ漫然聽取書ノミヲ信憑シテ本件判決ヲ爲セルハ審理不盡刑事訴訟法ノ原則違反ノ不法ナル判決ト云フヘキナリ第六點原審判決ハ左ノ通りノ不法ナル裁判ヲ爲シタルモノナリ原審判決引用ニ係ル大谷啓助ノ聽取書ヲ觀ルニ當該聽取書ニハ井上競ヨリ十圓ノ授受アリタル部分ト其ノ子大谷太一ニ金錢ヲ供與シタル部分トニ分タレ原審判決認定スルカ如キ平井卯市、下鳥好兩名ニ對シテ金錢供與ノ事實ノ部分ハ之ヲ缺ク即右證憑ニ依リテハ未タ以テ大谷啓助カ下鳥好及平

井卯市兩名ニ對シ金錢供與ノ事實ノ立證ナシ況ヤ大谷啓助ハ其ノ提出セル上申書ニ於テ右ノ事實ヲ否認シ且第一審公判廷及第二審公判廷ニ於テモ明白ニ右供與ノ事實ヲ否認シ居ルモノナリ而テ相被告人下鳥好及平井卯市ニ於テハ第一審公判廷及第二審公判廷ニ於テ被告人大谷啓助ヨリ金錢供與ノ事實ナキ旨ヲ供述シ居ル以上ハ他ニ金錢供與ノ適確ナル證據ノ存在セサル以上ハ大谷啓助ト下鳥好、平井卯市等トノ間原審判決ノ認定ハ其ノ證據資料ヲ欠缺スルモノト云ハサルヘカラス又況ヤ大谷啓助ニ對スル聽取書ノ内容ヲ檢スルニ其ノ實子大谷太一ヲ買収シタリト爲スカ如キ大谷啓助ノ供述スル如ク虛妄ノ事柄ニシテ如何ニ大谷啓助カ取調係官ヨリ拷問セラレ窮餘ノ一策トシテ我子ヲ犯罪ノ道連レニスルノ不得已仕儀ナリシ事從テ其ノ取調振リノ如何ニ苛酷ナリシカヲ想像スルニ難カラス宜ヘナル哉係檢事ハ大谷啓助カ其ノ實子大谷太一ニ金錢ヲ供與シタリトノ聽取書ヲ作成シ又實子大谷太一ヲ取調ヘテ聽取書ヲ作成シナカラ大谷太一ノ部分ノ起訴ハ之ヲ爲サス其ノ聽取書ノミヲ緩込ミ置ケルハ要スルニ實親子間ニ於テ斯ル買收行爲ハアルマシキ行爲ナリ換言スレハ大谷啓助カ虛妄ノ言ヲ陳述スルモノナルコトヲ推察シテ遂ニ之カ起訴ヲ爲ササリシモノト云フヘク之等ノ點ヨリ見テモ原審引用ノ大谷啓助ノ聽取書カ如何ニ信憑力薄弱ニシテ虛偽ノモノナルカヲ推斷スルニ難カラサルナリ上記ノ如ク原審引用ニ係ル大谷啓助ノ聽取書ハ信憑力薄弱ニシテ虛妄ニ滿テル聽取書内容ナルニ加ヘテ前述ノ如ク下鳥好及平井卯市等兩名ニ對スル金錢供與ノ記載無キ以上ハ少クトモ大谷啓助ニ關スル限り原審判決ノ如

キ認定ヲ爲スカ如キコトハ證據無キ不法ナル裁判ト云ハサルヘカラス刑事訴訟法第三百六十條ニ依レハ「有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ」ト規定ス則チ刑事裁判ハ證據裁判ヲ其ノ根本基調トナスモノニシテ犯罪事實ノ證明ナキ限り被告人ヲ處罰セサルヲ原則トス之我刑事訴訟法第三百三十六條カ「事實ノ認定ハ證據ニ依ル」旨ノ規定アル所以ナリ故ニ被告人大谷啓助ニ有罪ノ言渡ヲ爲サントスル場合ハ下鳥好及平井卯市等トノ金錢供與關係カ大谷啓助ニ對スル聽取書中全然缺如シ且大谷啓助カ金錢供與關係ヲ第一及第二審公判ニ於テ否認シ又下鳥好及平井卯市等カ同様第一及第二審公判ニ於テ否認シ得ル以上ハ大谷啓助カ罪ト爲ルヘキ證據ヲ示シ且之ヲ認メタル理由ヲ示シテ以テ判決ト爲ササルヘカラス原審判決ハ事茲ニ出テス以テ前記事實ヲ有罪ト爲シタルハ前記法條ニ違背セルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノナリト云フニ在レトモ

【要旨】

刑事訴訟法第二十四條第八號ニ所謂基礎ト爲リタル取調トハ有罪判決ニ付テハ其ノ事實認定ノ資料ニ供セラレタル證據ノ取調ヲ指稱スルモノニシテ縱令判事カ前審判決ノ認定シタル事實ノ根本タルヘキ事實關係ニ付取調ヲ爲シタリトスルモ其ノ取調ノ結果カ右判決ノ事實認定ニ關スル資料トナラサル限リ該判決ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタルモノト謂フヘカラス果シテ然ラハ本件ニ於テ橋本判事カ所論ノ別事件ニ付所論ノ如ク本件被告人等ニ金員ヲ供與シタル事實アリトシテ起訴セラレタル井上競

ヲ取調ヘ且其ノ事實ヲ認定シテ有罪ノ判決ヲ爲シタレハトテ其ノ取調ノ結果カ原判決事實認定ノ證據資料ニ供セラレタルモノニアラサルコトハ原判文上極メテ明白ナルカ故ニ同判事ヲ以テ所論ノ如ク前示法條ニ所謂基礎ト爲リタル取調ニ關與シタルモノト認メ難ク而モ他ニ除斥原因タルヘキ事由アルコトナキカ故ニ論旨第一點ハ理由ナク又爾餘ノ論旨ニ付案スルニ原判決援用ノ證據ヲ綜合スルトキハ被告人ニ係ル判示犯罪事實ハ孰レモ其ノ證據十分ニシテ記録ヲ查スルモ所論ノ檢事聽取書若ハ強制處分ニ基ク訊問調書ノ作成ニ關シ所論ノ如キ不法アリテ之ニ記載セラレタル各關係人ノ陳述カ不任意ニ爲サレタル虛偽ノモノナルコトヲ徵スヘキ何等ノ證據ナク原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アルコトハ之ヲ認メ難シ從テ原審カ所論ノ聽取書若ハ訊問調書ヲ採用シテ之ヲ斷罪ノ資料トナセルハ違法ト做スニ足ラサルノミナラス判示事實ノ認定ニ關スル證據説明トシテ毫モ缺クル所ナキコト勿論ニシテ所論ハ結局原審ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷ヲ攻撃スルモノト云フノ外ナク之ヲ要スルニ原判決ニハ所論ノ如キ違法ナキヲ以テ論旨ハ全部其ノ理由ナキモノトス右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事德江治之助關與

○勾留ニ因ル刑事補償請求事件

(昭和十二年(五)第三號
同年五月二十九日第三刑事部決定)

棄却)

【請求人】米島團藏 代理人辯護士 打出信行

○判示事項

正當防衛ノ事實ヲ主張セサリシコトト刑事補償法第四條第二項

○決定要旨

犯罪事實ヲ自認セルニ止リ正當防衛ノ事實ヲ主張セサリシコトハ
刑事補償法第四條第二項ニ所謂故意又ハ重大ナル過失ニ因ル行爲
カ起訴勾留ノ理由ト爲リタル場合ニ該當ス

【参照】刑事補償法第四條 無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付左ノ事由アリタル
トキハ補償ヲ爲サス

正當防衛ノ事實ヲ主張セサリシコトト刑事補償法第四條第二項

一 刑法第三十九條乃至第四十一條ニ規定スル事由ニ因リ無罪又ハ免訴ノ言渡アリタルトキ

二 起訴セラレタル行爲カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反シ著シク非難スヘキモノナルトキ

本人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル行爲カ起訴、勾留、公判ニ付スル處分又ハ再審請求ノ理由ト爲リタルトキハ第一條第一項ノ補償ヲ爲サス

本人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル行爲カ原有罪判決ノ懸據ト爲リタルトキハ第一條第二項ノ補償ヲ爲サス

一個ノ裁判ニ依リ併合罪ノ一部ニ付無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ受クルモ他ノ部分ニ付有罪ノ言渡ヲ受クル者ニ對シテハ補償ヲ爲ササルコトヲ得

○主 文

本件補償請求ハ之ヲ棄却ス

○理 由

本件請求ノ趣旨ハ請求人ハ山鹿區裁判所昭和十一年(ハ)第一號傷害被告事件ノ被告人トシテ昭和十一年一月二十五日勾留狀ヲ執行セラレ同日ヨリ昭和十一年二月二十七日迄三十四日間未決勾留ヲ受ケ昭和十一年一月三十日山鹿區裁判所ノ言渡シタル有罪判決ニ對シ昭和十一年一月三十一日控訴ノ申立ヲ爲シタル處昭和十一年三月三十日熊本地方裁判所ニ於テ無罪ノ判決言渡アリタル處熊本地方裁判所

檢事局檢事正代理木田州又ハ右判決ニ對シ昭和十一年四月四日上告ノ申立ヲ爲シタルモ昭和十二年二月二十七日御院ニ於テ犯罪ノ證明ナキモノトシテ無罪ノ判決言渡アリタルヲ以テ請求人ニ對シ右勾留ニ因ル補償相成度及請求候也ト謂フニ在リ

【要旨】

然レトモ請求人ニ對スル傷害被告事件ノ記録ヲ精査スルニ請求人ハ檢事ニ對シ單ニ任意犯罪事實ヲ自供セルニ過キササルノミナラス第一審勾留訊問ニ於テモ判事ニ對シ犯罪事實ヲ自認セルニ止リ正當防衛ノ事實ヲ主張セサリシコト明瞭ニシテ右ハ即本人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル行爲カ起訴勾留ノ理由ト爲リタルモノニ外ナラサルヲ以テ本件請求人ニ對シテハ刑事補償法第四條第二項ニ依リ刑事補償ヲ爲スヘカラス

仍テ本件請求ヲ理由ナシト認メ同法第十條第一、二項ニ則リ主文ノ如ク決定ス

○船舶覆没致死殺人死體遺棄偽證被告事件

(昭和十一年(レ)第六三一號 棄却)
同十二年六月五日第五刑事部判決

變死者ニ對スル鑑定ト檢事又ハ司法警察官ノ職權 鑑定人ト補助者ノ使用

【上告人】 被告人 成田榮三郎 各被告人 原審辯護人 高野精一

辯護人 今村力三郎
鈴木義男
山田牛藏

【第一審】 函館地方裁判所 【第二審】 札幌控訴院

○ 判示事項

變死者ニ對スル鑑定ト檢事又ハ司法警察官ノ職權——鑑定人ト補助者ノ使用

○ 判決要旨

一 檢事又ハ司法警察官力變死者ノ死體ノ檢視竝檢證ニ依リ犯人ヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限り鑑定ヲ命スルコトヲ得ルモノトス【要旨第一】
二 鑑定人力鑑定ノ目的遂行ニ必要ナル範圍内ニ於テ適當ナル者ヲ補助者トシテ使用スルハ不法ニ非ス【要旨第二】

【參照】 刑事訴訟法第八十二條 變死者又ハ變死ノ疑アル死體アルトキハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事檢視ヲ爲スヘシ
前項ノ處分ニ因リ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ引續キ檢證ヲ爲スコトヲ得

檢事ハ司法警察官ヲシテ前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

同法第二百十四條 檢事ハ第二百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取りタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限り第八十四條乃至第二百一十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限り第八十四條乃至第二百一十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

同法第二百二十三條 左ノ場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢事ハ勾引狀ヲ發シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

(中略)

五 死體ノ檢證ニ因リ犯人ヲ發見シタルトキ

(後略)

同法第二百二十八條 第十三章ノ規定ハ勾引ニ關スル規定ヲ除クノ外鑑定ニ付之ヲ準用ス但シ檢事及司法警察官ハ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ヲ爲スコトヲ得ス

同法第二百十九條 裁判所ハ學識經驗アル者ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得
同法第二百一十一條 鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ依リ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘシ

變死者ニ對スル鑑定ト檢事又ハ司法警察官ノ職權 鑑定人ト補助者ノ使用

鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得
鑑定書ヲ差出シタル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其ノ説明ヲ爲サシムル
コトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人成田榮三郎ヲ死刑ニ處ス被告人成田濱一同
成田要同西村久作同關口幸次郎同齊藤勝利同照井留五郎同東喜三郎同渡邊三太郎ヲ各懲役十年ニ被告
人田中力造同道下一郎ヲ各懲役十月ニ處ス但被告人成田濱一同成田要同西村久作同關口幸次郎同齊藤
勝利同照井留五郎同東喜三郎同渡邊三太郎ニ對シ原審ニ於ケル未決勾留日數中四百八十日宛及當審ニ
於ケル未決勾留日數中二百日宛ヲ被告人田中力造同道下一郎ニ對シ原審ニ於ケル未決勾留日數中三百
日宛ヲ夫々右本刑ニ算入ス訴訟費用中被告人田中力造同道下一郎ニ對スル偽證被告事件ノ鑑定人池田
千足ニ支給シタル分ハ被告人田中力造同道下一郎ノ負擔トシ其餘ハ被告人成田榮三郎同成田濱一同
成田要同西村久作同關口幸次郎同齊藤勝利同照井留五郎同東喜三郎同渡邊三太郎ノ連帶負擔トスル旨
ノ判決ヲ爲シタリ

被告人榮三郎ハ船長被告人濱一、要、久作、幸次郎、勝利、留五郎、喜三郎、三太郎ハ水夫、被告人力造ハ機關士、
被告人一郎ハ油差トシテ執レモ北海道岩内郡岩内町岩内漁業株式會社所有機帆船千代丸(總噸數三一噸八九)ニ乗組
ミ居リシモノナルトコロ島牧郡瀬棚郡近海ニ於テ八十數年前ヨリ發動機船等ニテ密漁ヲ爲スモノ跋扈シ其ノ沿岸漁民

ハ生活上ノ脅威ヲ受クルニ至リタルヨリ自衛上已ムナク監視船ヲ設ケ密漁船ノ來襲ニ備フルト共ニ之カ拿捕ニ努メタ
ル爲自然監視船ト密漁船トノ間ニ激烈ナル爭鬭ヲ見ルニ至リタルカ

第一 被告人榮三郎ハ右千代丸ニ乗組ミ之ヲ操縦シテ昭和八年二月二十四日午後五時頃岩内港ヲ出帆シ夜間密漁ノ目
的ヲ以テ島牧郡西島牧村茂津多岬沖方面ニ向ヒ時速約七哩半ニテ航行ヲ續ケ同日午後九時三十分頃同村白糸岬附
近禁止區域ニ到リ操業ヲ開始セントシタルニ偶同所ニ居合セタル瀬棚郡漁業組合ノ密漁監視船第二幸進丸(總噸數
一四噸三九ノ機帆船)ニ發見追跡セラレ將ニ其ノ進路ヲ斷タレムトスルニ立至リタルヨリ被告人榮三郎ハ之カ拿捕
ヲ免レムカ爲千代丸ヲ衝突セシメテ第二幸進丸ヲ破壊覆没セシメントノ意ヲ固メ遽ニ千代丸ノ船首ヲ第二幸進丸ノ
右舷機關部目蒐ケテ激突セシメ船長玉井豐作以下四名ノ現存スル第二幸進丸ノ船體ヲ破損シ同船ヲシテ遂ニ同村宇
オコツナイ赤岩附近ノ荒磯ニ漂着セシメ大破覆没スルニ至ラシメ因テ同船機關士佐川新吉ヲ同所附近ノ海中ニテ溺
死セシメ又辛シテ上陸シタル船長玉井豐作、水夫奈良慶治、能代鐵藏ヲシテ同所海岸ニ於テ凍死スルニ至ラシメ

第二 前記衝突ノ際第二幸進丸ニ便乗シ居タル柴崎幾太郎カ千代丸ノ船首ニ乗移リ來ルヤ被告人榮三郎ハ之ヲ生存セ
シムルニ於テハ叙上犯行ノ發覺スヘキコトヲ懼レ寧ろ水夫等ニ命シテ幾太郎ヲ殺害スルニ如カスト思惟シ折柄衝突
ヲ感知シ興奮シテ千代丸船首ニ集リ來リタル同船乗組ノ水夫被告人濱一、要、久作、幸次郎、勝利、留五郎、喜三
郎、三太郎等ニ對シ「此ノ野郎ヲヤツツケテ了へ」ト號令シテ右幾太郎ヲ殺害スヘキコトヲ命シ同被告人等ハ即座
ニ之ニ應シ一致共同シテ幾太郎ヲ殺害セントヲ通謀シ同船船首三番バツチ附近ニ於テ被告人濱一ハ幾太郎ヲ手拳
ニテ毆打シ續イテ被告人要、久作、幸次郎、勝利、留五郎、喜三郎、三太郎ハ共々幾太郎ヲ仰向ニ押倒シタル上手
足胴等ヲ掴ミ相協力シテ十數回胴上ヲ爲シテ甲板其ノ他ニ叩付ケ被告人榮三郎ハ其ノ傍ノ舵部屋ニ在リテ「生殺シ
ニシナイテスツカリ遣ツテ了へ」ト怒號シテ一同ヲ激勵指揮シ尙被告人濱一、幸次郎、勝利、三太郎等ハ護謨長靴

變死者ニ對スル鑑定ト檢事又ハ司法警察官ノ職權 鑑定人ト補助者ノ使用

ノ儘幾太郎ノ顔面胸腹部等ヲ蹴リ或ハ踏付ケ因テ右各被告人ノ共同行爲ニヨリ幾太郎ヲシテ前頭骨眼窩部骨折兩側肋骨ノ多數骨折等ノ重傷ヲ被ラシメ右骨折ニ基ク内出血等ノ爲即死スルニ至ラシメ以テ殺害ノ目的ヲ遂ケ

第三 以テ被告人榮三郎、濱一、要、久作、幸次郎、勝利、留五郎、喜三郎等ハ右幾太郎ノ死ヲ見ルヤ暗然ノ裡ニ該犯行ノ發覺ヲ防止スル爲共同シテ其ノ死體ヲ遺棄センコトヲ通謀シ被告人榮三郎ハ傍ニ在リテ一同ヲ指揮命令シ被告人濱一、要、久作、幸次郎、勝利、留五郎、喜三郎ハ共々幾太郎ノ屍體ヨリ着衣ヲ剥取り裸體ト爲シ被告人幸次郎ハ其ノ所持ノ西洋剃刀ヲ以テ幾太郎ノ頭髮ヲ剃落シ被告人濱一、要、久作、幸次郎、勝利、留五郎、喜三郎等ハ協力シテ右屍體ヲ白糸岬沖合附近ノ海中ニ投込ミ以テ之ヲ遺棄シ

第四 前記ノ如ク昭和八年二月二十四日午後九時三十分過頃被告人等一同ノ乘組ミ居タル千代丸カ島牧郡西島牧村白糸岬沖合附近ニ於テ瀬棚郡漁業組合ノ監視船第二幸進丸ト衝突シタル際被告人力造ハ右千代丸機關部ノ寢臺ニ横臥シ居リタルカ衝突ノ激動ヲ感シ被告人一郎ニ對シ「ブツカツタ様ダナ」ト呼掛ケ寢臺ヲ下リ被告人一郎ニ於テ停船操作ヲ爲スヲ認メ且自ラ機關部ノ出入口ヨリ外部ヲ見タルニ船首附近ニ人聲ヲ聞キ其ノ後船長室ヨリノ合圖ニ基キ自ラ出動ノ操作ヲ爲シ

被告人一郎ハ右衝突ノ際千代丸機關室カバナーノ前ニ腰掛ケ雜誌ヲ讀居リタルカ衝突ノ反動ニヨリ身體カ右横ニ傾キ何事ナラムト思ヒ居ル内船長室ヨリ停船ノ合圖アリタルニ因リ自ラクラツチヲ外シ其ノ際被告人力造カ前記ノ如ク寢臺ヨリ降り機關室ノ外ヲ窺ヒ且間モナク出動ノ操作ヲ爲シタルモノニシテ被告人力造及同一郎ハ孰レモ衝突ノ震動ヲ感シ且其ノ際夫々叙上ノ如キ行動ヲ採リタルコトヲ互ニ熟知シ居ルモノナルニ拘ラス他ノ乘組員タル被告人成田榮三郎外八名ノ犯行ヲ曲庇スル爲

(一) 被告人力造ハ成田榮三郎外八名ニ對スル艦船覆沒致死殺人死體遺棄被告事件ニ付證人トシテ宣誓シタル上昭

和八年十二月一日函館地方裁判所ニ於テ同應豫審判事ノ訊問ヲ受ケタル際自己ノ記憶ニ反シ「昭和八年二月二十四日午後五時半頃千代丸カ岩内ヲ出帆スルヤ間モナク寢ニ就キ途中眠リテ何事モ知ラス翌朝目ヲ覺マシタル時ハ久遠港ニ在リタルモノニシテ千代丸ハ夜中衝突シタルモノニ非サル」旨

(二) 被告人一郎ハ前記被告事件ニ付證人トシテ宣誓シタル上同年十一月二十九日同應ニ於テ同豫審判事ノ訊問ヲ受ケタル際自己ノ記憶ニ反シ「千代丸ハ昭和八年二月二十四日夜一時停船シタルモ衝突ノ反動ニヨリ身體カ横ニ傾キタルカ如キコトハ絕對ニナク被告人力造ハ其ノ頃寢臺ニ在リテ睡眠シ居リタル儘ナリシ」旨
孰レモ殊更虚偽ノ供述ヲ爲シ以テ夫々偽證シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人榮三郎ノ判示第一ノ船舶覆沒致死ノ所爲ハ刑法第二百二十六條第二項第三項ニ該當シ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ犯情最モ重シト認ムル玉井豐作ニ對スル船舶覆沒致死ノ刑ニ從ヒ所定刑中ノ死刑ヲ選擇シ第二ノ殺人ノ所爲ハ同法第九十九條第六十條ニ該當スルニヨリ有期懲役刑ヲ選擇シ第三ノ死體遺棄ノ所爲ハ同法第九十九條第六十條ニ該當スルトコロ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ニシテ船舶覆沒致死罪ニ付死刑ヲ選擇シタルニ付同法第四十六條第一項ニ則リ他ノ刑ヲ科セスシテ被告人榮三郎ヲ死刑ニ處シ被告人濱一、要、久作、幸次郎、勝利、留五郎、喜三郎ノ判示所爲中第二ノ殺人ノ所爲ハ同法第九十九條第六十條ニ該當スルヲ以テ孰レモ所定刑中有期懲役ヲ選擇シ判示第三ノ死體遺棄ノ所爲ハ同法第九十九條第六十條ニ該當スルトコロ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ則リ重キ殺人罪ノ刑ニ併合加重ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人濱一、要、久作、幸次郎、勝利、留五郎、喜三郎ヲ各懲役十年ニ處シ被告人三太郎ノ判示第二ノ殺人ノ所爲ハ同法第九十九條第六十條ニ該當スルヲ以テ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役十年ニ處シ被告人力造同一郎ノ判示第四ノ偽證ノ所爲ハ同法第六十九條ニ該當スルヲ以

變死者ニ對スル鑑定ト檢事又ハ司法警察官ノ職權 鑑定人ト補助者ノ使用

テ其ノ所定期限範圍内ニ於テ同被告人等ヲ各懲役十月ニ處シ尙同法第二十一條ニ依リ被告人濱一、要、久作、幸次郎、勝利、留五郎、喜三郎、三太郎ニ對シ原審ニ於ケル未決勾留日數中各四百八十日及當審ニ於ケル未決勾留日數中各二百日ヲ被告人力造、一郎ニ對シ原審ニ於ケル未決勾留日數中各三百日ヲ夫々右本刑ニ算入シ訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ主文掲記ノ如ク其ノ負擔ヲ定ムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

但シ被告人濱一、要、久作、幸次郎、勝利、留五郎、喜三郎、三太郎ニ對シ本院ニ於ケル未決勾留日數中二百五十日ヲ夫々本刑ニ算入ス

○理 由

各被告人辯護人今村力三郎、鈴木義男、山田半藏上告趣意書第二十六點原判決ハ第一事實ニ對スル證據説明ノ部ニ於テ「五十六、醫師弓削玄庵ノ作成ニ係ル昭和八年三月十九日附鑑定書」ト題スル書面ヲ本件斷罪ノ資料ニ供シタリ然ルニ右書面ハ昭和八年三月四日西島牧郡西島牧村字元町千走寺ニ於ケル司法警察官_ヲ查部長佐藤吉カ醫師 削玄庵ニ對スル鑑定命令ニヨリ作成セラレタルモノナリ(鑑定人弓削玄庵ニ對スル鑑定人訊問調書參照)刑事訴訟法第八十二條ニハ「變死者又ハ變死ノ疑アル死體アルトキハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事檢視ヲ爲スヘシ前項ノ處分ニ因リ

犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ引續キ檢證ヲ爲スコトヲ得檢事ハ司法警察官ヲシテ前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サシムルコトヲ得」ト規定セラレアルカ故ニ司法警察官カ檢事ノ命令アル場合ニ於テ變死者又ハ變死ノ疑アル死體ニ付檢視ヲ爲シ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ引續キ檢證ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論ニシテ其ノ檢證ニ付テハ死體ノ解剖其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ得ルコトハ又同法第八十三條第七十六條ノ規定スル所ナルモ此ノ場合ニ於テ更ニ進ンテ鑑定ヲ命シ得ヘキ規定存セサルヲ以テ檢事及司法警察官ハ之ヲ命スル職權ヲ有セサルモノト解セサルヘカラス蓋檢證ハ檢證物ヲ以テ其ノ目的物ト爲シ其ノ性質物ニ對スル證據手續ナルニ反シ鑑定ハ鑑定人ヲ以テ其ノ對象ト爲シ其ノ性質人ニ對スル證據手續ニシテ兩者其ノ性質手續ヲ異ニスルヲ以テ檢證ノ内ニハ當然其ノ性質ノ相容レサル鑑定ヲ包含スト云フヲ得サレハナリ而シテ本件記錄中ノ司法警察官ノ檢證調書(記錄一冊一三二丁以下)ニ依レハ巡查部長佐藤勇吉ハ柴崎幾太郎死體ノ所在ニ臨ミ檢視シタルニ犯罪アルコトヲ發見シ急速ヲ要スルモノト認メ引續キ同死體竝死體發見個所附近ノ檢證ヲ爲シ更ニ進ンテ醫師弓削玄庵ニ對シ右死體ヲ解剖シ死因其ノ他ニ付鑑定スヘキコトヲ命シ(記錄一冊一六〇丁乃至一六二丁鑑定人訊問調書參照)同醫師ハ司法警察官ノ命シタル右事項ヲ鑑定シ鑑定書ヲ作成シ提出シタルモノニシテ本件司法警察官ノ爲シタル鑑定命令ハ不法ノモノナリト云ハサルヘカラス從ツテ之ニ基キ爲シタル右鑑定書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ違法ニシテ破毀

變死者ニ對スル鑑定ト檢事又ハ司法警察官ノ職權 鑑定人ト補助者ノ使用

ヲ免レサルモノト信スト謂フニ在レトモ

【要旨第一】

本件ニ於テ檢事ハ司法警察官代理タル巡查ヲシテ變死者タル柴崎幾太郎ノ死體ノ檢視並檢證ヲ爲サシメ右檢證ニ依リ犯人ヲ發見シタルカ爲刑事訴訟法第二百十四條第二百二十三條第五號第二百二十八條ニ從ヒ本件公訴提起前醫師弓削玄庵ニ對シ鑑定ヲ爲スヘキコトヲ命シタルモノナルコト記録ニ徴シ明瞭ナルヲ以テ右鑑定手續ニハ何等不法ノ廉アルコトナシ然レハ原審カ右鑑定人弓削玄庵ノ作成ニ係ル鑑定書ヲ罪證ニ供シタルハ毫モ違法ニ非ス論旨理由ナシ

第二十八點原判決ハ第一事實ニ對スル證據説明ノ部ニ於テ「四十五、鑑定人西田貫道ノ昭和八年四月二十日附鑑定書四通中玉井豐作ノ死因ハ凍死ナラント推定ス（記録四冊一九二四丁以下）奈良慶治ノ死因ハ凍死ナラント推定ス（同上一九三五丁以下）能代鐵藏ノ死因ハ凍死ナラント推定ス（同上一九四五丁以下）佐川新吉ノ死因ハ溺死セルモノト認ム」ル旨ノ記載ヲ援用シタリ仍テ右鑑定書四通ヲ査閲スルニ其ノ何レニモ「昭和八年三月二十三日函館地方裁判所豫審判事代理判事ハ保坂與次郎外二十名ニ對スル殺人船舶覆沒致死被疑事件ニ關シ屍ヲ剖檢シテ左記鑑定事項ヲ鑑定スヘキ旨ヲ余ニ命シタリ」トアリ又其ノ鑑定命令ヲ閱スルニ「豫審判事代理判事佐藤竹三郎ハ鑑定人西田貫道ニ對シ玉井豐作、能代鐵藏、佐川新吉、奈良慶治ノ各死體ヲ示シ之ヲ解剖ノ上鑑定事項ニ付鑑定スヘキ旨ヲ命シ鑑定人西田ハ之ヲ了承シ鑑定ノ結果ハ書面ヲ以テ報告スヘシト陳述シタリ」トアリ（記録二冊五三四丁

乃至五三八丁鑑定人西田貫道ニ對スル訊問調書參照）之ニ依レハ豫審判事代理判事ハ玉井豐作、能代鐵藏、佐川新吉、奈良慶治ノ死體ニ對スル創傷ノ部位、程度、死因、自然死、他殺ノ別、成傷、用器ノ種類、形狀等ノ鑑定ニ付テハ西田貫道一人ニ之ヲ命シタルコト寔ニ明瞭ナリト然ルニ前記四通ノ鑑定書ハ四通トモ鑑定ヲ命セラレタル西田貫道一人ニテ作成セラレスシテ醫師西田貫道ト醫師横山規矩治及同藤野清一ノ三名ニテ作成セラレアルヲ以テ（鑑定書參照）結局此ノ鑑定書ハ法律上無効ノモノト云ハサルヘカラス蓋本件記録中ニハ右横山規矩治、藤野清一ニ對シ宣誓セシメテ前記鑑定事實ニ付鑑定ヲ命シタル事跡ナキヲ以テ同鑑定書ハ適式ニ宣誓ヲ爲サシメサル鑑定人カ參加鑑定シタルモノト云フノ外ナケレハナリ果シテ然ラハ原判決ハ爰ノ點ニ於テ法律上無効ノ鑑定書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アルモノト云フヘク破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニ在リ

【要旨第二】

仍テ記録ヲ査閲スルニ所論鑑定書末尾ニ鑑定人若ハ補助鑑定人トシテ署名捺印セル西田貫道、横山規矩治、藤野清一三名ノ内西田貫道ハ鑑定人トシテ宣誓ノ上訊問ヲ受ケタルモノナルモ他ノ二名ニ付テハ其ノ形跡更ニ存セサルコト洵ニ所論ノ如シト雖本來右鑑定ハ豫審判事カ西田貫道一人ニ對シ之ヲ命シタルモノナルトコロ同人ハ鑑定ノ目的遂行ノ必要上右横山、藤野兩名ヲ單ナル補助者トシテ使用シタルモノト認ムヘク而シテ鑑定ノ補助行爲ハ鑑定自體ニ非スシテ鑑定ノ準備行爲ニ過キサカ故ニ鑑定人カ鑑定ノ目的ヲ遂行スルニ必要ナル範圍内ニ於テ適當ナル者ヲ使用シテ之カ補助ノ任ニ當ラシム

變死者ニ對スル鑑定ト檢事又ハ司法警察官ノ職權 鑑定人ト補助者ノ使用

ルハ固ヨリ不法ニ非ス從テ所論鑑定書ハ適式ニ鑑定ヲ命セラレタル鑑定人西田貫道ノ作成シタルモノトシテ有效ナルコト論ヲ俟タス唯同鑑定書ニ前記兩名カ補助鑑定人トシテ其ノ名ヲ表記シタルハ妥當ナラスト雖コレアルカ爲右鑑定書ノ效力ニ影響ヲ及ホスモノト謂フヘカラス然レハ原判決ニハ所論ノ違法ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條刑法第二十一條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事徳江治之助關與

○名譽毀損被告事件 (昭和十二年(九)第四七八號 棄却)
(同年六月五日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 船坂元吉 辯護人 大道寺慶男
外四名 田村勝矣
【第一審】 岐阜區裁判所 【第二審】 岐阜地方裁判所

○判示事項

告訴ト犯人ノ指定——新聞紙ノ記事ニ依リ名譽ヲ毀損セラレタル者ノ告訴ノ效力

○判決要旨

- 一 告訴ハ犯罪事實ヲ申告シ犯人ノ處罰ヲ求ムル意思ヲ明示スレハ足り又犯人ヲ特定シ得ラルルニ於テハ常ニ必スシモ犯人ヲ指定セサルヘカラサルモノニ非ス【要旨第一】
- 二 新聞ニ依ル名譽毀損ノ事實ニ付新聞社社長ヲ被告告訴人トシテ爲サレタル告訴ト雖行爲者ノ訴追ヲ求ムルノ趣旨明白ナル場合ニ於テハ告訴ノ效力ハ行爲者及其ノ共犯人ニ及フモノトス【要旨第二】

【參照】 刑法第二百三十條 公然事實ヲ揭示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス
同法第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
告訴人ト犯人ノ指定 新聞紙ノ記事ニ依リ名譽ヲ毀損セラレタル者ノ告訴ノ效力

刑事訴訟法第二百五十八條 犯罪ニ因リ害ヲ被リタル者ハ告訴ヲ爲スコトヲ得
同法第二百六十八條 親告罪ニ付共犯ノ一人又ハ數人ニ對シテ爲シタル告訴又ハ其
ノ取消ハ他ノ共犯ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス
前項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求又ハ其ノ取消ニ之ヲ準用
ス
刑法第八十三條ノ罪ニ付相姦者ノ一人ニ對シテ告訴又ハ其ノ取消アリタルトキ
ハ他ノ者ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定理由ノ説示及法律ノ適用ヲ爲シ被告人船坂元吉、高田芳三郎、武田清太郎、福永祖恭、松浦儀一ヲ各罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ夫々勞役場ニ留置ス原審ニ於ケル訴訟費用ハ被告人等ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人船坂元吉ハ岐阜縣高山市三町高山新聞社ノ發行ニ係ル高山日日新聞ノ發行兼編輯人ナル處中林菊之助及旗新藏兩名ノ名譽ヲ毀損スヘキコトアルヘキヲ認識シナカラ昭和十年二月二十二日付發行ノ同新聞紙上ニ

「もぐりたいじ」ト題シ「地方民の無智なるに乗じて言葉巧にとり入り良民の膏血を絞つて私腹を肥して居る者あるを耳にした高山著では鋭く目を光らしてゐたが高山町吹屋町仲介業中林熊次郎(五一)が屋敷源次郎氏より同人の井上忠三郎氏に對する貸金五百五十圓の取立を委託されたのを同人が文盲であるのを奇貨として勝手に證書を作

成して債權讓渡を受けた如く装ひ井上忠三郎より元利七百圓を受取りながら再三屋敷氏が熊に請求するも債權讓渡を受けたので自己のものなりと主張して渡さず勝手な承諾書を作成し且同町鐵砲町左京橋詰仲介業旗新藏(四六)と結託して名古屋林鈴吉氏に對する谷口某氏の債權讓渡を受けたりとして三百餘圓を利得した外同様の手段を以て高山町内外の良民を苦しめたること發覺し高山署に引致引續き取調中である同人等は自動車により引致されたもので此間何等かの陰謀を企み自己が罪狀を免れんが爲め云々何れもれつきの人物として市民に指彈されてゐたるもの云々」

ナル旨ノ記事ヲ掲載發行シテ公然熊次郎事申中林菊之助及旗新藏ノ各名譽ヲ毀損シ

被告人高田芳三郎ハ名古屋市中區西川端町株式會社名古屋新聞社ノ發行ニ係ル名古屋新聞ノ發行兼編輯人ニシテ被告人武田清太郎ハ岐阜縣高山市同新聞社飛彈支局長ナル處中林菊之助及旗新藏兩名ノ名譽ヲ毀損スヘキコトアルヲ各認識シナカラ被告人兩名共謀ノ上被告人武田清太郎ハ同年二月二十一日頃

「純朴な農民を虐める金色夜叉二人組高山署に檢舉さる」トノ題下ニ「高山町空町高利貸中林熊次郎事申中林菊之助(四九)及同町高利貸旗新藏(四八)が惡辣な手段により良民を苦しめてゐるとの風評を屢々耳にするので兩人の行動を監視してゐたところ最近頻々と被害者から投書が舞込むので二十日袖原司法主任等は鳩首協議の結果法網を潜る彼等の全滅を決意して兩人に任意出頭を命じたるところ頑として應ぜず抵抗さへなさんとしたので止むなく兩名を検束本署に留置し係官等嚴重取調を開始したが兩名は共謀して十數年間に互り高利を以て金を貸付け之が取立に當りては債務者の弱味に著込んで土足の儘屋内に踏み貸付た元金は勿論抵當物件迄も恐喝して巻上げてゐたもので其の惡辣さには取調への係官も舌を巻いて居るが長年に互り良民を苦しめた惡事は數限り無く續々と發覺惡徳高利貸の罪惡全貌が白日下に曝されてゐる見よ此の惡辣ぶり高山署更に惡高利貸征伐開始

告訴人ト犯人ノ指定 新聞紙ノ記事ニ依リ名譽ヲ毀損セラレタル者ノ告訴ノ效力

其の一 中林熊次郎旗新藏の兩名は本年一月高山町宇三町谷口末吉氏が病氣で金に困つてゐることを聞き込み同氏が權利を所有してゐる益田郡小坂町濁川温泉を名古屋市東區千種町林捨吉に三千五百圓で賣つて遣ると委任狀と金一千圓を受取りながら谷口氏には僅かに二百圓を手渡したのみで八百圓をままと横領し殘金二千五百圓の取立中を檢擧されたものである

其の二 中林は去る昭和三年頃大名田町井上某から金錢借入の依頼を受けたので高山町宇空町日稼屋敷源次郎氏の虎の子七百圓を斡旋して井上某に貸與させたが其の後井上は返済期限が來ても返済せぬので屋敷が中林に相談したところ全部取つて遣ると無筆な同人を信用させて取立委任狀を書かせ井上より半恐喝的に七百圓と利子を巻上げ屋敷にはビタ一文渡さず全部横領したのである

其の三 旗新藏は昭和八年八月頃大野郡丹生村字日影谷村春氏に田畑を擔保にして二百圓を貸與したが其返済期が一日延期したとの理由で元金二百圓と擔保の田畑を恐喝せんと計畫したが谷村は祖先の残した田畑を取られては申譯ないと更に田畑代りとして三百圓せしめられてゐる

其の四 旗新藏は同年九月頃大野郡大八賀村字鹽屋青山才五郎氏に田地十筆を擔保として三百圓貸したが返済期限が遅れたとの理由で三百圓と擔保の田地を巻上げられてゐる

其の五 旗新藏は同年八月頃大野郡丹生村字芦谷杉本一次郎氏に對し三人の保證人付で百二十五圓貸與したが同様返済期限が遅れたとの理由で杉本氏から百二十五圓と保證人から同様百二十五圓合計二百五十圓をせしめた

其の六 旗新藏は昭和九年四月頃吉城郡網江村山下權四郎氏に住家を擔保として二百圓を貸與したが返済期限が過ぎたとて住家を訪れて土足で踏込み何うしても家を賣却すると恐喝して元金二百圓と高利の利子を取り更に八十圓を恐喝したものである

其の七 旗新藏は同年八月頃吉城郡河合村字元田中家庄作氏に田地を擔保に二百圓を貸付け返済期日の延期を種に二百圓と擔保田地を巻上げてゐる

其の八 旗新藏は昨年末頃吉城郡古川町杉下外男氏に日歩三錢にて五百圓を貸付け返済に當つて更に手数料百圓を巻き上げてゐる外飛彈三郡内に於て或は中林と共謀し計畫的に良民を苦しめてゐたものの中には住家を兩名に賣拂はれた者田地を巻上げられた者其の他兩名から塗炭の苦を嘗めた者は數十名に上り被害額も巨額に達して居り其の犯罪の悪質なものには係官も驚いて居る尙同署ではこれを契機に管内に巢喰ふ斯かる一味の掃を期すると堅い決心を見せてゐる

旨記載シタル原稿ヲ被告人高田芳三郎ニ郵送シ同被告人ハ右原稿ニ基キ同年同月二十二日付同新聞岐阜縣版紙上ニ前記同趣旨ノ記事ヲ掲載發行シ

被告人武田清太郎ハ更ニ同月二十二日頃

「飛彈の金色夜叉引續き高山署で取調」ノ題下ニ「純朴な農民を幾多奸手段により苦しめてゐた高山町宇空町高利貸中林熊次郎事の中林菊之助(四九)及同町高利貸旗新藏(四八)の兩名は昨紙特報の如く引續き高山署にて取調中なるが尙多數の舊悪が續々發覺係官も舌を巻いてゐる」旨

記載シタル原稿ヲ被告人高田芳三郎ニ郵送シ同被告人ハ右原稿ニ依リ同月二十三日付同新聞岐阜縣版紙上ニ前記同趣旨ノ記事ヲ掲載發行シ以テ共ニ公然中林菊之助及旗新藏ノ名譽ヲ毀損シ

被告人福永祖恭ハ名古屋市西區御幸本町二丁目台資會社新愛知新聞社ノ發行ニ係ル新愛知新聞發行兼編輯人ニシテ被告人松浦儀一ハ岐阜縣高山市同新聞社高山支局長ナル處中林菊之助及旗新藏兩名ノ名譽ヲ毀損スヘキコトアルヘキヲ各認識シナカラ被告人兩名共謀ノ上被告人松浦儀一ハ同年二月二十二日頃

告訴人ト犯人ノ指定 新聞紙ノ記事ニ依リ名譽ヲ毀損セラレタル者ノ告訴ノ效力

「貸した金を二重三重にして取る高利貸の餘罪發覺」トノ題下ニ「母紙既報高山町大字空町金貸業中林菊之助(四九) 並旗新藏(四八)の兩名はインチキ高利貸として數日來高山署に留置嚴重取調中なるが今日迄犯罪の判明したるものは左の如くで取調が進むにつれ餘罪續々發覺して行くものと見られてゐる

一 中林は高山町日稼屋敷源次郎に甘言を以て同町井上某に金七百圓貸與せしめたが屋敷が此金を取れずに居るのを奇貨として出鱈目な委任状を作成して井上より五百圓受取りながら全部之を横領

二 旗は昭和八年八月頃大野郡丹生川村某に田地を擔保に二百圓貸したが豫定の期間が僅か一日切れたと言つて元利金を取つた上擔保品を賣却

三 同月同しく同人に三百圓貸し同様手段で詐取

四 大野郡丹生川村某に對して昭和八年九月三人の保證人を立て、百二十五圓貸したが此の返済を本人と保證人から二重に取る

五 大野郡大入賀村某に對し田地を擔保として二百圓貸與したが約束の期限が來たので擔保品を賣却せんとしたが借主が買戻をせんとした處二百圓を恐喝

六 昭和九年四月吉城郡細江村川上某に對して住家を擔保にして二百圓を貸與約束の期間が一日切れたと言ふので右擔保品を賣却せんとしたが川上が買戻をした處元利金を取つた上八十圓を卷上げる

等々で其の惡辣な手段には係官も舌を卷いて居り尙前記中林は本年二月十日迄高山町政同志會の幹部をしてゐたが品行が悪いので除名された者である」旨

記載シタル原稿ヲ被告人福永祖恭ニ郵送シ同被告人ハ右原稿ニ依リ同月二十三日付同新聞飛彈附録紙上ニ前記同趣旨

ノ記事ヲ掲載發行シ

被告人松浦儀一ハ更ニ同月二十三日頃

「机を並べて學んだ二人留置場へインチキ高利貸惡因果」トノ題下ニ「既報インチキ高利貸として高山署に目下留置嚴重取調を受けてゐる金貸業中林菊之助(四九)並旗新藏(四八)の兩名は今此の大罪惡を犯す迄には既に小學校時代から切つても切れぬ惡縁の因果關係があつたもので小學校時代には一年から四年迄同じ机に二人が並んで學んだものである」旨

記載シタル原稿ヲ被告人福永祖恭ニ郵送シ同人ハ右原稿ニ依リ同月二十四日付同新聞飛彈附録紙上ニ前記同趣旨ノ記事ヲ掲載發行シ

被告人松浦儀一ハ續テ二月末日頃

「留置場から貸金請求の原告となり法廷に出頭」トノ題下ニ「高山町空町高利貸中林熊次郎(四九)同旗新藏(四八)の兩名は數日來高山署に留置インチキ高利貸として嚴重取調中であるが旗は去る七日高山區裁判所法廷に於て原告と爲り請求の訴訟があるので是非共出頭せなければ不利であると言ふので白野縣會議員が高山署に右理由を申述べて一時其の身柄を釋放して訴訟に出頭し終つたので亦元の留置場に入つた」旨

記載シタル原稿ヲ被告人福永祖恭ニ郵送シ同被告人ハ右原稿ニ依リ翌三月一日付同新聞飛彈附録紙上ニ前記同趣旨ノ記事ヲ掲載發行シ

被告人松浦儀一ハ更ニ三月六日頃

「インチキ高利貸書類送局」トノ題下ニ「高山町インチキ高利貸旗新藏(四八)は數日來高山署に檢束取調中のところ此程一件書類を高山區檢事局に送られた」旨

記載シタル原稿ヲ被告人福永祖恭ニ郵送シ同人ハ右原稿ニ依リ同月七日付同新聞飛彈附録紙上ニ前記同趣旨ノ記事ヲ掲載發行シ共ニ公然中林菊之助及旗新藏ノ名譽ヲ毀損シタルモノナリ

辯護人ハ本件告訴ハ昭和十年七月三十日中林菊之助及旗新藏ヨリ本件各新聞社社長ヲ被告人ト爲サレタルモノナレハ被告人船坂元吉ニ對シテハ告訴アリタルモノナルモ他ノ被告人ニ對シテハ告訴ノ提起ナカリシモノナリ而シテ本件其ノ餘ノ被告人ニ對シテハ同年十二月十二日又ハ同年十一月十七、八日ノ追加告訴ニ依リ初メテ告訴ノ提起アリタルモノナルカ右追加告訴ナルモノハ告訴人カ犯人ヲ知りタル昭和十年三月二十日頃ヨリ既ニ六月以上ヲ經過セルヲ以テ其ノ效力ヲ生スルニ由ナキモノナリ蓋新聞紙ニハ編輯兼發行人ノ記載アルヲ以テ之ヲ知悉セサル理由ナク從テ本件告訴ハ船坂元吉以外ノ被告人ニ對シテハ效力ナシト主張スルヲ以テ按スルニ本件告訴ハ當初昭和十年七月三十日中林菊之助及旗新藏ヨリハ氏名ヲ記スコトナク單ニ各新聞社長ヲ被告人トシテ告訴ヲ提起シ其ノ後同年十二月十二日ニ至リ名古屋新聞社編輯人高田芳三郎高山支局編輯人武田清太郎(竹田トアルハ誤記ト認ム)新愛知新聞編輯人福永祖恭又同十一年二月十七、八日ニ至リ新愛知新聞高山支局長松浦儀一ニ對シ追加告訴ト稱シテ被告人船坂元吉以外ノ被告人ノ氏名ヲ明記シテ告訴ノ提起ヲ爲シタルコトハ一件記録ニ徵シ洵ニ明白ナリト雖之ヲ以テ被告人船坂元吉ヲ除ク爾餘ノ被告人等ニ對スル告訴ハ期間ノ徒過ニ依リ悉ク無効ナリト論斷スルヲ得ス蓋當初ノ告訴狀及昭和十年十二月十二日付ノ告訴狀ヲ精査スレハ本件告訴人等ノ眞意ハ判示記事ヲ掲載シタル各新聞社ニ對シ法律上之ヲ代表シテ刑事責任ヲ負擔スヘキモノ及之カ記事又ハ原稿ノ執筆者ニ對シ告訴ヲ提起スル趣旨ナルコトハ容易ニ之ヲ察知スルニ難カラサルモノト謂フヘク當時偶々告訴人等ニ於テハ法理ニ暗ク新聞記事ニ關スル刑事責任者ノ何人ナルヤ詳ニセサリシノミ社長ノ文字ニ拘泥シ社長ノ人ヲ目的トシタルモノト解スルハ誤論タルヲ免レス既ニ告訴人等ニ於テ其ノ名譽ヲ毀損スヘキ右新聞記事ノ掲載責任者及原稿執筆者ヲ告訴スル趣旨ニテ告訴シタルモノト解スル以上當初ヨリ客觀的ニハ

被告人松浦儀一以外ノ本件被告人等ヲ除キテハ被告告訴人タリ得ヘキモノアル筋合ナク然レハ同年十二月十二日ノ追加告訴ナルモノハ名ハ追加告訴ナレトモ新ニ告訴人ヲ追加シタルモノニ非スシテ既ニ同十年七月三十日提起シタル告訴ニ付各新聞社ノ發行兼編輯人及當該記事ノ作成者ノ氏名ヲ擧ケテ其ノ不備ヲ補充シ内容ヲ明確ニシタルモノト解スルヲ相當トスヘク又被告人松浦儀一ニ對シテハ昭和十一年二月十七、八日ノ追加告訴狀ニ依リ告訴シタルコトハ前除ノ如クナルモ同被告人ハ新愛知新聞ノ高山支局長兼通信員トシテ被告人福永祖恭ト共犯關係アルコトヲ其ノ頃始メテ知リテ告訴シタルモノナルコトハ右告訴狀ニ依リ認メ得ヘキヲ以テ右告訴權ハ時効ニ依リ消滅シタルモノニ非サルヤ言ヲ俟タサル所ナリ更ニ辯護人ハ被告人等ハ新聞記者タル使命ニ鑑ミ本件記事ヲ記述掲載シタルモノニシテ固ヨリ該記事ハ人ノ私行ニ渉ルモノニ非サルノミナラス專ラ公益ノ爲ニシ惡意ニ出アタルモノニ非スト辯疏シ新聞紙法第四十五條ニ該當シ又刑法第三十五條ノ正當ノ業務行爲ニ該當スル場合ナリト主張スルヲ以テ按スルニ新聞紙カ社會ノ公器トシテ社會百般ノコトニ關シ日々生起セル事象ヲ報道スル外一般社會ニ對スル警告ト反省ヲ促ス重大ナル使命ヲ有スルコトハ論ナシト雖新聞紙第四十五條ノ規定ハ人ノ私行ニ渉ラサルモノニ限り其ノ適用ヲ見ルヘク而シテ其ノ私行ヲ解シテ私人ノ私宅内ノ穩秘ノ行動ニ限リテ之ヲ指稱スト爲スハ餘リニ狭キニ失シ寧ロ公人ノ公的生活ニ於ケル行動ヲ除ク外一切ノモノヲ廣ク私行ト解スルヲ相當トスヘク私行ト雖公益ニ影響スルコト尠カラサレトモ之ヲ以テ私行ニ非スト謂フ可カラス本件被告人等ノ各掲載シタル記事ノ如キハ記事自體ニ徵シ人ノ私行ニ渉ルモノナルコト多言ヲ須ヒスシテ明カナルヲ以テ假令其ノ掲載ノ目的カ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノトノ證明ヲ得タリトスルモ刑法上名譽毀損罪ノ成立ヲ免レサルモノトス次ニ他人ノ名譽ヲ毀損スヘキ事項ヲ新聞紙ニ掲載スルコトハ新聞記者タル被告人等ノ正當ナル業務ニ屬セサルヤ寸毫モ疑ナシ

依テ辯護人ノ以上ノ主張ハ孰レモ採用スルニ由ナキモノトス

法律ニ照スニ被告人等ノ行爲ハ各刑法第二百三十條第一項ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額内ニ於テ被告人等ヲ各罰金二十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人等ヲ各留置スヘク原審ニ於ケル訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ從ヒ被告人等ノ連帶負擔トス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人大道寺慶男、西村勝矣上告趣意書第五點原判決ハ刑事訴訟法第二百六十五條ノ解釋ヲ誤リタル違法アル判決ナリ本件ハ告訴人中林、旗ノ兩名カ夫々昭和十年三月二十日本件各新聞紙上ニ判示事實ノ掲載アルヲ知り同年七月三十日各新聞社長ヲ告訴シ同年十二月十二日同十一年二月十七、八日ニ至リ高田芳三郎、武田清太郎、福永祖恭、松浦儀一ニ對スル追加告訴アリタルモノニ係ル即本件被告人高田、武田、福永、松浦ニ對シテハ何レモ告訴人等カ犯人ヲ知リタル後六箇月ヲ經過シタル後ニ告訴シタルモノナリ蓋名古屋新聞社長ト高田竝武田間新愛知新聞社長ト福永、松浦間ニハ夫々共犯關係ナク且新聞紙上ニハ編輯人發行人ノ記載アリ更ニ高山ノ如キ小都市ニ於テ本件大新聞ノ支局員カ何人ナリヤハ告訴人中林、旗ノ如キ從前訴訟ヲ事トセル者ニシテ之ヲ知ラサル筈ナキヲ以テナリ然

ルニ原判決カ或ハ「當時偶々告訴人等ニ於テハ法理ニ暗ク新聞記事ニ關スル刑事責任者ノ何人ナルヤヲ詳ニセザリシノミ」トカ或ハ「被告人松浦儀一ニ對シテハ昭和十一年二月十七、八日ノ追加告訴狀ニ依リ告訴シタルコトハ前敍ノ如クナルモ同被告人ハ新愛知新聞ノ高山支局長兼通信員トシテ被告人福永祖恭ト共犯關係アルコトヲ其ノ頃初メテ知リテ告訴シタルモノ」ナリ等ト爲シ以テ本件被告人ニ對シ何レモ適法ナル告訴アリタルモノト斷定シタルハ前記法條ノ解釋ヲ誤リタル違法アルモノトスト謂フニ在リ

【要旨第一】

仍テ記録ヲ調査スルニ本件ニ於テ告訴人中林菊之助、旗新藏ハ各昭和十年三月三十日(但シ同月二十九日附岐阜地方裁判所檢事局受付同月三十日)所論各新聞社長ヲ被告人トシテ告訴ヲ提起シ其ノ後同年十二月十二日及昭和十一年二月十七、八日ニ至リ追加告訴狀ニ依リ被告人高田芳三郎、武田清太郎、福永祖恭、松浦儀一ヲ追加告訴シタルコト所論ノ如シト雖告訴ハ犯罪事實ヲ申告シ犯人ノ處罰ヲ求ムル意思ヲ明示スレハ足り又犯人ヲ特定シ得ル以上常ニ必シモ犯人ヲ指定セサルヘカラサルモノニ非ス從テ告訴狀ニ犯人ヲ指定セス又ハ誤ツテ他人ヲ犯人ナリト指定シタル場合ニ於テモ告訴ノ趣旨ニ照ラシ被告人ノ何人ナルカヲ特定シ得ヘキ以上告訴ノ效力ハ其ノ眞犯人ニ及ヒ又共犯者アル場合ニハ共犯者全員ニ對シ其ノ效力ヲ及ホスモノト解スヘキモノトス右昭和十年三月二十九日附中林菊之助及旗新藏ノ各告訴狀ヲ查スルニ該告訴ハ名古屋新聞社長新愛知新聞社長高山日々新聞社長等

【要旨第二】

告訴人ト犯人ノ指定 新聞紙ノ記事ニ依リ名譽ヲ毀損セラレタル者ノ告訴ノ效力

ヲ被告訴人トシテ指定シアリト雖要ハ右各新聞紙上ノ記事ニ依リ名譽ヲ毀損セラレタルコトヲ申告シ各其ノ新聞記事ニ依リ名譽毀損ヲ爲シタル行爲者ニ對シ訴追ノ上相當ナル處分アラシムコトヲ求ムルノ趣旨ナリト認ムヘキカ故ニ被告人高田芳三郎、武田清太郎カ共謀ノ上名古屋新聞岐阜縣版上ニ判示記事ヲ掲載シ以テ中林菊之助、旗新藏ノ名譽ヲ毀損シ又被告人福永祖恭、松浦儀一カ共謀ノ上新愛知新聞飛彈附録紙上判示記事ヲ掲載シ以テ中林菊之助、旗新藏ノ名譽ヲ毀損シタリトノ事實アル以上被告人高田芳三郎、武田清太郎、福永祖恭、松浦儀一等ハ右各告訴狀ニ被告訴人トシテ指定セラレサルモ事實同被告人等カ判示新聞記事ニ依リ中林菊之助、旗新藏ニ對スル名譽毀損ノ行爲者ナレハ前叙理由ニ依リ同告訴ノ效力ハ當然同被告人等ニ對シテ及フヘキコト論ヲ竣タス然ラハ名古屋新聞社長ト被告訴人高田芳三郎、武田清太郎トノ間竝新愛知新聞社長ト被告人福永祖恭、松浦儀一トノ間ニ於テ各共犯關係ノ有無ハ前記昭和十年三月二十九日附各告訴ノ右各被告人等ニ對スル效力ニ關シ何等影響ヲ及ホササルモノト謂フヘク原判決ニハ所論ノ如キ違法ナク論旨ハ畢竟獨自ノ見解ニ基キ原判決ヲ非議スルモノニ外ナラスシテ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事有安堅三關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和十二年(九)第六八七號 同年六月七日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 角田加登一 辯護人 河合 廉一

【第一審】 岡山地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

審判手續ノ併合分離ノ不告知ト不服申立

○判決要旨

同時ニ同一裁判所ニ繫屬スル數個ノ被告事件ニ關スル審判手續ノ併合分離ハ之ヲ關係人ニ告知セサリシトスルモ不服申立ヲ許ササルモノトス

○事實

本院判決理由ニ記載セル事實ノ通り

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

審判手續ノ併合分離ノ不告知ト不服申立

○理由

辯護人河合廉一上告趣意書第一點原審ハ第一回公判廷ニ於テ被告人ニ對スル審理ニ付他ノ被告人ノ審理ト分離裁判スヘキ旨ヲ命令シナカラ第二回公判ニ於テハ他ノ被告人ノ事件ト本被告人ノ事件トヲ併合判決スル旨命令ヲ爲シ共ニ併合ノ上判決ヲ爲シタリ然レトモ其ノ併合判決スル旨ノ命令ハ之ヲ被告人ニ告知スルコトナク被告人ノ不知ノ間ニ併合判決行ハレ被告人ヲシテ異議ノ申立其ノ他不服ノ申立ヲ爲ス機會ヲ失ハシメ以テ辯護權ノ行使ヲ制限シタル不法アリ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在リ

仍テ記録ヲ査閱スルニ原審カ昭和十二年三月三日第一回公判期日ニ於テ被告人角田加登一、宮野織造平松嘉藏、大西猪之助、石田庄兵衛ニ對シ同日併合審理シタル其ノ餘ノ被告人則井熊野外四名ニ對スル被告事件ト之ヲ分離スル旨告知シ次テ昭和十二年三月四日第二回公判期日ニ於テ曩ニ分離シタル被告人角田加登一外四名ニ對スル被告事件ヲ更ニ被告人則井熊野外四名ニ對スル被告事件ト併合ノ上來ル三月十五日判決ヲ宣告スル旨ヲ告ケ閉廷シタルニ拘ラス該併合ノ通知ヲ特ニ被告人角田加登一ニ對シ爲シタル證據ノ認ムヘキモノ存在セサルコト洵ニ所論ノ如シト雖元來同時ニ同一裁判所ニ繫屬スル數個ノ被告事件ニ關スル併合分離ハ其ノ審判手續上裁判所ニ於テ必要又ハ便宜ト認メタル場合任意ニ何時タリトモ爲シ得ヘキ處分ニ過キサルヲ以テ單ニ實際ノ手續上之ヲ實現スレハ足り特ニ決定其ノ他

【要旨】

裁判ヲ爲スノ要ナク又當該被告人ニ對シ殊更其ノ旨通知スルノ必要アルモノニ非ス從テ該處分ニ對シ抗告申立ヲ許ササルハ勿論單ナル裁判長ノ處分ニ非サルヲ以テ異議ノ方法ニ依ル不服申立ヲ爲シ得ヘキ場合ニモ該當セス然ラハ原審カ之ヲ被告人ニ告知セサレハトテ所論ノ如ク異議其ノ他ノ不服申立ヲ爲スノ機會ヲ失ハシメ以テ辯護權ノ行使ヲ制限シタル不法アリト論斷スルヲ許サス原審ノ措置相當ニシテ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事正木亮關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和十一年(九)第三四〇四號 棄却)

【上告人】 被告人 有井 剛 辯護人 (雨宮 熊雄 西田 米藏 外一名)

【第一審】 甲府地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

刑事訴訟法第四百八十五條第七號ニ所謂判事ノ職務ニ關スル犯罪 投票シタル被選舉人ノ氏名ニ對スル判事ノ質問ト衆議院議員選舉法第十六條第二項ノ罪ノ成立 記録上判事ノ職務ニ關スル犯罪ノ存スルコト明白ナル場合ト再審ノ理由

○判示事項

刑事訴訟法第四百八十五條第七號ニ所謂判事ノ職務ニ關スル犯罪
—投票シタル被選舉人ノ氏名ニ對スル判事ノ訊問ト衆議院議員選
舉法第十六條第二項ノ罪ノ成立—記録上判事ノ職務ニ關スル犯
罪ノ存スルコト明白ナル場合ト再審ノ理由

○判決要旨

一 刑事訴訟法第四百八十五條第七號ニ所謂判事ノ職務ニ關スル犯
罪トハ判事其ノ取扱ヒタル事件ニ關シ瀆職ノ行爲アルヲ云ヒ必
スシモ其ノ取調ニ關シ惹起シタル汎テノ犯罪ヲ指稱スルモノニ
非ス【要旨第一】

二 被告人ノ投票シタル被選舉人ノ何人ナルヤカ當該被告事件ニ於
ケル公訴事實ノ内容ヲ爲シ從テ之カ取調ヲ絕對必要トスル場合
ノ外判事力其ノ擔當ニ係ル被告事件ノ取調ニ當リ被告人又ハ證
人ニ對シ其ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ノ表示ヲ求メタルトキ
ハ衆議院議員選舉法第十六條第二項ノ犯罪ヲ構成スルモノト

ス【要旨第二】

三 判事ニ職務上ノ犯罪アルコト記録上明白ナル場合ニ於テハ該犯
罪ノ存在ハ再審ノ理由ト爲ラス【要旨第三】

【參照】 刑事訴訟法第四百八十五條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シ
タル確定判決ニ對シテ其ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得
(中略)

七 原判決若ハ前審ノ判決若ハ其ノ判決ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事
豫審終結決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其
ノ基礎ト爲リタル捜査ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴
提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シ
タルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前判事又ハ檢事
ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判決ヲ爲シタル裁判所其ノ事實ヲ
知ラサリシトキニ限ル

同法第四百八十九條 第四百八十五條乃至前條ノ規定ニ從ヒ確定判決ニ因リ犯罪ノ
證明セラレタルコトヲ再審ノ理由ト爲スヘキ場合ニ於テ其ノ確定判決ヲ得ルコト
能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證明シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ證據ナキノ理
由ニ因リ確定判決ヲ得ルコト能ハサトルキハ此ノ限ニ在ラス
衆議院議員選舉法第十六條第二項 官吏又ハ吏員選舉人ニ對シ其ノ投票セムトシ
又ハ投票シタル被選舉人ノ氏名ノ表示ヲ求メタルトキハ六月以下ノ禁錮又ハ三百
元ノ罰金又ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百元ノ罰金
刑事訴訟法第四百八十五條第七號ニ所謂判事ノ職務ニ關スル犯罪 投票シタル被
選舉人ノ氏名ニ對スル判事ノ訊問ト衆議院議員選舉法第十六條第二項ノ罪ノ成
立 記録上判事ノ職務ニ關スル犯罪ノ存スルコト明白ナル場合ト再審ノ理由

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人有井剛ヲ禁錮四月ニ處ス訴訟費用中豫審ニ於ケル證人津金胤行ニ支給シタルモノハ同被告人ノ負擔トスル旨被告人三井文雄ヲ禁錮七月ニ處ス但シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用中豫審ニ於ケル證人長田正道、功刀徳市、田中甫ニ支給シタルモノハ被告人ニ於テ堀内健雄ト連帶シテ負擔スヘキモノトスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

昭和十年十月六日施行セラレタル山梨縣縣會議員選舉ニ際シ三井文雄ハ同年九月十六日田中甫ノ推薦届出ニヨリ同縣北巨摩郡ヨリ立候補ヲ爲シ被告人清水正視、淺川照鎮、有井剛、由井賢一、坂本孝重、谷戸義雄並原審相被告人淺川文平、須田眞澄ノ八名ハ孰レモ同候補者ノ選舉委員、被告人堀内健雄ハ被告人三井文雄ノ實兄ニシテ法定ノ選舉運動者ニアラサリシモノナルトコロ

(中略)

第四 被告人有井剛ハ

- (一) 同年十月二日頃前記選舉事務所ニ於テ被告人堀内健雄ヨリ右候補者ノ爲ニ投票ノ取纏アリタキコトノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ即時同所ニ於テ同被告人ヨリ同候補者ニ對スル投票取纏ノ報酬並投票買収資金等ヲ含メテ供與セララルモノナルコトノ情ヲ諒知シテ金七十圓ノ供與ヲ受ケ
- (二) 右候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

(イ) 同月三日同郡増富村役場附近路傍ニ於テ同村選舉人小尾直ニ對シ同候補者ノ爲ニ投票並投票ノ取纏アリタキコトノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬及投票買収資金等ヲ含メテ金十圓ヲ供與シ

(ロ) 同月四日同村選舉人有井一水方ニ於テ同村ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲シ前同様旨ノ下ニ金十五圓ヲ供與シ

(ハ) 同日同村選舉人藤原長清方ニ於テ同村ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲シ前同様旨ノ下ニ金十五圓ヲ供與シ

(ニ) 同村選舉人小澤信富ニ對シ同年九月二十六日頃前同様ノ依頼ヲ爲シ其ノ後同年十月四日夜同村人方ニ於テ同人ニ對シ前同様旨ノ下ニ清水裕ノ手ヲ經テ金二十圓ヲ供與シ

(ホ) 同月十月五日前記選舉人有井一水方ニ於テ同人ニ對シ前同様旨ノ下ニ前記第四ノ(二)ノ(ロ)ノ追加金トシテ金十圓ヲ供與シ(但シ内金五圓ハ同日同人ヨリ返還ヲ受ケ)

(ヘ) 同日夜同村被告人住居ニ於テ選舉人ニアラサル中島助市ニ對シ右候補者ノ爲ニ投票ノ取纏アリタキコトノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬及投票買収資金等ヲ含メテ金五圓ヲ供與シ

(中略)

タルモノナリ

而シテ被告人ノ金錢供與ヲ受ケタル所爲及金錢供與ヲ爲シタル所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルモノトス

次ニ被告人三井文雄ニ對スル事實ハ左ノ如シ
被告人ハ昭和十年十月六日施行セラレタル山梨縣縣會議員選舉ニ際シ同年九月十六日田中甫ノ推薦届出ニヨリ同縣北巨摩郡ヨリ立候補ヲ爲シタルモノナルトコロ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ實兄ナル原審相被告人堀内健雄ト共ニ同年九月末頃山梨縣北巨摩郡日野春村長坂上條二千五百四番地小林英男方ナル選舉事務所ニ於テ被告人ノ選舉委員ナル原審相被告人清水正視、淺川照鎮、有井剛、由井賢一、坂本孝重、谷戸義雄、淺川久平、須田眞澄ノ八名ニ對シ投票ノ取

刑事訴訟法第四百八十五條第七號ニ所謂刑事ノ職務ニ關スル犯罪 投票シタル被選舉人ノ氏名ニ對スル刑事ノ罪關ト兼該議員選舉法第百十六條第二項ノ罪ノ成立記録上判事ノ職務ニ關スル犯罪ノ存スルコト明白ナル合場ト再審ノ理由

繼テ依頼シテ其ノ報酬並投票買収資金等トシテ金錢ヲ供與セシコトヲ謀議シ被告人ハ同年十月二日前記選舉事務所ニ於テ右堀内健雄ニ對シ金五百七十圓ヲ手交シ堀内健雄ハ右謀議ニ基キ

(一) 同年十月二日前記選舉事務所ニ於テ前記清水正視ニ對シ被告人三井文雄ノ爲ニ投票ノ取纏ヲ依頼シ即時同所ニ於テ同人ニ對シ投票取纏ノ報酬並投票買収資金等ヲ含メ金百圓ヲ供與シ

(二) 同日前記選舉事務所ニ於テ前記淺川照鎮ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲シ即時同所ニ於テ同人ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金百五十圓ヲ供與シ

(三) 同日前記選舉事務所ニ於テ前記有井剛ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲シ即時同所ニ於テ同人ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金七十圓ヲ供與シ

(四) 同日前記選舉事務所ニ於テ前記由井賢一ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲シ即時同所ニ於テ同人ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金八十圓ヲ供與シ

(五) 同日前記選舉事務所ニ於テ前記坂本孝重ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲シ即時同所ニ於テ同人ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金百圓ヲ供與シ

(六) 同日前記選舉事務所ニ於テ前記淺川文平ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲シ即時同所ニ於テ同人ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金二十圓ヲ供與シ

(七) 同日前記選舉事務所ニ於テ前記須田眞澄ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲シ即時同所ニ於テ同人ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金三十圓ヲ供與シ

(八) 同日前記選舉事務所ニ於テ前記谷戸義雄ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲シ即時同所ニ於テ同人ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金三十圓ヲ供與シタルモノニシテ右金錢供與ヲ爲シタル所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人有井剛ノ判示所爲中金錢供與ヲ爲シタル點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ判示金錢供與ヲ受ケタル點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第四號ニ該當スルトコロ金錢供與ヲ受ケタル所爲及金錢供與ヲ爲シタル所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シ其ノ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮四月ニ處シ訴訟費用中刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ豫審ニ於ケル證人津金胤行ニ支給シタルモノハ被告人ニ負擔セシムヘキモノトス

次ニ被告人三井文雄ノ判示所爲中法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第六十條府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮七月ニ處シ尙刑法第二十一條ニ依リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入スヘク訴訟費用中豫審ニ於ケル證人長田正道、功力徳市、田中甫ニ支給シタルモノハ刑事訴訟法第二百三十八條第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ニ於テ原審相被告人堀内健雄ト連帶シテ負擔スキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人有井剛辯護人雨宮熊雄、西田米藏上意告趣書第一點被告人三井文雄辯護人雨宮熊雄、西田米藏上告趣意書第一點孰レモ一、刑事訴訟法第四八五條第七號ニ云フ被告件事ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シ

刑事訴訟法第四百八十五條第七號ニ所謂判事ノ職務ニ關スル犯罪 投票シタル被選舉人ノ氏名ニ對スル判事ノ訊問ト衆議院議員選舉法第一百十六條第二項ノ罪ノ成立 記録上判事ノ職務ニ關スル犯罪ノ存スルコト明白ナル場合ト再審ノ原由

トハ判事又ハ檢事カ其ノ職務執行ニ關シ或ハ其ノ職ヲ利用シ罪ヲ犯シタルヲ云フモノナリ換言セハ判事檢事タルノ地位ニ附隨シテ罪ヲ犯シタルモノニテ即一ノ瀆職行為ナリ判事又ハ檢事カ刑事訴訟法ニ基キ審問權行使ニ當リ罪ヲ犯シタルハ即職務ニ關スル一ノ瀆職罪タリ衆議院議員選舉法第一一六條第二項ノ罪ノ成立竝官吏ノ之ニ對スル態度ニ付テハ大正十四年八月十八日控訴院長竝檢事長合同會議ニ於テ判事又ハ檢事ハ何人ニ對シテモ其ノ者カ何人ニ投票セルカヲ訊問セサルコトト決議セリ司法省ハ刑事訴訟上ノ審問權行使ニ付テモ右決議ヲ援用シタリ故ニ判事檢事ハ其ノ取調ニ付取調ヲ受クル者カ既ニ投票セル候補者ノ名ヲ開示セル事實アル場合ニ於テ其ノ事實ヲ取調フルニ付テノミ被投票者ノ名ヲ審問スルハ格別未タ被取調者カ何人ニ投票セルカヲ開陳セサルニ先チ審問スルハ本條ノ違反タルヤ明ナリ豫審終結決定竝第一審及原審判決ノ基礎トナリタル本件ノ豫審ノ取調調書ハ其ノ取調ニ當リ豫審判事代理判事下尾榮カ第一審相被告人及豫審ノ證人ニ對シ被告人及證人等ハ縣會議員選舉ニ當リ何人ニ投票セルヤヲ訊問シ各其ノ投票セル人ヲ表示セシメタリ右訊問ハ豫審判事代理カ其ノ職務執行ニ當リ前記ノ罪ヲ犯シタルコト本件訴訟記録上寔ニ明ナリ然リト雖右犯罪ハ未タ確定判決ヲ得サルヲ以テ刑事訴訟法第四八五條第七號ニ基ク再審ノ請求原因タラス然レトモ同法第四八九條ニ云フ「確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證明シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得」ト規定セラレタルヲ以テ所謂「確定判決ヲ得ル能ハサル」ノ事由ニ該當スルモノト思料ス本件訴訟事件ニ付テハ第一、二審

裁判所竝檢事局ハ本件訴訟記録ヲ精査セル結果右犯罪事實ノ存スルコトヲ知リタルナルヘシ然ルニ何故カ檢事局ハ之カ訴追ヲ爲サス爲ニ右犯罪ニ對スル確定判決ヲ得ルコト能ハサルナリ故ニ右ノ事實ハ刑事訴訟法第四八九條ノ所謂確定判決ヲ得ルコト能ハサルニ該當スルモノト謂フヘシ從テ右ノ事實ハ同條ニ云フ再審ノ請求原因タリト解ス果シテ然ラハ刑事訴訟法第四一三條ニ「再審ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ニ該當スル事由アルトキ」ト規定セル場合ニ該當シ上告理由タルコト明ナリ本理由ニ對スル證據ハ本件訴訟記録中左ノ記載ヲ以テ證據トス且確定判決ヲ得ル能ハサル事實ハ檢事局ノ訴追ナカリシ事實ヲ以テ證據トス左記一、有井剛豫審調書中證人藤原長清ニ對スル昭和十年十二月五日ノ訊問調書第一〇七丁第六問ニ於テ問證人ハ誰ニ投票シタノカ答夫ハ三井テス二、淺川照鎮豫審調書中(イ)證人山田貞安ニ對スル昭和十年十一月二十七日ノ訊問調書第八〇丁第九問ニ於テ問オ前ハ誰ニ投票シタカ答私ハ三井ニ入レマシタ(ロ)證人伊藤嘉安ニ對スル昭和十年十一月二十七日ノ訊問調書第八五丁第十一問ニ於テ問オ前ハ勿論三井ニ投票シタロイネ答三井ニ入レマシタ(ハ)證人小林徳市ニ對スル昭和十年十一月三十日ノ訊問調書第九五丁第六問ニ於テ問オ前ハ勿論三井ニ入レタロイネ答ハイ入レマシタ三、由井賢一豫審調書中證人中島喜重ニ對スル昭和十年十一月三十日ノ訊問調書第一一丁第九問ニ於テ問オ前ハ勿論三井ニ投票シタロイネ答ハイ三井ニ入レマシタ四、淺川文平豫審調書中證人淺川藤二ニ對スル昭和十年十一月二十六日ノ訊問調書第六四丁第七問ニ於テ問オ前ハ勿論三井ニ投票

刑事訴訟法第四百八十五條第七號ニ所謂判事ノ職務ニ關スル犯罪 投票シタル被選舉人ノ氏名ニ對スル判事ノ訊問ト衆議院議員選舉法第十六條第二項ノ罪ノ成立ニ對シテ審問ノ職務ニ關スル犯罪ノ存スルコト明白ナル場合ト再審ノ理由

シタローネ答ハイ三井ニ投票致シマシタ五、須田眞澄豫審調書中證人中島潛ニ對スル昭和十年十一月二十六日ノ訊問調書第六二丁第八問ニ於テ問オ前ハ勿論三井ニ投票シタロウネ答勿論三井ニ入レマシタ六、被被告人谷戸義雄豫審調書中被告人谷戸義雄ニ對スル昭和十年十一月二十二日ノ訊問調書第六一丁第二十五問問城南養蠶實行組合員ハ全部三井ニ投票シタ模様カ答私ヲ始トシテ一票モ殘リナク三井ニ入レタ模様テスト云フニ在リ

【要旨第一】

仍テ按スルニ刑事訴訟法第四百八十五條第七號ニ所謂判事ノ職務ニ關スル犯罪トハ判事其ノ取扱ヒタル事件ニ關シ瀆職ノ行爲アルヲ云ヒ必スシモ其ノ取調ニ關シ惹起シタル汎テノ犯罪ヲ云フモノニ非ス例ヘハ判事事件ニ關シ賄賂ヲ收受シ或ハ取調ヲ爲スニ當リ暴行若ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルカ如キ之ニ屬ス蓋豫審終結決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事ニ付斯ノ如キ瀆職行爲アリタル場合ニハ訴訟當事者其ノ他ノ關係人ハ勿論一般世人ニ於テモ該事件ノ成立ニ關シテ疑惑ヲ挾ミ之ヲ基礎ト爲シタル審判ニ付其ノ正確ヲ疑フニ足ルヘキ理由ナシト云フヘカラス故ニ斯ノ如ク審判ニ付其ノ正確ヲ疑ハシムルニ足ルヘキ顯著ナル推測事由アル場合ニ於テハ須ク此等ノ疑惑ヲ除キ裁判ノ威信ヲ維持スルノ必要アリ是レ即此ノ場合ヲ再審ノ理由ノ一ト爲シタル所以ニシテ若シ夫レ敍上ノ必要ナク裁判ノ適正ニ毫末ノ影響ヲ及ホササルコト該犯罪ノ性質ニ徴シ明白ナル場合ニ於テハ縱令判事ノ職務上ノ事犯ナリトスルモ之ヲ以テ再審ノ理由ト爲スヘカラサルモノト解スルヲ相當トス然リ而シテ

【要旨第二】

一方衆議院議員選舉法第十六條第二項ニ於テハ官吏又ハ吏員カ選舉人ニ對シ其ノ投票セントシ又ハ投票シタル被選舉人ノ氏名ノ表示ヲ求ムルコトヲ犯罪トシテ處罰シ其ノ官吏ニ付何等ノ制限ヲ設ケサルヲ以テ判事カ其ノ擔當ニ係ル被告事件ノ取調ニ當リ被告人又ハ證人ニ對シ其ノ投票シタル被選舉人ノ何人ナルヤヲ訊問シ其ノ氏名ノ表示ヲ求メタルトキハ原則トシテ右選舉法第十六條第二項ノ犯罪ヲ構成スヘク唯被告人ノ投票シタル被選舉人ノ何人ナルヤカ當該公訴事實ノ内容ヲ爲シ從テ之カ取調ヲ絕對必要トスル場合ニ限り右犯罪ノ成立ヲ阻却スルニ過キスト解スルノ外ナシト雖同條カ官吏又ハ吏員カ選舉人ニ對シ其ノ投票セントシ又ハ投票シタル被選舉人ノ氏名ノ表示ヲ求ムルコトヲ犯罪トシテ處罰シタルハ是レ實ニ選舉ニ於ケル秘密投票ノ主義ヲ嚴守シ且無記名投票ノ效果ノ徹底ヲ確保セシメ以テ選舉ノ公正ヲ維持シ選舉干涉ヲ防止セントスル趣旨ノ外ニ出テサルモノナルニヨリ縱令判事ニ於テ其ノ擔當セル被告事件ニ付右選舉法違反ノ行爲ヲ惹起シタルトスルモ單ニ之ノミヲ以テ直ニ該事件ノ確定判決ニ付其ノ正確ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル推測事由存スルモノトハ云ヒ難キニヨリ所論判事ノ選舉法違反ノ行爲ハ其ノ性質上敍上再審ノ理由タル判事ノ職務ニ關スル犯罪中ニ包含セラレサルモノト解スルヲ妥當トス加之假ニ斯カル判事ノ違反行爲カ尙再審ノ理由タル判事ノ職務ニ關スル犯罪中ニ包含セラレヘキモノナリトノ所論解釋カ是認セラルルトスルモ豫審終結ニ關與シタル判事カ事件ノ取調ニ當リ被告人又ハ證人ニ對シ何人ニ投票シタルヤヲ訊問シ被告人又ハ證人カ其ノ投票シタル被

刑事訴訟法第四百八十五條第七號ニ所謂判事ノ職務ニ關スル犯罪 投票シタル被選舉人ノ氏名ニ對スル判事ノ訊問ト衆議院議員選舉法第十六條第二項ノ罪ノ成立 記録上判事ノ職務ニ關スル犯罪ノ存スルコト明白ナル場合ト再審ノ理由

【要旨第三】

選舉人ノ氏名ヲ陳述シタルコトカ豫審訊問調書ニ錄取セラレ記録上判事ニ右職務上ノ違反行爲アルコト明白ナル場合ニ於テハ公判裁判所判決ヲ爲ス前該犯罪事實ヲ認知シ從テ判決ヲ爲スニ當リ其ノ事實ヲ斟酌シ得ルヲ以テ斯ノ如キ犯罪ノ存在ハ縱令該犯罪ニ付確定判決ヲ得ルコト能ハサル場合ト雖刑事訴訟法第四百八十五條第七號但書ノ趣旨ニ徴シ之ヲ再審ノ原由ト爲シ得サルモノト解スルヲ正當トス今之ヲ本件ニ付査スルニ本件豫審終結決定ニ關與シタル判事下尾榮カ所論ノ如ク第一審相被告人タル谷戸義雄及所論各證人ヲ訊問シ夫々其ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ陳述セシメタルコト洵ニ所論ノ如クニシテ記録ニ徵スルモ右判事ノ行爲ハ固ヨリ違法ナリト雖前敍ノ理由ニ依リ該行爲ハ再審ノ原由タル判事ノ職務ニ關スル犯罪ニ該當セサルノミナラス假ニ然ラストスルモ右氏名ノ表示ヲ求メタル事實ハ所論各豫審訊問調書上孰レモ明白ニシテ原審裁判所カ原判決ヲ爲ス前右犯罪事實ヲ認知シ得タル場合ナルヲ以テ之亦前敍ノ理由ニ依リ之ヲ以テ再審ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ニ該ル事由アルモノト云フヲ得サルハ明ナリトス然レハ本件ヲ再審ノ請求ヲ爲シ得ヘキ刑事訴訟法第四百八十五條第七號第四百八十九條ニ規定スル場合ニ該ル事由アルモノト爲ス本論旨ハ之ヲ採容シ難ク論旨ハ孰レモ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事徳江治之助關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和十二年(九)第五九八號
同年六月八日第四刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 出口孝之助 辯護人 永田菊四郎

【第一審】 長崎地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

法定ノ選舉運動者ノ違反行爲ト無資格選舉運動

○判決要旨

法定ノ選舉運動者ノ違反行爲ハ單ニ當該罰條ヲ以テ處斷スレハ足リ他面之ヲ無資格選舉運動ナリトシテ更ニ同法第九十六條第一項第二百二十九條刑法第五十四條第一項前段ヲ適用處斷スヘキモノニ

法定ノ選舉運動者ノ違反行爲ト無資格選舉運動

非又

【参照】衆議院議員選舉法第九十六條第一項 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

同法第二百二十九條 第九十五條ノ二、第九十六條第一項、第九十八條若ハ第九十八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

刑法第五十四條第一項 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其ノ最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シテ被告人ヲ罰金八十圓ニ處シ若シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置ス訴訟費用中證人木戶清造ニ支給シタル分ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ被告人藤原繁太郎ハ長崎縣第二區ヨリ中立トシテ立候補シ同年一月二十七、八日頃之カ届出ヲ爲シタルモノニシテ被告人田尾喜久馬ハ其ノ選舉事務長ニ選任サレ同年二月一日其ノ届出ヲ了シタルモノ被告人河野勉同虎谷龍松同佐野與八郎同中村晋次郎同川端長四郎同樽本富士男同岩永得兵衛同林田

稻實同播本播徳同の野伊三郎同松本富太郎同松原保太郎同大坪吉太郎同宮脇太藏同出口孝之助ハ孰レモ右候補者ノ選舉委員トシ被告人藤原要四郎ハ同候補者ノ辯士トシテ夫々右候補者ノ爲選舉運動ニ從事シタルモノ被告人藤原吉松同川上竹作ハ孰レモ同候補者ノ法定ノ選舉運動者ニ非サリシモノナルトコロ

(中略)

第七 被告人出口孝之助ハ前記候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ同月十五日ヨリ同月十七日頃迄ノ間ニ前記獅子村道路上等ニ於テ同村選舉人川淵吉作、森崎善之助、木戶清造、村田吉作、鹽谷利作、村田茂作、松田甚五郎ノ七名ニ連續シテ個々ニ面接シ右候補者ノ爲メ投票シ吳レ度旨依頼シ以テ無資格選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ(前略)被告人出口孝之助ノ判示第七ノ所爲ハ一面ニ於テ前記選舉法第九十八條第二項第百二十九條ニ該當スルト同時ニ其ノ反面ニ於テ同法第九十六條第一項第百二十九條ニ該當シ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重シト認ムル前者ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ同被告人ヲ罰金八十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間同被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク(中略)控訴費用中證人木戶清造ニ支給シタル分ハ刑事訴訟法第二百三十七條ニ從ヒ被告人出口孝之助ヲシテ負擔セシムヘキモノトス(後略)

○主 文

原判決中被告人出口孝之助ニ關スル部分ヲ破毀ス
被告人出口孝之助ヲ罰金八十圓ニ處ス

法定ノ選舉運動者ノ違反行爲ト無資格選舉運動

右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間同被告人ヲ勞役場ニ留置ス
訴訟費用中證人木戸清造ニ支給シタル分ハ同被告人ノ負擔トス

○理由

被告人川上竹作、出口孝之助辯護人永田菊四郎上告趣意書第五點原判決ハ「被告人出口孝之助ハ前記候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ同月十五日ヨリ十七日頃迄ノ間前記獅子村道路上等ニ於テ同村選舉人川淵吉作……ノ七名ニ連續シテ個々ニ面接シ右候補者ノ爲投票シ吳レタキ旨依頼シ以テ無資格選舉運動ヲ爲シ」ト判示シタリ然レトモ孝之助ハ其ノ頃ハ正當ナル選舉委員タリシモノナリ然ラハ此ノ點ヲ無視シテ無資格運動ナリト斷シタル原判決ニハ法律ノ解釋ヲ誤リタルカ又ハ重大ナル事實ヲ誤認シタルカノ違法アルヲ免レスト謂フニ在リ

仍テ按スルニ被告人孝之助ノ犯罪事實トシテ原判決ノ認定スルトコロハ被告人孝之助ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ立候補シタル藤原繁太郎ノ選舉委員トシテ同候補者ノ爲選舉運動ニ從事シタルモノナルトコロ同候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ同月十五日ヨリ同月十七日頃迄ノ間ニ判示場所ニ於テ判示選舉人川淵吉作外六名ニ連續シテ個々ニ面接シ右候補者ノ爲投票シ吳レ度キ旨依頼シタリト謂フニ在リテ判示事實末段ニ「以テ無資格選舉運動ヲ爲シタルモノナリ」トアル文詞ハ畢竟前段認定ノ事實ニ對シ原審ノ爲シタル法律上ノ判斷ノ表示ニ過キサルモノト解スルヲ相當ト

【要旨】

スヘク而シテ右認定事實ハ之ニ對スル原判決舉示ノ證據ニ依リ之ヲ證明スルニ足り記録ニ徵スルモ右事實ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アルモノト謂フヲ得ス次ニ衆議院議員選舉法第九十六條第一項本文ノ規定ハ同項但書ノ場合ヲ除キ法定ノ資格ナキ選舉運動者ノ一切ノ選舉運動ヲ禁止スルコトヲ法意トシ法定選舉運動者ノ爲ス選舉運動ニ關スル直接規定ニ非サルカ故ニ若法定ノ選舉運動者カ同法ノ禁止規定ニ違反スル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ單ニ當該法規違反ノ罪ニ問擬スレハ足り其ノ違法行爲タルノ故ヲ以テ他面之ヲ無資格選舉運動ナリト解シ同法第九十六條第一項本文ノ違反罪ト想像上ノ二罪ヲ構成スルモノト論スルカ如キハ蓋失當ノ見解タルヲ免レス若夫レ法定選舉運動者カ無資格選舉運動者ノ違反行爲ニ共同加功シタル爲共犯トシテ之カ罪責ヲ負フカ如キ場合ハ自ラ其ノ法理ヲ異ニスルモノト謂フヘシ本件ニ於テ被告人孝之助ニ對スル原判決認定ノ事實ハ前段說示ノ如クニシテ要スルニ被告人孝之助カ選舉委員トシテ判示ノ如ク連續シテ選舉人ニ個々面接シタル事實ニ外ナラサルカ故ニ之ニ對シテハ衆議院議員選舉法第九十八條第二項第二百二十九條ヲ適用處斷スルヲ以テ足ルコト前段說明ニ照シ明白ナルニ拘ラス同行爲ニ對シ更ニ同法第九十六條第一項第二百二十九條ヲ適用シ刑法第五十四條第十條ニ從ヒ處斷シタル原判決ハ其ノ擬律ニ錯誤アルモノト謂フヘク本論旨ハ此ノ點ニ於テ其ノ理由アリ被告人孝之助ニ對スル原判決ハ破毀ヲ免レス而シテ右違法ハ事實ノ確定ニ影響ヲ及ササルヲ以テ直ニ本院ニ於テ判決ヲ爲スヘキモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ

省略ス)

仍テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事村上常太郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十二年(れ)第三三四號 一部棄却)
同年六月九日第五刑事部判決 一部破毀自判)

【上告人】 被告人 寺島傳吉

辯護人 〔工藤精二 山並武治 外二名 中光男〕

【第一審】 大津地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

勞役場留置言渡缺如ノ違法

○判決要旨

本刑タル罰金ニ對シテ未決勾留日數算入ノ言渡アリタルモ其ノ算

入ノ結果尙執行スヘキ罰金額存スルニ拘ラス勞役場留置ノ言渡ヲ
爲ササルハ應サニ適用スヘキ法律ヲ適用セサル違法アルモノトス

【參照】 刑法第二十一條 未決勾留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ
得

同法第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役
場ニ留置ス

(中略)

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハ
サル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人寺島傳吉ヲ禁錮四月ニ被告人藤本乙吉ヲ懲
役三月ニ被告人藤本林太郎ヲ罰金二百圓ニ處ス被告人寺島傳吉、藤本乙吉ニ對シ各未決勾留日數中六
十日ヲ各本刑ニ算入ス被告人藤本林太郎ニ對シ未決勾留日數中四十日ヲ一日ヲ金二圓ニ折算シテ右本
刑ニ算入ス被告人藤本乙吉ヨリ金二十圓ヲ追徴ス訴訟費用中豫審ニ於ケル證人宮本等、山中洋太郎、
大橋昇ニ各支給シタル分ハ被告人寺島傳吉ノ單獨負擔トシ證人田中淺太郎、平塚さゆ、和田ミヨ、谷
澤三之助並第一審證人大橋徳松、疋田由次郎ニ各支給シタル分ハ被告人寺島傳吉第二審相被告人北川

勞役場留置言渡缺如ノ違法

信三、正田庄次郎、寺村駒次郎、三橋直次、谷居菅夫、寺村民雄、寺島章三、寺村清彌、日夏嘉三及第一審相被告人成宮宇之吉ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人寺島傳吉ハ昭和十一年九月二十三日施行ノ滋賀縣會議員選舉ニ際シ同年八月上旬頃ヨリ立候補ノ意思ヲ有シ同年九月三日其ノ旨ノ届出ヲ爲シ選舉ノ結果當選シタルモノ原審相被告人日夏勘一ハ同月三日以降同候補者ノ選舉事務長被告人寺村民雄ハ同日以降同選舉委員ト爲リ其ノ以前ハ法定ノ選舉運動者ニアラサリシモノ(何レモ選舉人)被告人正田庄次郎ハ同縣犬上郡日夏村助役ニシテ且同人竝被告人北川信三、寺村駒次郎、寺村清彌、三橋直次、谷居菅夫、寺島章三、日夏嘉三、藤本乙吉、藤本林太郎原審相被告人成宮宇之吉ハ何レモ同選舉ノ選舉人ナリシモ右候補者ノ法定選舉運動者ニアラサリシモノナルトコロ

第一 被告人寺島傳吉ハ自己ニ當選ヲ得ル目的ヲ以テ

(一) 同年八月十一日同縣同郡彦根町大字金龜料亭樂々園ニ於テ被告人北川信三、正田庄次郎、寺村駒次郎、三橋直次、谷居菅夫、寺村民雄、寺島章三、寺村清彌、日夏嘉三及原審相被告人成宮宇之吉ニ對シ右選舉ニ立候補ノ曉ハ自己ノ爲投票及選舉運動ヲ爲シ與レ度キ旨請託ノ趣旨ノ下ニ同時ニ藝妓ヲ聘シ酒食ヲ供シ一人前金四圓二十四錢餘相當ノ饗應ヲ爲シ同時ニ立候補届出前ニ於ケル選舉運動ヲ爲シ

(二) 同年九月一、二日頃同縣同郡日夏村役場ニ於テ選舉人タル北川信三、正田庄次郎、寺村駒次郎、三橋直次、谷居菅夫、寺村清彌、寺村民雄原審相被告人日夏勘一、成宮宇之吉等ニ對シ立候補ノ決意ヲ述ヘテ立候補後ニ於ケル援助ヲ求ムルト同時ニ同人等ト共ニ豫メ自己ノ爲原審相被告人日夏勘一ニ對シテハ選舉事務長ニ寺村民雄ニ對シテハ選舉委員ニ夫々就任方ヲ懇願シ應諾セシメテ選舉運動ヲ委任スル等種々選舉對策ヲ協議決定シ以テ立候補届出前ニ於ケル選舉運動ヲ爲シ

(三) 同年同月十四日其ノ屑書居宅ニ於テ被告人藤本林太郎ニ對シ當選ノ上ハ同人ノ屬スル同縣同郡芹谷村大字河内字安原ヨリ字權現谷ニ至ル同村經營林道開設工事ニ關シ縣及犬上郡町村營林組合ヨリ補助金ノ下附ヲ受ケ得ル様斡旋盡力スヘキニ付自己ノ爲ニ投票並選舉運動ヲ爲シ與レ度キ旨申向ケテ同村同大字部落民ニ對スル特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導シ

(四) 原審相被告人伊藤平太郎及日夏勘一ト共謀ノ上(平太郎及勘一兩名ハ被告人傳吉ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ)被告人藤本乙吉ニ對シ投票及選舉運動ヲ請託スル趣旨ノ下ニ金員ヲ供與センコトヲ企テ同年九月十二日頃前記自宅ニ於テ角田兼次郎ノ手ヲ經テ金二十圓ヲ右乙吉ニ贈與シ以テ其ノ供與ヲ遂ケ

第二 被告人藤本乙吉ハ

(一) 同年九月十二日頃被告人寺島傳吉方ニ於テ被告人及日夏勘一等カ前記第一ノ(四)記載ノ趣旨ノ下ニ贈與セルモノナルコトノ情ヲ知りナカラ同人等ヨリ角田兼次郎ノ手ヲ經テ金二十圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 前記候補者寺島傳吉ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ

(イ) 同月十三日頃屑書居村大字河内藤井音吉方ニ於テ選舉人タル同人及同藤本由衛ニ

(ロ) 同月十五、六日頃同村大字靈仙垣立外次郎方ニ於テ選舉人タル同人ニ

(ハ) 同日頃屑書居宅ニ於テ選舉人藤本久太郎ニ

(三) 同月十六、七日頃同村大字河内藤本忠彌方ニ於テ選舉人タル同人ニ對シ順次ニ右傳吉ノ爲投票ヲ依頼シ以テ連續シテ個々ノ同選舉人ニ面接シ同時ニ無資格選舉運動ヲ爲シ

第三 被告人藤本林太郎ハ

(一) 同年九月十四日前記寺島傳吉居宅ニ於テ同人ヨリ右第一ノ(三)記載ノ如ク請託誘導セララルヤ之ヲ應諾シ

勞役場留置言渡缺如ノ違法

(二) 右候補者寺島傳吉ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ

(イ) 同年同月八日頃同縣同郡多賀村大字多賀小林利一郎方ニ於テ選舉人タル同人ニ

(ロ) 同月十五、六日頃同大字川南儀太郎方ニ於テ選舉人タル同人ニ

對シ順次ニ右傳吉ノ爲投票ヲ依頼シテ連續シテ個々ニ同選舉人ニ面接シ同時ニ無資格選舉運動ヲ爲シ

(中略)

タルモノナリ

而シテ被告人寺島傳吉ノ判示第一ノ(一)(三)及(四)ノ變應接待、利益誘導、金錢供與ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノナリ

法律ニ照スニ被告人寺島傳吉ノ判示所爲中第一ノ(一)ノ變應接待ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第一號ニ第一ノ(一)及(二)ノ立候補前ノ選舉運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條右選舉法第九十五條ノ二第六十七條第二百二十九條ニ第一ノ(三)ノ利益誘導ノ點ハ府縣制第四十條右選舉法第一百二十二條第一項第二號ニ第一ノ(四)ノ金錢供與ノ點ハ刑法第六十條府縣制第四十條右選舉法第一百二十二條第一項第一號ニ該當スルトコロ右變應接待ト立候補前ノ選舉運動トハ一行爲ニ罪名ニ觸レ且變應接待ト利益誘導及金錢供與トハ連續犯ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第五十五條第十條ヲ同時ニ適用シ結局最モ重キ金錢供與罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮四月ニ處シ被告人藤本乙吉ノ判示所爲中第二ノ(一)ノ金錢供與ヲ受ケタル點ハ府縣制第四十條右選舉法第一百二十二條第一項第四號ニ第二ノ(二)ノ個々面接ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條右選舉法第九十八條第一項第九十九條第二項ニ同無資格選舉運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條及選舉法第一百二十九條第九十六條第一項ニ該當スルトコロ個々面接ト無資格選舉運動トハ一行爲ニ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第九條ニ該當スルトコロ右個々面接ト無資格選舉運動トハ一行爲ニ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十

條ニヨリ犯情重シト認ムル個々面接罪ノ刑ニ從ヒ之ト右金錢供與ヲ受ケタル罪トハ刑法第四十五條ノ前段ノ併合罪ナルヲ以テ前者ニ付テハ禁錮刑ヲ後者ニ付テハ懲役刑ヲ選擇シ同法第四十七條主文及但書第十條ニヨリ重キ後者(金錢供與ヲ受ケタル罪)ノ刑ニ法定加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月ニ處シ被告人藤本林太郎ノ判示所爲中第三ノ(一)ノ利益誘導ニ應シタル點ハ府縣制第四十條右選舉法第一百二十二條第一項第四號ニ同(二)ノ個々面接ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條右選舉法第一百二十九條第九十八條第二項ニ同無資格選舉運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條及選舉法第一百二十九條第九十六條第一項ニ該當スルトコロ個々面接ト無資格選舉運動トハ一行爲ニ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニヨリ犯情重シト認ムル個々面接ノ刑ニ從ヒ之ト右利益誘導ニ應シタル罪トハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ雙方罰金刑ヲ選擇シタル上同第四十八條第二項ニヨリ其ノ罰金額ノ範圍内ニ於テ同被告人ヲ罰金二百圓ニ處シ(中略)刑法第二十一條ニヨリ被告人等ニ對シ主文第二項掲記ノ如ク夫々未決勾留日數ノ通算ヲ爲シ(中略)被告人藤本乙吉カ判示第二ノ(一)ノ犯行ニヨリ收受シタル金二十圓(證第二號一一部)ハ同被告人ニ於テ自己ノ所持セル他ノ金錢ト混同シ判別不能ナルヲ以テ之ヲ沒收スルコト能ハサルカ故ニ同法條ニヨリ同被告人ヨリ其ノ價額金二十圓ヲ追徵スヘク訴訟費用ノ負擔ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第二百三十八條ヲ適用シ主文第四項掲記ノ如ク之ヲ定メ(下略)

○主 文

公訴ニ關スル被告人傳吉及乙吉ノ各上告竝當選無效附帶訴訟ニ關スル上告人傳吉ノ上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

公訴ニ關スル原判決中被告人林太郎ニ關スル部分ハ之ヲ破毀ス

勞役場留置言渡缺如ノ違法

被告人林太郎ヲ罰金二百圓ニ處ス

但被告人林太郎ノ未決勾留日數中四十日ヲ其ノ一日ヲ金二圓ニ換算シテ右本刑ニ算入ス

○理由

各辯護人ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス

但被告人林太郎ノ上告ニ付刑事訴訟法第四百三十四條第二項ニ依リ職權ヲ以テ法令適用ノ當否ヲ調査スルニ原判決ハ被告人林太郎ヲ罰金二百圓ニ處シ同被告人ノ未決勾留日數中四十日ヲ其ノ一日ヲ金二圓ニ換算シテ右罰金ニ算入スル旨ノ言渡ヲ爲シタルノミニテ罰金完納不納ノ場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ定メテ之ヲ言渡スコトヲ爲サス然レトモ右未決勾留日數算入ノ言渡ニ依リ右罰金額中納付アリタルモノト看做サルモノハ僅ニ八十圓ニ過キスシテ該被告人ヲシテ納付セシムヘキ金額百二十圓殘存スルコト明白ナルヲ以テ原審ニ於テハ須ラク刑法第十八條第一項第四項ニ從ヒ罰金完納不能ノ場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ定メテ之ヲ言渡スコトヲ要スルヤ勿論ナリトス原審ノ措置玆ニ出テサリシハ畢竟應サニ適用スヘキ法令ヲ適用セサリシモノニシテ此ノ點ニ於テ被告人林太郎ノ上告ハ結局其ノ理由アルニ歸スルモノトス

以上説明ノ如クナルヲ以テ公訴ニ關スル被告人傳吉及乙吉ノ上告ハ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ公訴附帶ノ當選無效訴訟ニ關スル上告人傳吉ノ上告ハ府縣制第三十四條ノ二第三項第四項衆議院議員

【要旨】

選舉法第四百四十一條ノ二刑事訴訟法第五百七十七條第四百四十六條ニ則リ孰レモ之ヲ棄却スヘク被告人林太郎ニ對シテハ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ公訴ニ關スル原判決中同被告人ニ關スル部分ヲ破毀シ原審認定ノ事實ニ基キ更ニ本院ニ於テ判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ原審認定ニ係ル被告人林太郎ノ所爲ヲ法律ニ照スニ原判示第三ノ(一)利益誘導ニ應シタル所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第四號ニ該當スルヲ以テ同第一百二十二條第一項所定刑中適當ト認ムル罰金刑ヲ選擇シ原判示第三ノ(二)ノ中個々面接ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十八條第二項第二百二十九條ニ無資格選舉運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百二十九條ニ該當スル處右個々面接ト無資格運動トハ一行爲ニ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ犯情重シト認ムル個々面接罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中適當ト認ムル罰金刑ヲ選擇シ右ハ刑法第四十五條前段ニ依リ併合罪ナルヲ以テ同法第四十八條第二項ノ制限内ニ於テ被告人ヲ罰金二百圓ニ處シ同法第二十一條ニ依リ未決勾留日數中四十日ヲ其ノ一日ヲ金二圓ニ換算シテ右本刑ニ算入スヘキモノトス尙同法第十八條第一項第四項ニ從ヒ右罰金完納不能ノ場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ定メテ之ヲ言渡スヘキモノナルモ其ノ言渡ヲ爲ストキハ原判決ヲ被告人ノ不利益ニ變更スル結果トナルヲ以テ被告人ノミヨリノ上告ノ申立アリタル本件ニ於テハ其ノ言渡ヲ爲スニ由無キモノトス

勞役場留置言渡缺如ノ違法

仍テ主文ノ如ク判決ス
檢事有安堅三關與

○鍼術灸術營業取締規則違反被告事件(昭和十二年(九)第六三六號
同年六月九日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 小林庄吉 辯護人 辻 岡 尙

【第一審】 福井區裁判所 【第二審】 福井地方裁判所

○判示事項

鍼灸師ノ經歷及技能ノ廣告

○判決要旨

鍼灸師力東京鍼灸學會會員福井鍼灸師會會員ナル文字ヲ掲載セル
廣告ヲ爲ストキハ鍼術灸術營業取締規則第六條ニ違反スルモノト

ス

【參照】 鍼術灸術營業取締規則第六條 營業者ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス流派
名又ハ卒業シタル學校、講習所ノ名稱若ハ修業ノ證明ヲ與ヘタル教師ノ氏名ヲ除ク
外業務上其ノ技能、施術方法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス
同法第十二條 免許鑑札ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ若ハ停止中營業ヲ爲シタル者又ハ
第六條、第七條ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト
能ハサルトキハ罰金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス押收ニ係ル證第一號第二號
ノ印刷物ハ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ鍼術灸術業者ナル處昭和十一年十一月十七日被告人ハ東京鍼灸學會會員福井鍼灸師會會員ナル旨ヲ記載セル
印刷物(證第一號第二號)二百數枚ヲ福井縣丹生郡越廼村蒲生區内ニ配付シ以テ自己ノ經歷ニ關スル廣告ヲ爲シタル
モノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ鍼術灸術營業取締規則第六條ニ違背スルモノナルヲ以テ同法第十二條ニ則リ其ノ所定罰
金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ金一圓ヲ一
日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク押收ニ係ル證第一號第二號ノ印刷物ハ本件犯行ノ供用物件ニシテ犯
人以外ノモノニ屬セサルヲ以テ刑法第十九條第一項第二號第二項ニ基キ之ヲ沒收スヘキモノトス

鍼灸師ノ經歷及技能ノ廣告

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人辻岡尙上告趣意書第二點原裁判所ハ又被告人ノ頒布ノ廣告用印刷物ニ「東京鍼灸學會會員福井鍼灸師會會員」ナル文字ヲ掲載セルヲ反則ナリト爲セトモ之亦不當ナリ其ノ「東京鍼灸學會會員福井鍼灸師會會員」ナル文字ハ被告人ノ現在ノ位置ヲ表ハセルニ過キスシテ經歷ヲ表ハセルモノニアラス尤モ斯ル文字ハ被告人カ曾テ東京鍼灸學會又ハ福井鍼灸師會ニ加入シ今猶其ノ會員タル地位ニ在ルコトヲ表ハシ經歷ニ關係ナキニアラサレトモ取締規則ニ謂フトコロノ經歷中ニ斯ル事項ヲ含マサルコトハ常識上當然ナリ若シ夫レ斯ル文字ヲ廣告ニ掲クルヲ禁止スルトキハ病院ノ廣告ニ院長何某ト掲載スルカ如キモ之ヲ違法ト爲ササルヘカラス何トナレハ院長何某ト掲載スルトキハ當該醫師カ曾テ其ノ病院ノ院長ト爲リ今猶其ノ地位ニ在ルコトヲ示シ經歷ニ關スル事項ヲ表ハスモノト爲ササルヘカラスレハナリ而カモ斯クノ如キ掲載ヲ以テ經歷ニ關スル事項ヲ表ハスモノトシテ違法視シタルノ例ナシ然ラハ即原裁判所カ被告人頒布ノ廣告用印刷物ニ「東京鍼灸學會會員福井鍼灸師會會員」ナル文字ヲ掲載セルヲ反則ナリトシタルハ全ク失當ニシテ原判決ハ違法ノ裁判タルヲ免レスト信スト云フニ在レトモ原判示ニ依レハ被告人ハ鍼術灸術業者ナル處昭和十一年十一月十七日被告人ハ東京鍼灸學會會員福井

【要旨】

鍼灸師會會員ナル旨ヲ記載セル印刷物二百數枚ヲ福井縣丹生郡越 村蒲生區内ニ配付シ以テ自己ノ經歷ニ關スル廣告ヲ爲シタルモノナリト云フニ在リテ右東京鍼灸學會會員福井鍼灸師會會員ナル文字ヲ掲載セル廣告ハ被告人ノ經歷ニ關係ヲ有スルノミナラス單ニ鍼灸師ト云フヨリモ右ノ如ク會員ナル旨ヲ掲クルトキハ他ノ鍼灸師ニ比シ自己ノ技能ノ優秀ナルヲ誇稱セルモノト云フヲ得ヘク斯ル廣告ヲ爲シタルトキハ鍼術灸術營業取締規則第六條ニ違反スルモノトス蓋斯ル廣告ハ世人ヲシテ誇稱ヲ信シテ技能ニ關スル評價ヲ誤ラシムル結果ヲ招來スルノミナラス同規則ハ鍼灸師ニ對スル行政上ノ取締規定ナレハ取締ノ趣旨ニ適合スル解釋ヲ爲スヲ妥當トスレハナリ故ニ原判決ニ於テ敍上ノ事實ニ對シ鍼術灸術營業取締規則第六條第十二條ヲ適用シテ處斷シタルハ正當ニシテ所論ノ如ク失當ノモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事有安堅三關與

○銃砲火藥類取締法施行規則違反被告事件

(昭和十二年(九)第四九四號
同年六月十一日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 藤原 刑由 辯護人 森 川 榮

【第一審】 富岡區裁判所 【第二審】 德島地方裁判所

○判示事項

銃砲火藥類取締法施行規則第二十七條ノ法意——同條ニ所謂貯藏ノ意義

○判決要旨

一 銃砲火藥類取締法施行規則第二十七條ハ同條ニ明示スル例外ヲ除キ火藥類ハ法定ノ貯藏所以外ノ場所ニハ一切之ヲ貯藏スルコトヲ禁シタル趣旨ノ規定ナリ【要旨第一】

二 同條ニ所謂貯藏トハ單ニ藏置ト謂フノ義ニシテ其ノ目的又ハ期間ノ長短ノ如キハ敢テ之ヲ問ハサル趣旨ナリト解スヘキモノトス【要旨第二】

【参照】 銃砲火藥類取締法施行規則第二十七條 火藥類ハ第十八條各號ノ一ニ該當ス

ルモノ及左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外火藥庫又ハ倉庫以外ノ場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得ス

- 一 土工其ノ他一時ノ事業ニ要スル火藥類ヲ其ノ事業中假貯藏所ニ貯藏スル場合
- 二 一月以内ニ完了スヘキ土工其ノ他ノ事業ニ要スル火藥類ニシテ第十七條各號ノ一ニ該當スルモノヲ其ノ事業中十日以内ヲ限リ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ其ノ指定シタル安全ノ場所ニ貯藏スル場合

三 火藥ヲ裝填セサル雷管附藥莖ヲ完全ナル場所ニ貯藏スル場合

同法第四十五條 第七條、第八條第二項、第十條第一項、第十三條、第十四條、第十五條ノ二第一項、第二十二條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第三十一條、第三十二條、第三十六條、第三十七條第一項、第三十八條、第四十二條及第四十三條ノ規定ニ違反シタル者第三十三條ノ規定ニ違反シ又ハ本令ニ依ル許可若ハ指定ノ範圍ヲ超エテ火藥類ヲ貯藏シタル者並本令ニ基キテ發スル内務大臣ノ命令ノ規定ニ適合セサル火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ牟岐線第五區鐵道敷設工事ノ現場主任トシテ該工事ノ爲火藥類ノ讓受及使用ノ許可ヲ受ケ居ルモノナル處

銃砲火藥類取締法施行規則第二十七條ノ法意 同條ニ所謂貯藏ノ意義

第一 右工事ノ從業者松下盛一ハ昭和十一年六月十一日朝ヨリ翌十二日午後五時頃迄ノ間徳島縣海部郡三岐田町田井
墜道附近ノ小屋内木箱ニダイナマイト百七十三本乃至四十四本工業用雷管約五十個ヲ容置シ

第二 同工事ノ從業者浦田種三郎ハ前記期間内同郡同町木岐墜道附近ノ小屋内木箱ニダイナマイト七十二本乃至十四
本工業用雷管等ヲ容置シ

以テ何レモ火藥類ヲ法定ノ火藥類貯藏所以外ノ場所ニ貯藏シタルモノナリ

法律ニ照スニ判示第一第二ノ各事實ハ銃砲火藥類取締法施行規則第四十五條第二十七條銃砲火藥類取締法第二十一條
第二十二條ニ各該當スルトコロ右ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十八條第二項ニ則リ其ノ罰金ノ
合算額以下ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處シ同法第十八條ニ從ヒ右罰金ヲ完納スルト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日
ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部被告人ヲシテ
負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人森川榮上告趣意書第一點原判決ハ事實ノ認定トシテ其ノ理由ニ被告人ハ牟岐線第五區鐵道敷
設工事ノ現場主任トシテ該工事ノ爲火藥類ノ讓受及使用ノ許可ヲ受ケ居ルモノナルトコロ第一右工事
ノ從業者松下盛一ハ昭和十一年六月十一日朝ヨリ翌十二日午後五時迄ノ間徳島縣海部郡三岐田町田井
墜道附近ノ小屋内木箱ニダイナマイト百七十三本乃至四十四本工事用雷管約五十個ヲ容置シ第二同工

事ノ從業者浦田種三郎ハ前記期間内同郡同町木岐墜道附近ノ小屋内木箱ニダイナマイト七十二本乃至
十四本工業用雷管等ヲ容置シ以テ何レモ火藥類ヲ法定ノ火藥類貯藏所以外ノ場所ニ貯藏シタルモノナ
リト記載シ其ノ内容ノ詳細ヲ窮メサルヲ以テ事案ノ態様ニ付其ノ意何邊ニアルカヲ窺フニ苦シム然レ
トモ本件記録ノ全般ヲ綜合スルニ被告人ハ藤原組ノ主任トシテ牟岐線第五區鐵道敷設工事ニ從事シ右
工事遂行上必要ナル火藥類ノ使用ニ就テハ爆藥工業用雷管緩燃導火線ヲ使用期間ハ昭和十一年三月一
日ヨリ昭和十三年二月二十八日迄ノ間毎日日出後日没前迄(但墜道内ハ晝夜共)トシ使用ノ場所ヲ鐵
道牟岐線第四區終點海部郡三岐田町西由岐ヨリ田井木岐ヲ經テ同郡赤河内村大字田井ニ至ル鐵道敷
設用地内ト制定シテ其ノ許可ヲ所管官署ヨリ適法ニ得タルモノナルコト明カナリ尙使用方法ニ付テハ
其ノ許可書ニ於テ明記ナシト雖本件記録添附ノ火藥類使用許可申請書ト題スル昭和十年十二月九日附
被告人藤原刑由ヨリ徳島縣牟岐警察署長岡本美春宛ノ申請書類竝第二審ニ於ケル證人佐藤實一ノ證言
等ニヨリ「火藥類使用方法及危害豫防火藥類假貯藏所火藥係員ハ毎日一定ノ時刻ニ各使用現場主任ノ
發行セル請求傳票ニ依リ現品ヲ各現場ノ火藥係員ニ直接配給シ出納簿ニ收支ヲ明記シ常ニ帳簿ト現在數
ト合致セシム使用各現場ニハ場所ヲ定メ堅固ナル錠前ヲ附シタル收容匣ヲ備附ケ他ニ火藥類ノ留置ヲ
禁シ補助簿ニ假貯藏所ヨリノ受入及消費高ヲ明記シ現場ニ於ケル收支ヲ明確ニス火藥類ハ現場作業ノ
狀況ニ應シ必要ノ數量ヲ日々出庫シ使用セシムルモノトス爆破ハ定ムル所ノ係員ヲシテ施行セシムル

外何人モ參與セシメス爆破ノ裝置ハ岩石ニ穿孔ヲシテ之ヲ清拭シ爆藥一本宛ヲ木製ノ込棒ヲ以テ徐ニ其ノ孔ノ所要量ニ應シ填充シ口許ノ藥包ハ雷管ニ導火線ヲ附シタルモノヲ挿入シ柔軟ナル藁又ハ紙屑等ヲ入レ其ノ上ヲ乾キタル土ヲ以テ填塞ス但シ破碎スヘキ岩質ニ依リ中部又ハ底部ノ藥包内ニ雷管ヲ挿入スルコトアルヘシ而シテ發破準備終ラハ振鈴ヲ以テ之ヲ報シ從業員ヲ安全地域ニ退去セシメ安全ヲ確認シタル後點火ス安全地域ト危險地域ノ境界ニハ見易キ位置ニ危險標ヲ爲シ一般ニ注意シ爆破前ニハ赤旗ヲ持テ警戒人ヲ適宜ノ位置ニ配シ危險區域内ニ立入ルヲ禁止ス岩片ノ飛散スル虞アル場合ハ濡蕙ノ類ヲ以テ被爆破物ヲ覆ヒ其ノ飛散ヲ防止ス火藥類貯藏方法曩ニ出願ノ火藥類假貯藏所竣工後收容量ノ範圍内ニ於テ前記數量ヲ分割讓受ケ火藥類貯藏ニ關スル法規ニ從ヒ格納スルモノトス」タルコトヲ窺ヒ知ルニ充分ナリ依是見之被告人ハ從業者松下盛一、浦田種三郎等ヲシテ被告人カ認許ヲ得タル火藥類假貯藏所ニ於テ一定多量ノ火藥類ヲ貯藏シ置キ火藥類假貯藏所係員小野榮ハ毎日一定ノ時刻ニ各使用現場主任ノ發行セル請求傳票ニ依リ現品ヲ各現場ノ火藥係ヘ直接配給シ出納簿ニ收支ヲ明記シ常ニ帳簿ト現在數ト合致セシムルコトヲ要シ火藥類假貯藏所ノ戸扉ノ開鎖並各現場ノ火藥係ニ對スル配給ハ毎日出後日没前ナルコトヲ要スルモノニシテ而シテ各現場ノ火藥係ハ火藥類假貯藏所係員小野榮ヨリ毎日出後日没前迄ノ間ニ於テ一定ノ時刻ニ一日間ノ消費見積高ヲ超過セサル數量ノ火藥類ノ配給ヲ受ケ其ノ火藥ハ各使用現場ニ於テ場所ヲ定メ堅固ナル錠前ヲ附シタル收容匣ヲ備附ケ他

ノ火藥類ノ留置ヲ禁シ補助簿ニ假貯藏所ヨリ受入及消費高ヲ明記シ現場ニ於ケル收支ヲ明確ニスレハ足ルモノナリ且又火藥類ハ現場作業ノ狀況ニ應シ火藥類假貯藏所開扉都度一日間ノ消費見積高ヲ超過セサル必要ノ數量ヲ出庫セシメ右收容匣ニ他ノ火藥類ノ混同留置ナキ様ニ保管容置シ其ノ日ノ工事ノ進行ニ連レ順次必要ニ應シテ之ヲ使用シ得ルモノナリト爲ササルヘカラス若シ然ラストセハ工事施行ノ際ニ於テ火藥類ノ使用消費ヲ爲サントスルトキハ必スシモ毎日一定ノ時刻ニ非ス且墜道内ニ於ケル工事施行並火藥ノ使用消費ノ時ハ晝夜ニ互リ之ヲ認容セラレアルモノナレハ必スシモ日出後日没前ニ於ケル一定ノ時刻タリト云フヲ得ス而シテ火藥類使用消費ヲ要スヘキ時刻カ火藥類假貯藏所係員ヨリ配給ヲ受ケタルト同時ニ非サル工事施行現場ニ於テハ其ノ一定ノ時刻ニ一定ノ配給ヲ受ケ得ル時刻ノ到來スル迄其ノ工事ノ就勞ヲ中止シ各種就勞業員ハ拱手傍觀スルノ外無カルヘシ如是業態ハ到底斯業發達ノ今日ニ於テ許スヘカラサル社會通念ニシテ是銃砲火藥類取締法第十四條明治四十四年十月十三日德島縣令第八十二號銃砲火藥類取締法令執行規程第二十六條ノ規定ノアル所以ナリ同法令ニ依レハ一定ノ帳簿ヲ備ヘ火藥類ノ讓受高及毎日消費高ヲ記載シ其ノ收支ヲ明ニスルコト從業者ヲシテ毎日消費殘ノ火藥ハ之ヲ還付セシムルコト（即使用各現場ニ備アル火藥類ヲ保管容置シタル收容匣ヨリ火藥類假貯藏所ヘ還納スルコト）トアリテ法令モ亦工事施行ニ際シテ火藥ノ使用ヲ爲サントスルトキハ毎日一定ノ時刻ニ其ノ日ノ消費見積高ヲ超過セサル數量ヲ火藥假貯藏所ヨリ係員カ配給セラレタル火藥

類ヲ使用各現場ニ於テ場所ヲ定メ堅固ナル錠前ヲ付シ收容匣ニ備ヘ他ノ火藥類ノ留置ヲ禁シ補助簿ニ火藥類假貯藏所ヨリ受入レ及消費高ヲ明記シ現場ニ於ケル收支ヲ明確ニシ若シ其ノ日ニ於ケル消費殘ノ火藥アルトキハ之ヲ火藥類假貯藏所ニ還納スレハ足ル從テ初メ火藥類假貯藏所ヨリ配給ヲ受ケタルトキヨリ之ヲ消費又ハ還納スル迄ノ間ハ前記收容匣ニ其ノ期間ノ(時間的)容置スルコトヲ認容シタル規定ナルコトハ明瞭ナリ從テ被告ノ從業員松下盛一ハ昭和十一年六月十一日朝ヨリ翌十二日午後五時迄ノ間徳島縣海部郡三岐田町田井墜道附近ノ小屋内ニ其ノ日ノ消費見積高ヲ超過セサル數量ノ火藥(ダイナマイト百七十三本乃至四十四本工業用雷管約五十個)ヲ火藥類假貯藏所係小野榮ヨリ配給ヲ受ケタルモノヲ堅固ナル錠前ヲ附シタル收容匣ニ備附ケ他ノ火藥類ノ留置ヲ禁シ補助簿ニ火藥類假貯藏所ヨリ受入及消費高ヲ明記シ現場ニ於ケル收支ヲ明確ニ爲シ之ヲ消費スル迄ノ期間前記收容匣ニ容置シ保管シタリ又從業員浦田種三郎モ亦前記期間内同郡同町木岐墜道附近ノ小屋内ニ前同様ノ方法ニ依リダイナマイト七十二本乃至十四本工業用雷管若干ヲ容置シ居タルモノナリ而シテ如是行爲ハ銃砲火藥類取締法第十四條及明治四十四年十月十三日徳島縣令第八十二號銃砲火藥類取締法執行規程第二十六條ニ依リ許容セラレタル所ニシテ法定ノ方法ニ依ル容置保管方法ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ原判決ハ此等ノ規定ノ解釋ヲ誤リ被告ニ對シ罪トナラサル事實ニ對シ法規ノ解釋ヲ誤リ有罪ノ判決ヲ爲シタルモノナルヲ以テ之カ破毀ハ免レサルモノナリト云ヒ」同第二點假ニ吾銃砲火藥類取締法規カ

同規則第十八條列記ノ火藥以外ノ火藥ハ常ニ凡テノ場合ニ於テ火藥庫、倉庫又ハ火藥類假貯藏所以外ノ場所ニ於テ容置スルコトヲ許ササルモノナリトスルモ凡ソ本案ノ如ク晝夜兼行シテ鐵道敷設工事ニ從事シ晝夜兼行シテ火藥類ノ使用消費ノ必要アル場合ニ於テ被告人ハ昭和十一年三月一日附所管署ノ許可ヲ受ケ使用ノ期間及日時ヲ昭和十一年三月一日ヨリ昭和十三年二月二十八日迄毎日日出後日没前「但墜道内ハ晝夜共」トシテ墜道内ニ限り晝夜使用スルコトヲ許サレタリ然ラハ被告人ノ從業者松下盛一、浦田種三郎ハ常ニ晝夜兼行シテ使用消費スヘキ必要量ノ火藥ヲ所持セサルヘカラス言フ俟タス然ルニ火藥類假貯藏所ハ日出後日没前ニ於テ一定ノ時刻ニ非サレハ開扉スルコトヲ許サレズ火藥ノ配給モ亦此ノ時刻ニ非サレハ爲スコト能ハサルモノナルヲ以テ一日間ノ使用見積高ヲ超過セサル數量ノ火藥類ノ配給ヲ受ケタル場合ニ於テハ各現場火藥使用係員ハ何等カノ方法ヲ以テ既ニ使用消費セントスル火藥類ヲ最モ安全ナル保管方法ヲ講セサルヘカラス從テ本件記録添附ノ火藥類使用許可申請書ト題スル書面記載ノ如ク「使用各現場ニハ場所ヲ定メ堅固ナル錠前ヲ附シタル收容匣ヲ備ヘ」此所ニ保管ストノ許可ヲ受ケタリ其ノ數量ハ現ニ各現場ニ於テ使用セントスル數量ヲ超過セサル程度ノモノニシテ許可ヲ受ケタル範圍ノ行爲ナリ而シテ被告人ニ對スル許可ノ範圍カ茲ニアリ其ノ從業員松下盛一、浦田種三郎ノ前記火藥類ノ保管行爲カ法令ニ依リ許容セラレタル行爲ナリト云フニ非サレハ被告人ニ火藥使用許可ヲ與ヘタル目的ヲ達スル能ハサルノミナラス被告人カ火藥類ノ使用及消費ノ許可

ヲ得乍ラ使用スルコト能ハサルニ至ルヘシト云フヘク即火藥類假貯藏所ヨリ一定數量ノ火藥類ノ配給ヲ受ケタリトスルモノノ數量凡テ其ノ配給後直ニ消費爆破スルモノニ非ス工事ノ進行ニ伴フテ順次必要ニ應シテ使用消費スルモノナレハ少クトモ或火藥ニ對シテハ或期間ハ時間的保管ノ觀念ヲ容レサルヘカラサルモノニシテ之ノ保管ヲ目シテ法定外ノ場所ニ貯藏シタルモノナリトシテ處罰ヲ爲サンカ然ラハ火藥ヲ使用セントスル其ノ瞬間ニ火藥庫又ハ火藥類假貯藏所ヨリ必要ノ都度必要數ノミヲ配給セラレ火藥庫又ハ火藥類假貯藏所ハ常ニ開扉シ配給ニ從事セサルヘカラサルニ至ルヘシ之反テ火藥類保管方法ニ危険ヲ醸シ如是行爲ハ反テ取締法規ノ精神ニ反スルモノナリト云ハサルヘカラス依テ本件ノ如ク墜道内ニ於テハ晝夜兼行シテ火藥類ノ使用消費ヲ許可サレタル場合ノ如キハ其ノ一日分ノ配給火藥類ヲ危険ナキ方法ニ依リ收容匣ニ容置シ其ノ必要ニ迫リ消費シタリトスルモ其ノ容置方法ハ銃砲火藥類取締法規上ヨリ見ルトキハ法定ノ火藥類貯藏所以外ノ場所ニ於テ貯藏シタリト云フヘキモノニ非スシテ今ヤ使用又ハ消費セントスル火藥類ノ所持保管ノ一形式ナリト謂フヲ穩當ナリト信ス然ルニ原審カ事茲ニ出テスシテ單ニ之ヲ貯藏トシテ銃砲火藥類取締法規上法定ノ火藥類貯藏所以外ノ場所ニ於テ貯藏シタルモノト認定シタルハ銃砲火藥類取締法ノ解釋ヲ誤リ且重大ナル事實ノ誤認アルヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信ス而シテ若シ被告人從業者松下盛一カ昭和十一年六月十一日朝ヨリ翌十二日午後五時迄徳島縣海部郡三岐田町田井墜道附近

ノ小屋ニ於テダイナマイト百七十三本乃至四十四本工業用雷管約五十個又同上浦田種三郎カ前記期間内ニ同縣同郡同町木岐墜道附近小屋内ニ於テダイナマイト七十二本乃至十四本工業用雷管若干各木製收容匣ニ容置シアルコトカ今ヤ使用消費セントスル火藥類ノ所持ノ觀念ヲ容レラレサル火藥類ニシテ以テ之ヲ銃砲火藥類取締法規上法定ノ火藥類貯藏所以外ノ貯藏ナリト認定セントセハ然ラハ同從業者ハ同期日ニ於テ本件工事遂行上必要ナリトシテ所持スルコトヲ許サルヘキ火藥類ハ何レナリヤ又何程ノ數ヲ以テ法規上適法ナリト云フモノナリヤ或ハ火藥類使用許可ノ目的ヲ達セシムヘキ使用消費所持ノ方法如何換言スレハ被告人カ昭和十一年三月一日附所管警察署長ノ許可ニ基キ火藥類ノ使用消費所持ヲ許容セラレ依テ其ノ從業員松下盛一、浦田種三郎等カ右許可ニ基キ火藥類ヲ使用消費所持スルニ於テ何等不法ナキニ拘ラス之カ使用消費所持ノ方法ニ於テ銃砲火藥類取締法上違反行爲トシテ處罰セサルヘカラサル違法行爲ト云ハンニハ如何ナル所持方法カ適法ニシテ被告人ノ從業者カ如何ナル所持方法ヲ爲シタルニ依テ以テ違法ナリト其ノ事實ヲ摘示シ判決理由ニ於テ説明セサルヘカラス然ルニ原判決ハ其ノ判決理由ニ於テ説明指示スルコトコナシ從テ原判決ハ判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルカ又ハ審理不盡ノ誹ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在レトモ

原判示事實ハ論旨掲記ノ如クニシテ判示工事ニ付其ノ從業者カ判示火藥類ヲ法定ノ貯藏所以外ノ場所タル判示小屋内ニ容置シテ貯藏シタリト謂フニ在ルモノナレハ右ハ火藥類ノ違法貯藏ノ事實判示トシ

【要旨第一】

【要旨第二】

テ缺クル所ナキヲ以テ特ニ非難スヘキ點ナク而モ右判示事實ハ原判決ノ舉示スル證據ニ依リ優ニ之ヲ證明スルニ足リ記録ニ徴スルモ右事實ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルヲ見サルナリ而シテ銃砲火藥類取締法施行規則第二十七條ハ同條ニ明示スル例外ヲ除キ火藥類ハ法定ノ貯藏所以外ノ場所ニハ一切之ヲ貯藏スルコトヲ禁シタル趣旨ノ强行規定ナルコト明ニシテ又同條ニ所謂貯藏トハ單ニ藏置ト謂フノ義ニ外ナラサルカ故ニ其ノ目的又ハ期間ノ長短ノ如キハ敢テ之ヲ問ハサルノ趣意ナリト解スルヲ相當トスヘク隨テ同條所掲ノ例外ニ包含セラレサルコト明白ナル判示火藥類ヲ法定ノ貯藏所以外ノ場所タル判示小屋内ノ木箱ニ容置シタルモノナルコト原判示ノ如クナル以上假令开ハ所論ノ如ク一時保管ノ目的ニ出テタリトスルモ前示法條ニ違反シ火藥類ヲ貯藏シタル責ハ之ヲ免レ得サルモノト謂ハサルヘカラス只記録ニ徴スレハ被告人カ判示工事ニ付所轄官署ヨリ火藥類ノ使用日時場所方法等ニ關シ論旨記載ノ如キ趣旨ノ許可ヲ受ケタルコトヲ知ルニ足レリト雖之ニ依ルモ使用現場ニ於テハ當日使用ノ火藥類ヲ其ノ使用前一時所謂收容匣内ニ收容スル場合アルコトヲ思考シ得ルニ止マリ固ヨリ之ヲ以テ使用現場ニ於ケル火藥類ノ貯藏ヲ容認シタル趣旨ト見ルヲ得サルノミナラス判示貯藏ノ火藥類ハ右ノ如キ場合ノ火藥類ニ該當スルモノニ非サルコト原判決ヲ通覽シテ容易ニ推斷シ得ル所ナリトス加之所論昭和十年十月一日德島縣令第四十號銃砲火藥取締法令執行規程第十五條(論旨ニ引用スル同縣令ノ規定ハ改正以前ノモノニシテ改正後ノ本條ニ該當ス)ニハ銃砲火藥類取締

法施行規則第十八條各號ヲ超過スル火藥類ヲ消費スル者ノ遵守スヘキ事項ヲ列舉シタルモ總テ是本件事案ニ付適切ナル規定ト謂フコトヲ得ス敍上説明シタル所ニ依リ原判決カ判示事實ヲ認定シ之ニ判示法條ヲ間擬シタルコトノ相當ナルヲ知ルヘク隨テ原判決ハ事實誤認若ハ法規ノ解釋ヲ誤リタル失當アルモノニ非サルハ勿論ナルノミナラス論旨第二點末尾所論ノ諸點ノ如キハ判決ニ於テ之ヲ説明スルコトヲ要スル事項ニ非サルヲ以テ原判決ニ於テ判示事實ヲ證據ニ依リ認定シタル理由ヲ明示シアル以上特ニ之等ニ付説明スルコトナキモ何等判斷遺脱又ハ審理不盡等ノ違法アリト謂フヲ得サルモノトス要スルニ原判決ニハ所論ノ違法一トシテ存スルコトナキヲ以テ論旨ハ總テ其ノ理由ナシ以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事徳江治之助關與

○瀆職被告事件(昭和十二年(九)第七一八號 棄却)

(同年六月十六日第三刑事部判決)

飲食店料理屋業者等ノ防犯係タル巡查ニ對スル響應ト瀆職罪

【上告人】 被告人 中野政太郎 辯護人 一和島岩吉
外一名 阿久根幸吉
【第一審】 大阪地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○ 判示事項

飲食店料理屋業者等ノ防犯係タル巡查ニ對スル變應ト瀆職罪

○ 判決要旨

防犯係タル巡查力飲食店料理屋營業其ノ組合及麻雀俱樂部ノ經營者等ヨリ警察取締上便宜寛大ナル取扱ヲ受ケ度旨ノ請託ノ下ニ變應ノ接待ヲ受ケルニ於テハ收賄罪ヲ構成スルモノトス

【參照】 刑法第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人中野政太郎ヲ罰金百圓ニ同稗方利喜雄ヲ懲役二月ニ處ス被告人稗方利喜雄ニ對シ未決勾留日數中右二月ニ相當スル期間ヲ右本刑ニ算入シ同中野

政太郎ニ對シ未決勾留日數中五十日ヲ一日ヲ金二圓ニ折算シテ右罰金刑ニ算入ス被告人稗方利喜雄ヨリ金百九圓三十三錢ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人稗方利喜雄ハ大阪府巡查トシテ昭和七年九月頃ヨリ昭和十年十月頃迄大阪府我警察署ニ勤務シ防犯係ノ職務ニ従事シ被告人中野政太郎ハ同警察署管内ニ於テ飲食店營業ヲ爲シ且昭和七年五月頃ヨリ引續キ同管内飲食店料理業組合ノ組合長ヲ爲シ居リタルモノナルトコロ

第一 被告人中野政太郎ハ右稗方利喜雄ニ對シ前示組合ノ營業等ニ關スル警察取締等ニ付便宜寛大ナル取扱ヲ受ケ度キ旨請託趣旨ノ下ニ

- (一) 昭和八年末頃大阪市南區灘波新地一番丁貸座敷業梅村家ニ於テ金五圓ニ相當スル酒色ノ變應
 - (二) 昭和九年一月十一日頃同市浪速區惠美須町一丁目料亭重の家ニ於テ金四圓二十二錢ニ相當スル酒色ノ變應
 - (三) 同年二月十九日頃右重の家及梅村家ニ於テ金十四圓ニ相當スル酒色ノ變應
 - (四) 昭和十年一月二十五日頃同區惠美須町一丁目料亭福増家ニ於テ金二圓七十九錢ニ相當スル酒色ノ變應
- ヲ爲シ以テ稗方利喜雄ノ右職務ニ關シ贈賄シ

第二 被告人稗方利喜雄ハ

- (一) 前記第一記載ノ各日時場所ニ於テ同記載ノ如キ趣旨ヲ諒知ノ上中野政太郎ヨリ同記載ノ如キ各變應ヲ受ケ
- (二) 右我警察署管内ニ於テ飲食店ヲ經營シ且同管内飲食店料理屋業組合ノ顧問竝昭和八年六月頃以降ハ同管内麻雀同業組合ノ顧問ヲモ爲シ居リタル原審相被告人鬯英男ヨリ右組合ノ營業並其ノ從業者等ニ對スル警察取締等ニ付便宜寛大ナル取扱ヲ受ケ度キ旨ノ請託趣旨ノ下ニ變應接待セラルモノナルコトノ情ヲ知りナカラ
- (イ) 昭和八年六月頃大阪市住吉區山王町飛田遊廓貸座敷業龍田樓ニ於テ金六圓餘ニ相當スル遊興接待

飲食店料理屋業者等ノ防犯係タル巡查ニ對スル變應ト瀆職罪

(ロ) 同年十二月二十八日頃同市南區灘波新地一番丁貸座敷業藤本家ニ於テ金八圓三十三錢ニ相當スル酒色ノ饗應

(ハ) 昭和九年九月頃右灘波新地料亭森田ニ於テ金八圓餘ニ相當スル酒色ノ饗應

(ニ) 同年十二月頃右飛田遊廓貸座敷業某樓ニ於テ金四圓ニ相當スル遊興接待

(ホ) 昭和十年一月十九日頃前記料亭森田及貸座敷業藤本家ニ於テ合計金十五圓七十五錢ニ相當スル酒色ノ饗應ヲ受ケ以テ自己ノ右職務ニ關シ夫々收賄シ

(三) 右戎警察署管内ニ於テ麻雀俱樂部ヲ經營シ居ル松田一雄ヨリ其ノ營業ニ對スル警察取締等ニ付便宜寛大ナル取扱ヲ受ケ度キ旨ノ請託趣旨ノ下ニ饗應接待セラルルモノナルコトノ情ヲ知リナカラ

(イ) 昭和九年九月十八日頃前記梅村家ニ於テ金十二圓六十五錢ニ相當スル酒食ノ饗應

(ロ) 同年十月二十四日頃同市浪速區惠美須町一丁目料亭入山及右梅村家ニ於テ合計金十五圓五十九錢ニ相當スル酒食ノ饗應

(ハ) 同年十二月頃同市南區灘波新地貸座敷業以玉ニ於テ金八圓ニ相當スル酒色ノ饗應

(ニ) 昭和十年二月頃同市住吉區山王町飛田遊廓貸座敷業南大和樓ニ於テ金五圓ニ相當スル遊興接待

ヲ受ケ以テ自己ノ右職務ニ關シ夫々收賄シタルモノニシテ

被告人等ノ右所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人中野政太郎ノ判示所爲ハ刑法第九十八條第一項第五十五條ニ被告人稗方利喜雄ノ判示所爲ハ同法第九十七條第一項前段第五十五條ニ各該當スルヲ以テ被告人中野政太郎ニ對シテハ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ罰金額範圍内ニ於テ同被告人ヲ罰金百圓ニ被告人稗方利喜雄ニ對シテハ所定期刑範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役二月ニ

處スヘク同法第二十一條ニヨリ被告人兩名ニ對シ夫々主文掲記ノ如ク未決勾留日數ノ算入ヲ爲スヘク被告人稗方利喜雄カ收受シタル判示賄賂ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ同法第九十七條第二項後段ニヨリ其ノ價額合計金百九圓三十三錢ヲ追徴スヘキモノトス

被告人稗方利喜雄カ判示職務ニ關シ松田一雄ヨリ昭和十年六月頃大阪市浪速區惠美須町料亭福増家ニ於テ一人前金十圓ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ受ケ以テ收賄シタリトノ公訴事實ニ付テハ犯罪ノ證明ナキモ右ハ同被告人ノ判示第二ノ所爲ト連續一罪トシテ公判ニ付サレタルモノナルヲ以テ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人兩名辯護人と島岩吉上告趣意書第一點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト思料ス原審判決理由ニ依レハ被告人中野カ大阪府巡查戎警察署詰防犯係トシテ警察取締等ニ從事シ居リタル被告人稗方ノ職務ニ關シ饗應接待シタリト云フモ本件饗應接待ノ職務ニ關セサルモノナルコト一件記録上明白ナリ抑々防犯係巡查ノ職務ハ刑事要視察人ノ視察逮捕上ノ執行ニシテ被告人稗方ハ刑事要視察人ノ視察ニ從事シ居リタルモノ(別表參照)被告人中野政太郎ハ自ラ飲食店ヲ營ムト共ニ戎警察署管内ノ飲食店料理屋業組合長ヲ爲シ居リタルモノニシテ何等被告人稗方ノ職務ニ關係ナキ位置ニアリ從テ此ノ間被告人中野ハ被告人稗方ヲ饗應接待スルモ何等便益ヲ期待

飲食店料理屋業者等ノ防犯係タル巡查ニ對スル饗應ト演職罪